

明治三十三年七月一日ヨリ施行ス但シ臨時縣長官ハ暫行ニ於テハ十二歳以上ノ男女ヲシテ混合セシムルコトヲ得ス

よ部

●浴場取締ニ關スル件

客ノ來集ヲ目的トスル浴場ニ於テハ十二歳以上ノ男女ヲシテ混合セシムルコトヲ得ス

●豫約出版法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫約出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫約出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●豫約出版法

一 豫約定價十圓未満ハ金五百圓

一 豫約定價十圓未満ハ金五百圓

更ノ場合ニ於テ承継發行者之ヲ承継ス
 第九條 保證金ハ適法ニ豫約出版ヲ廢絶シ又ハ完全ニ豫約ヲ履行シタル後ニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ豫約解除若ハ豫約不履行ニ因リ代金返還若ハ損害賠償ヲ命スル判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス
 第十條 罰金又ハ刑事訴訟費用ヲ完納セサルトキハ檢察官ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得
 第十一條 發行者又ハ其ノ法定代理人ハ保證金ノ關額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スヘシ
 第十二條 第二條、第四條ノ規定ニ依ラスシテ豫約手續ニ著手シ又ハ第六條若ハ第九條ニ違反シ又ハ管轄地方官廳ノ督促ヲ受ケタル後七日以内ニ保證金ヲ填補セサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十三條 又ハ第五條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十四條 明治三十三年法律第五十二號ハ前條ノ犯罪ニ之ヲ準用ス
 第十五條 本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依リ雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖書ニ之ヲ適用セス

●橫濱正金銀行條例

明治二十九年七月七日
 橫濱正金銀行條例
 第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス
 第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締結スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締結若クハ解約スルコトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具シテ許可ヲ受クヘシ
 第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治三十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得
 第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得
 第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス
 第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ
 第一 外國ノ爲替及荷爲替
 第二 內國ノ爲替及荷爲替
 第三 貸付
 第四 諸預金及保護預
 第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立
 第六 貨幣ノ交換
 第七 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得
 第八條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ
 第九條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス
 第十條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ 第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルコトキ 第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ
 第十一條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返済ノ道

ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニ在ラス
 第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケントキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得
 第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ
 第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ノ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラル、者モ亦同シ(明治二十九年七月七日)
 第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ橫濱正金銀行頭取ヲ兼テシメ又ハ橫濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ
 第十七條 銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス
 第十八條 頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ
 第十九條 橫濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會

●開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ
 第十八條 毎半年利益金ヲ配當スルコトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ
 第十九條 毎半年純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ
 第一 資本金ノ損失ヲ補フコト
 第二 配當金ノ不足ヲ補フコト
 第三 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルコトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ
 第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背反シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得
 又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總會二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス
 第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背反スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危険ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得(明治二十九年七月七日)
 第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

●(上)

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ
 第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ捺捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ捺捺スルコトヲ要セス
 第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス
 第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

大日本帝國憲法... 第一章 天皇... 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス...

大部

大日本帝國憲法

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ... 皇宗ノ神靈ニ語ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ願ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

大日本帝國憲法

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男
子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ
此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ
行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ
命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會
停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災
厄ヲ避ケル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會
ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出ス
ヘシ若シ議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府ハ將
來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ
安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲
メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發シム但シ命令
ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給
ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他
ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項
ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定
ム

第十三條 天皇ハ職ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條
約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授
與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ
依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル
所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ責
務ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公
務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵
役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ
納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居
住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依リニ非スシテ
逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官
ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ
除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及
搜索セララルコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ
除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコ
トナシ

公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依
ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣
民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由
ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言
論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定
ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國
家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨ケル
コトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法
令又ハ紀律ニ牴觸セザルモノニ限リ軍人ニ準
行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ
以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依
リ皇族華族及勳任セラレタル議員ヲ以テ組織
ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ
公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩院ノ議員タルコ
トヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ル
ヲ要ス

第三十八條 兩院院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ
議決シ及各項法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩院院ノ一ニ於テ否決シタル法律
案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得

第四十條 兩院院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付
各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ
其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ
建議スルコトヲ得

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス
必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ延長ス
ルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常
會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅令ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及
停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同
時ニ停會セララルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ
勅令ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨ
リ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩院院ハ各々其ノ總議員三分ノ一
以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲
スコトヲ得

第四十七條 兩院院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス
可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩院院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ
要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコ
トヲ得

第四十九條 兩院院ハ各々天皇ニ上奏スルコト
ヲ得

第五十條 兩院院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ
受クルコトヲ得

第五十一條 兩院院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲ケ
ルモノノ外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定
ムルコトヲ得

第五十二條 兩院院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シ
タル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコト
ナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又
ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般
ノ法律ニ依リ處分セララルヘシ

第五十三條 兩院院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂
外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナ
クシテ逮捕セララルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリト
モ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責
ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大
臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所
ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依
リ裁判所之ヲ行フ

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具
フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ
外其ノ職ヲ免セラルコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ
安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法
律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開
ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ
別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ
侵害セラレタルトキハ訴訟ニシテ別ニ法律
ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキ
モノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラ
ス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スル
ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ
收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國
庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ
協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ
改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ

帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ
 豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル
 支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムル
 ヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ
 第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年
 國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ
 除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲
 出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務
 ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會
 之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ需要ニ因リ政府ハ豫算年限
 ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムル
 コトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ
 爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充
 ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用
 アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國
 議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依
 リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會
 ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又
 ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ
 豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査
 院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ

之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
 會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定
 ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ
 必要アルトキハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ
 議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ議員三分ノ
 二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ
 得ス

出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレ
 ハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ
 經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコ
 トヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間
 之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用
 井タルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ
 法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令
 ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

大赦令
 (昭和二年二月七日)
 朕大赦令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 昭和元年十二月二十五日前左ニ掲グル
 罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一 刑法第七十四條及第七十六條ノ罪
 二 刑法第七十七條乃至第七十九條ノ罪
 三 刑法第九十條乃至第九十四條ノ罪
 四 陸軍刑法第二十五條、第二十六條及第三
 十條ノ罪並其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪
 五 陸軍刑法第三十五條乃至第三十九條ノ罪
 六 陸軍刑法第五十七條乃至第五十九條ノ罪
 七 陸軍刑法第七十三條及第七十四條ノ罪
 八 陸軍刑法第三百三條ノ罪
 九 海軍刑法第二十條、第二十一條及第二十
 五條ノ罪並其ノ未遂罪及豫備又ハ陰謀ノ罪
 十 海軍刑法第三十條乃至第三十四條ノ罪
 十一 海軍刑法第五十五條乃至第五十七條ノ
 罪
 十二 海軍刑法第七十一條及第七十二條ノ罪
 十三 海軍刑法第四百四條ノ罪
 十四 治安警察法違反ノ罪但シ風俗ニ關スル
 モノヲ除ク
 十五 新聞紙法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモ
 ノヲ除ク
 十六 出版法違反ノ罪但シ風俗ニ關スルモ
 ノヲ除ク
 十七 衆議院議員選舉法違反ノ罪及法令ヲ以

立木ニ關スル件

テ組織シタル議會ノ議員ノ選舉ニ關シ同法
 ノ罰則又ハ大正十四年法律第四十七號衆議
 院議員選舉法ノ罰則ヲ準用スル法令違反ノ
 罪

十八 前條ニ掲グル罪ト性質ヲ同ジクスル舊
 法ノ罪

十九 勞働爭議調停法第二十二條ノ罪

二十 明治三十三年法律第三十六號治安警察
 法第三十條ノ罪

二十一 朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋羣島ニ行
 ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ掲グル罪ト
 性質ヲ同ジクスルモノ

第二條 前條ニ掲グル罪ニ該ル行爲ニシテ同時
 ニ他ノ罪名ニ觸ルトキ又ハ他ノ罪名ニ觸ル
 ル行爲ノ手段若ハ結果タルトキハ赦免ヲ爲サ
 ス

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル立木ニ關スル法律ヲ
 裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 (明治四十二年四月五日)

第一條 本法ニ於テ立木ト稱スルハ一筆ノ土地
 又ハ一筆ノ土地ノ一部分ニ植栽ニ依リ生立セ
 シメタル樹木ノ集團ニシテ其ノ所有者カ本法
 ニ依リ所有權保存ノ登記ヲ受ケタルモノヲ謂
 フ

第二條 立木ハ之ヲ不動產ト看做ス
 立木ノ所有者ハ土地ト分離シテ立木ヲ讓渡シ
 又ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得
 土地所有權又ハ地上權ノ處分ノ效力ハ立木ニ
 及ハス

第三條 立木ノ所有者ハ立木カ抵當權ノ目的タ
 ル場合ニ於テモ當事者ノ協定シタル施業方法
 ニ依リ其ノ樹木ヲ採取スルコトヲ妨ケス

第四條 立木ヲ目的トスル抵當權ハ前條ノ規定
 ニ依リ採取ノ場合ヲ除クノ外其ノ樹木カ土地
 ヨリ分離シタル後ト雖其ノ樹木ニ付之ヲ行フ
 コトヲ得

抵當權者ハ債權ノ期限ノ到來前ト雖前項ノ樹
 木ヲ競賣スルコトヲ得但シ其ノ競落代金ハ之
 ヲ供託スヘシ

樹木ノ所有者ハ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所
 ニ相當ノ擔保ヲ供託シテ競賣ノ免除ヲ申立ツ
 ルコトヲ得

樹木ノ所有者ハ抵當權者ニ對シテ一箇月以上

ノ期間ヲ定メ競賣ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコ
 トヲ得若シ抵當權者カ其ノ期間内ニ競賣ヲ爲サ
 サルトキハ其ノ樹木ニ付抵當權ヲ行フコトヲ
 得ス

第一項ノ規定ハ民法第九十二條乃至第九
 十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五條 立木カ土地ノ所有者ニ屬スル場合ニ於
 テ其ノ土地又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タル
 トキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權
 ヲ設定シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間
 及地代ハ當事者ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ酌
 酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六條 立木カ地上權者ニ屬スル場合ニ於テ其
 ノ地上權又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルト
 キハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ノ
 存續期間内ニ於テ其ノ土地ノ賃貸借ヲ爲シタ
 ルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及賃賃ニ付
 テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ地上權ノ存續期間ノ定ナキ
 トキハ其ノ期間ハ當事者又ハ賃借人ノ請求ニ
 依リ地方ノ慣習ヲ酌酌シテ裁判所之ヲ定ム

民法第六百四條及第六百十二條ノ規定ハ第一
 項ノ賃貸借ニ之ヲ適用セス

第七條 前條ノ規定ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ル土
 地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル
 場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地上權者又ハ土地ノ賃借人ニ屬スル立
 木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テハ地上權者
 又ハ賃借人ハ抵當權者ノ承諾アルニ非サレハ

其ノ權利ヲ拋棄シ又ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ス

第九條 立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者カ樹木ノ運搬ノ爲メ土地ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ立木ノ墾落人ハ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ對價ヲ支拂フヘシ

前項ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第十條 第二條第三項及第三條乃至第九條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第十一條 土地又ハ地上權カ質權ノ目的タル場合ニ於テハ其ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 各登記所ニ立木登記簿ヲ備フ

第十三條 不動產登記法第十四條第二項及第十九條ノ規定ハ前項ノ登記簿ニ之ヲ準用ス

第十四條 立木登記簿ハ一箇ノ立木ニ付一用紙ヲ備フ

第十五條 立木登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分テ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

第十六條 登記番號欄ニハ各立木ニ付登記簿ニ始テ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

第十七條 表示欄ニハ立木ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十八條 甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ先取特權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

第十五條 登記ノ申請書ニハ不動產登記法第三十六條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號

二 樹種、數量及樹齡

第十六條 不動產登記法第六條及第七條ノ規定ハ所有權保存ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十七條 所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ保存登記ニ付土地ノ登記簿上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ

第十八條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ土地ノ登記用紙中土地又ハ地上權ノ目的トスル先取特權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ立木登記簿ニ其ノ登記ヲ轉寫スヘシ但シ其ノ登記ニ抵當權カ樹木ニ及ハサル旨ノ記載アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 不動產登記法第八十三條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地ノ登記用紙中表示欄ニ立木ノ登記番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ立木ノ區分ノ登記ヲ爲シタルトキ又ハ立木ノ存スル土地ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二十條 立木ノ登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ前項ノ規定ニ依リテ記載シタル登記番號ヲ抹消シ登記官吏捺印スヘシ

第二十一條 立木ノ分合若ハ滅失アリタルトキ又ハ第十五條第一號及第二號ニ掲ケタル事項ニ變更アリタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ但シ樹木ノ發生若ハ成長又ハ第三條ノ施業方法ニ依ル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

立木ノ存スル土地ノ地目、字、番號又ハ段別ニ變更アリタルトキ亦前項ニ同シ

不動產登記法中建物ノ滅失及其ノ表示ノ變更ノ登記ニ關スル規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十二條 立木ヲ目的トスル抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ不動產登記法第七十七條ニ掲ケタル事項ノ外施業方法ヲ記載スヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年勅令第二百一十一號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行ス)

●立木ノ先取特權ニ關スル件

(明治四十三年四月十六日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル立木ノ先取特權ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

他人ノ土地ノ上ニ立木ヲ有スル者カ土地ノ所有者ニ對シ樹木伐採ノ時期ニ於テ其ノ樹木ノ價格ニ對スル一定ノ割合ノ地代ヲ支拂フヘキ契約ヲ爲シタルトキハ土地ノ所有者ハ地代ニ付其ノ立木ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス但シ民法第三百二十九條第二項但書ノ適用ヲ妨ケス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年勅令第二百二十二號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行ス)

●立木登記規則

(明治四十三年四月二十六日)

立木登記規則左ノ通相定ム

第一章 立木登記規則

第一條 明治四十二年法律第二十二號ニ依リ立木ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動產登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 立木登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 立木共同人名簿ハ附錄第二號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 立木登記見出帳ハ附錄第三號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 立木登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテヲ設ケ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ立木ノ存スル土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ其ノ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入シ若樹木ノ生立スル部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號ヲモ記入スヘシ但シ立木ノ存スル土地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少ナキ番號ノ部ニ之ヲ記入スヘシ

第六條 既登記ノ地上權者ノ申請ニ因リ立木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ地上權ノ順位番號ヲモ記入スヘシ

第七條 第四條ニ定メタル雜形ノ見出帳ヲ使用

記載シ申請人署名捺印スヘシ
 一 立木所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號
 二 樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號
 三 立木ノ存スル土地又ハ土地ノ部分ノ境界ニ道路、河川、湖海、沼池其ノ他境界ノ目標タルヘキモノアルトキハ其ノ名稱及位置
 四 鄰接地ノ番號並地目及其ノ所有者ノ氏名
 五 立木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ存スル場合ニ於テハ其ノ部分ニ鄰接スル他ノ部分ノ表示
 六 七 鄰接スル土地又ハ土地ノ部分ニ生立スル樹木ノ所有者カ土地ノ所有者ト異ナルトキハ其ノ樹木ノ所有者ノ氏名
 第十四條 市區町村ニ地方長官ノ認可ヲ得テ作製シタル立木ニ關スル實測圖面及公簿ノ備アルトキハ登記ノ申請書ニ其ノ圖面及公簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ此ノ圖面ハ前條ニ掲ケタル事項ヲ具備スルコトヲ要ス
 第十五條 登記所カ市區町村ヨリ實測圖面ノ謄本ヲ送付ヲ受ケタルトキハ便宜整理シ永久ニ之ヲ保存スヘシ(大正五年同條舊條)
 第十六條 抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ記載スヘキ施業方法カ詳密ニ涉ルトキハ申請書ノ記載ニ代ヘ其ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

載ニ代ヘ其ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
 第十六條 前條ノ添附書面ニハ申請人之署名捺印シ且其ノ書面カ數葉ニ涉ルトキハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル
 第十七條 第十五條ノ添附書面ハ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ且之ニ丁數ヲ附スヘシ
 第十八條 第十五條ノ場合ニ於テ登記官吏カ乙區事項欄ニ抵當權設定ノ登記ヲ爲ストキハ施業方法ヲ記載シタル添附書面ノ提出アリタル旨ヲ記載シ登記ノ末尾ニ其ノ書面ノ綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載シ且添附書面ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、登記番號及順位番號ヲ記載スヘシ
 第十九條 添附書面ニ掲ケタル施業方法ノ變更ノ登記ノ申請書ニ於テハ申請書ニ其ノ變更ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
 第二十條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス
 第二十一條 登記官吏カ添附書面ニ掲ケタル施業方法ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ添附書面中變更シタル事項ヲ朱抹シ其ノ餘白ニ變更ヲ記載シタル書面ノ冊數及丁數ヲ記入スヘシ
 第二十二條 前三條ノ規定ハ添附書面ニ掲ケタル事項ノ更正ノ登記ニ之ヲ準用ス

ル事項ノ更正ノ登記ニ之ヲ準用ス
 附則
 本令ハ明治四十二年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 (附録略ス)

代書人規則

(大正九年十一月二十五日)

代書人規則左ノ通定ム
 代書人規則
 第一條 本令ニ於テ代書人ト稱スルハ他ノ法令ニ依ラスシテ他人ノ囑託ヲ受ケ官公署ニ提出スヘキ書類其ノ他權利義務又ハ事實證明ニ關スル書類ノ作製ヲ業トスル者ヲ謂フ
 第二條 代書人タル者ハ本籍、住所、氏名、年齢及履歴並事務所ノ位置ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス
 第三條 代書人其ノ業務ノ爲補助員ヲ使用セムトスルトキハ本人ノ本籍、住所、氏名、年齢及履歴ヲ具シ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス
 第四條 代書人ハ其ノ事務所ニ代書人某事務所ト記載シタル表札ヲ掲ケヘシ
 第五條 代書人ハ事務所以外ノ場所ニ於テ其ノ業務ニ従事スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第六條 代書人ハ代書料額ヲ定メ主タル事務所所在地所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 第七條 代書人ハ前條代書料ノ外何等ノ名義ヲ

代書人規則

以テスルモ其ノ業務ニ關シ報酬ヲ受ケルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ警察官署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 代書人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス
 第九條 代書人及其ノ補助員ハ左記各號ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 一 法令ノ規定ニ依リニ非サシテ他人ノ訴訟、訴訟又ハ非訟事件ニ關シ代理、鑑定、勸誘、紹介又ハ仲裁其ノ他之ニ類スル行爲ヲ爲スコト
 二 囑託セラレタル事件ニ付利害ヲ異ニスル他ノ者ノ爲ニ代書ヲ爲スコト
 三 業務上知得シタル事項ヲ他人ニ漏泄スルコト
 四 書類ノ紙數ヲ増加スル目的ヲ以テ故ラニ文句ヲ冗長ニシ若ハ必要以外ノ書類ヲ作製スルコト
 五 代書囑託者ノ印類又ハ其ノ署名捺印若ハ押印シタル白紙ヲ領置スルコト
 六 事務所ヲ他人ノ法律事務所ニ貸與シ又ハ之ヲ他人ノ法律事務所ニ置クコト
 第十條 代書人ハ其ノ代書シタル書類ノ末尾又ハ欄外ニ署名捺印スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アルモノ又ハ書翰ノ類ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第十一條 代書人ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ五日以内ニ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 本人又ハ補助員ノ本籍、住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキ
 二 事務所ヲ變更、増設又ハ廢止シタルトキ
 三 補助員死亡シ又ハ之ヲ廢罷シタルトキ
 四 廢業シタルトキ
 代書人死亡シタル場合ニ於テハ戸主又ハ同居ノ家族ヨリ五日以内ニ主タル事務所所在地所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 第十二條 代書人ハ代書事件簿ヲ備ヘ代書ヲ爲シタル都度囑託ヲ受ケタル事件ノ名稱、年月日、書類ノ紙數、代書料及囑託者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ
 代書人ハ代書事件簿閉鎖後一年間之ヲ保存スヘシ代書人業務ノ許可ヲ取消サレ又ハ廢業シタルトキ亦同シ
 第十三條 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ代書人ノ事務所ニ臨檢シ又ハ代書事件簿ヲ檢閲セシムルコトヲ得
 第十四條 代書人業務上ノ義務ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スト認メラルトキ又ハ六月以上所在不明ナルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ地方長官ヲハ東京府ニ在リテハ該府、他府縣ニ在リテハ該府縣ノ警察官署ニ停止ヲ命ジ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
 第十五條 補助員業務上ノ義務ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認メラルトキハ主タル事務所所在地所轄警察官署ハ使用ノ認可ヲ取

消スコトヲ得
 第十六條 第二條、第三條、第十四條及第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ハ其ノ所屬廳府縣ノ管内ニ效力ヲ有ス
 第十七條 本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 一 第七條、第九條ノ規定ニ違反シタル者
 二 代書事件簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ若ハ第十三條ノ規定ニ依ル警察官吏ノ臨檢又ハ檢閲ヲ拒ミタル者
 三 第十四條ノ規定ニ依ル業務停止ノ處分ヲ受ケ其ノ期間中業務ヲ營ミタルモノ
 四 第十五條ノ規定ニ依ル警察官署ノ處分ニ違反シテ補助員ヲ使用シタル者
 第十九條 第三條乃至第六條、第八條、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
 第二十條 代書人ハ其ノ業務ニ關シ補助員ノ爲シタル行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テタルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
 附則
 第二十一條 本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十二條 本令施行ノ際現ニ許可ヲ受ケテ代書ノ業トスル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム
 日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限り無利子ヲ以テ政府ヘ貸付スヘシ(明治二十三年法律第三)

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及毎週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且毎週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ(明治二十一年法律第九)

兌換銀行券條例

改正 明治十八年第九號、二十年勅令第五九號、二十三年法律第三四號、三〇年勅令第一八號、三二年勅令第五號
 兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス
 但明治七年九月百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス
 右奉 勅旨布告候事
 (別紙)
 第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス(明治三十年法律第十)

前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム
 日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限り無利子ヲ以テ政府ヘ貸付スヘシ(明治二十三年法律第三)

第九條 大藏卿ハ日本銀行管理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但管理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及帳簿ヲ檢査スルコトヲ得
 第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ
 第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ
 第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

兌換銀行券條例

●建物保護ニ關スル件

(明治四十二年五月一日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル建物保護ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借ハ其ノ登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

●帶刀禁止

(明治九年三月二十八日)

自今大禮服用並ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告

但違犯ノ者ハ其刀可取上事

●第三種郵便物認可規則

(明治四十年八月十七日)

第三種郵便物認可規則左ノ通相定ム

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ發行地所轄ノ通信局ノ願出ツヘシ

第四條ノ一 本規則ニ依ル認可ノ效力ハ認可ヲ受ケタル號ヨリ發生スルモノトス

最後發行ノ次ノ定日ヨリ起算シ三十日ヲ過キテ發行セサルトキハ效力ヲ失フ

第四條ノ二 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行ハ其ノ定期刊行物發行ノ際

之ヲ差出スヘキ郵便局ノ願出ツヘシ

第五條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行ハ其ノ發行毎ニ先ツ發行地所轄

ノ通信局及其ノ指定シタル郵便局ニ見本各一部ヲ差出スヘシ

第六條 第三條第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ發行地所轄

ノ通信局ニ願出テ其ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第三條第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ其ノ發行地所轄

ノ通信局ニ願出テ其ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行ハ其ノ發行毎ニ先ツ發行地所轄

ノ通信局及其ノ指定シタル郵便局ニ見本各一部ヲ差出スヘシ

第九條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行ハ其ノ發行毎ニ先ツ發行地所轄

ノ通信局及其ノ指定シタル郵便局ニ見本各一部ヲ差出スヘシ

其認可ヲ受クヘシ

第七條 第三條及前條第一項及第三項ノ出願人ハ左記ノ割引ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

一 新ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ第三條中ノ二事項以上變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金十圓

二 第三條中ノ一事項ニ對シ變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金五圓

三 前項ノ手数料ハ郵便局ノ指示ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第八條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物及其ノ臨時増刊並其ノ發行地所轄

ノ通信局ニ願出テ其ノ認可ヲ取消スヘシ

第九條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニ對シテハ其ノ發行地所轄

ノ通信局ニ願出テ其ノ認可ヲ取消スヘシ

第十條 本規則ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 從來ノ規定ニ依リ現ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニシテ本規則ニ

抵觸セスシテ發行スルモノハ尙其ノ效力ヲ有ス

第三種郵便物認可規則

煙草專賣法

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル煙草專賣法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム
改正 明治四〇年第二號第五〇號、大正八年第三
〇號、一〇年第一六號、一二年第一三號、一
四年第二三號

第一條 煙草ノ製造ハ政府ニ專屬ス
第二條 煙草ハ政府及政府ノ命ヲ受ケタル者ニ
非サレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス
第三條 煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サ
レハ之ヲ耕作スルコトヲ得ス
第四條 煙草耕作ノ收穫シタル葉煙草ハ政府
之ヲ收納ス
第五條 煙草ノ耕作區域ハ政府之ヲ定ム
第六條 政府ハ毎年耕作スヘキ煙草ノ種類、耕
作段別及葉煙草ノ賠償價格ヲ定メ豫メ之ヲ公
示ス
第七條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ毎年煙草苗
床ノ位置及坪數、煙草耕作地ノ位置及段別、
煙草ノ種類、本數、乾燥場及藏置場ヲ定メ政
府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更シ又
ハ耕作ヲ廢止セムトスルコト亦同シ
第八條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セム
トスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ政
府ニ届出ヘシ
第九條 煙草耕作者ニ非サレハ煙草苗ヲ育成ス

ルコトヲ得ス
第十條 煙草苗ノ讓渡及讓受ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
政府ノ許可ヲ受クヘシ
第十一條 煙草耕作者ハ政府ノ定ムル方法及手續
ニ依リ其ノ耕作ヲ完成スル義務ヲ負フ
第十二條 政府ハ收穫前ニ於テ葉煙草ノ收穫量
目ヲ査定ス但シ査定ノ必要ナシト認ムルトキ
ハ之ヲ省略スルコトヲ得
第十三條 煙草耕作者ハ之ニ立
會フヘシ若シ立會ハサルトキハ其ノ査定ニ對シ
異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
第十四條 煙草耕作者前條ノ量目ノ査定ニ不服
ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
第十五條 煙草耕作者前條ノ量目ノ査定ニ不服
異議ノ申立アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ
依リ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵
シ政府之ヲ決定ス
第十六條 鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ量目ト前項
決定額トノ差カ前條ノ査定額ト前項決定額ト
ノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ異
議申立人ノ負擔トス
第十七條 煙草耕作者前條ノ査定ヲ受ケル
場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ
其ノ査定前ニ於テ葉煙草ヲ採取シ又ハ幹根ヲ
拔除スルコトヲ得ス第十二條ニ依リ異議ノ申
立ヲ爲シタル者其ノ決定前ニ於テ亦同シ
第十八條 煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタル
トキハ直ニ其ノ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附著ス
ル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ

煙草專賣法

前項金額ヲ納付セシムルコトヲ得
第十九條 煙草耕作者其ノ耕作段別ヲ減少シ又
ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承
繼スル者ナキトキハ政府ハ其ノ現在スル煙草
又ハ煙草苗ヲ廢棄セシムルコトヲ得
第二十條 煙草耕作者ノ葉煙草ハ其ノ耕作地、
乾燥場、藏置場又ハ其ノ收納官署ノ外他ニ之
ヲ運送スルコトヲ得ス
第二十一條 政府ハ必要ト認ムルトキハ葉煙草運送ノ通路
及時間ヲ指定スルコトヲ得
第二十二條 政府ハ煙草耕作者ノ組織スル組
合又ハ其ノ聯合組合ニ對シ專賣事務執行上必
要ナル施設ヲ爲シ又ハ其ノ補助ヲ爲スヘキコ
トヲ命スルコトヲ得
第二十三條 前項ノ組合又ハ聯合組合ニ對シ命令ノ定ムル
所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ交付金ヲ下付ス
ルコトヲ得
第二十四條 煙草耕作者ノ耕作シタル煙草カ
移植後收穫前ニ於テ風害、水害、雹害、旱害
又ハ病害ニ罹リ著シキ損害ヲ被リタルトキハ
政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ煙草耕作者ニ損
害ノ一部ニ對スル補償金ヲ交付スルコトヲ得
第二十五條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ
特設シ煙草ノ試作ヲ爲サントスルトキハ命令
ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ試作ニ關シテハ第四條、第七條、第九
條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ
規定ヲ準用ス
第二十六條 製造煙草ハ政府又ハ政府ノ指定シ
タル煙草元賣捌人若ハ煙草小賣人ニ非サレハ
之ヲ販賣スルコトヲ得ス
第二十七條 煙草賣捌人及販賣ニ關スル規定ハ命令
ヲ以テ之ヲ定ム
第二十八條 煙草小賣人ハ政府ノ定メタル價格
ヲ以テスルニ非サレハ製造煙草ヲ消費者ニ販
賣スルコトヲ得ス
第二十九條 煙草賣捌人ハ政府ノ封緘ヲ施シタ
ル製造煙草ノ包裝ヲ開披シ若ハ之ヲ改裝シ又
ハ包裝ノ破損シタル製造煙草ヲ販賣スルコト
ヲ得ス
第三十條 輸出ノ爲メ葉煙草又ハ製造煙草ノ賣
渡ヲ請求スル者アルトキハ政府ハ特ニ定メタ
ル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得
第三十一條 前項煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ帳簿ヲ開製シ其ノ營業ニ關スル事項
ヲ記載スヘシ
第三十二條 輸出ニ供スル煙草ヲ製造セムトスル者ノ爲メ政
府ハ一定ノ地域ニ於テ煙草自由倉庫ヲ設置シ
又ハ其ノ設置ヲ特許スルコトヲ得
第三十三條 煙草自由倉庫及其ノ特許ニ關スル規定ハ命令
ヲ以テ之ヲ定ム
第三十四條 前條ニ依リ輸出ノ爲メ葉煙草又ハ製
造煙草ヲ買受ケタル者ハ政府ノ指定シタル期
間内ニ輸出免狀ニ外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタ

種子ノ採取又ハ二番葉ノ收穫ヲ爲サントスル
者ハ政府ノ許可ヲ受クヘシ
第三十五條 前項ノ場合ニ於テ採取又ハ收穫ヲ終リタルト
キハ第一項ノ處置ヲ爲スヘシ
第三十六條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ハ乾
燥調理ノ後政府ニ納付スヘシ
第三十七條 煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ乾
燥調理ノ後政府ノ命ヲ受ケタル者ニシテ政府ノ
納付ノ期日及場所ハ政府之ヲ定ム
第三十八條 煙草耕作者ノ收穫シタル葉煙草ニシテ政府ノ
納付ニ適セサルモノハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ
廢棄スヘシ
第三十九條 煙草耕作者ノ納付シタル葉煙草ハ乾
燥人ヲシテ之ヲ鑑定セシメ其ノ等級ニ依リ賠
償金ヲ交付ス
第四十條 煙草耕作者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑
定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シ
タルトキハ此ノ限ニ在ラス
第四十一條 再鑑定申立人ノ主張ニ係ル葉煙草ノ等級ト再
鑑定等級トノ差カ第一項ノ鑑定等級ト再鑑定
等級トノ差ヨリ大ナルトキハ再鑑定ニ關スル
費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス
第四十二條 鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十三條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政府
ノ査定若ハ決定シタル量目以上ノ葉煙草ヲ納
付セサルトキハ政府ハ其ノ不足額ニ對シ第十
八條第二項ノ規定ニ準シ算定シタル金額ノ
三倍以下ヲ納付セシムルコトヲ得
第四十四條 煙草耕作者私ニ耕作段別ヲ減少シ又
ハ耕作ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ減作地
又ハ廢作地ニ生産スヘキ葉煙草ノ價格ニ相當

ニ比シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ
政府ハ輸出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ第二十
三條ノ賣渡價格ト第二十五條ノ賣渡價格トノ
差額ニ相當スル金額ノ二倍以下ヲ納付セシム
第三十一條 政府ハ標本ニ供スルモノニ限リ業
標草ヲ交付シ又ハ標草ノ輸入ヲ許可スルコト
ヲ得
標本ニ供スル標草ハ政府ノ許可ヲ受ケ標本ト
シテ他ニ讓渡シ又ハ試驗ノ用ニ供シ又ハ廢棄
スルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ス
第三十二條 健康上若ハ習慣上缺クヘカラサル
製造標草ハ自用ニ供スルモノニ限リ自用者ニ
於テ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ輸入スルコトヲ得
第三十三條 輸出ノ爲買受ケタル標草ハ政府ノ
許可ヲ受ケタル場所ニ非ヤレハ之ヲ讓渡スル
コトヲ得ス
第三十四條 何人ト雖本法ニ於テ認メタル場合
ノ外葉標草、政府ノ證書ヲ附セサル製造標草
又ハ標草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所持
シ、讓渡シ若ハ讓受ケルコトヲ得ス
前項ノ物件ハ本法ニ依リ沒收スル場合ノ外政
府ニ於テ之ヲ處分ス
第三十五條 何人ト雖營業ノ目的ヲ以テ標草ニ
代用スヘキ物品ヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ
得ス
第三十六條 煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ハ
政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ヤレハ之ヲ製作
シ、販賣シ又ハ讓渡スルコトヲ得ス
第三十七條 煙草耕作者、試作者又ハ煙草製造

專用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販賣者若ハ
藏置者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ政府ハ耕作、試作、藏置又ハ
營業ノ許可ヲ取消スルコトヲ得
第三十八條 政府ハ煙草ノ苗床、耕作地、試作
地、乾燥場、藏置場又ハ煙草苗、標草若ハ煙
草製造器具機械及卷紙ノ所在ト認ムル場所又
ハ標草苗、標草若ハ煙草製造器具機械及卷紙
ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ
得
當該官吏ハ前項ノ檢査ニ際シ必要ト認ムルト
キハ關係人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得
第三十九條 行政執行ノ手續ニ依リ費用ヲ納付
セシムル場合ニ於テ義務者ニ交付スヘキ金額
アルトキハ之ヲ差引スルコトヲ得
第四十條 本法ノ規定ニ依リ納付セシムヘキ金
額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用
スルコトヲ得
第四十一條 政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケシテ
標草ノ輸入ヲ圖リ若ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者
ハ其ノ標草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處
シ其ノ標草ヲ沒收ス但シ其ノ罰金額ハ百圓ヲ
下ルコトヲ得ス(明治三十二年法律第
四十一條ノ二)
前項ノ價格ハ其ノ標草ノ生産地又ハ仕入地ニ
於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他
輸入地ニ到着スル迄ノ諸費及輸入税ニ相當ス
ル金額ヲ加ヘタルモノトス
第四十二條 第三條又ハ第九條第一項ニ違
反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處

シ其ノ犯罪ニ係ル標草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收
ス許可ヲ受ケシテ試作ヲ爲シタル者亦同シ
(同上ノ二)
第四十二條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル土地ニ
煙草ヲ耕作シ若ハ煙草苗ヲ育成シ又ハ許可ヲ
受ケサル種類ノ煙草ヲ耕作シ又ハ許可ヲ受ケ
シテ煙草苗ヲ讓渡シ若ハ讓受ケタルトキハ
五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係
ル標草又ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス
第四十三條 煙草耕作者許可ヲ受ケサル場所ニ
葉煙草ヲ乾燥シ又ハ藏置シタルトキハ五圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙
草ハ之ヲ沒收ス
情ヲ知リテ前項ノ場所ヲ供與シタル者ハ五圓
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十四條 第十三條ニ違反シタル者ハ五圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙
草ハ之ヲ沒收ス
第四十五條 第十四條及第十九條ニ依リ葉煙草
ヲ讓渡スヘキ者其ノ葉煙草ヲ收穫シ又ハ種子
ヲ採取シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金
ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草又ハ種子ハ之ヲ
沒收ス
第四十六條 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ
依リニ非シテ第二十條第一項ニ違反シ又ハ
政府ノ指定シタル道路若ハ時間ニ依ラスシテ
葉煙草ヲ運送シタル者ハ五圓以上五十圓以下
ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙草ハ之ヲ沒
收ス

第四十七條 煙草耕作者正當ノ事由ナクシテ政
府ノ指定シタル納付期日ニ葉煙草ヲ納付セサル
トキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十八條 政府ニ納付スヘキ葉煙草若ハ他ニ讓
渡シ又ハ消費シ又ハ隱蔽シタル者ハ十圓以上
五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙
草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ
情ヲ知リテ葉煙草隱蔽ノ場所ヲ供與シタル者
ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十九條 煙草賣捌人ニ非シテ製造標草ヲ
販賣シ又ハ販賣ノ準備ヲ爲シタル者ハ十圓以
上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製
造標草ハ之ヲ沒收ス
第五十條 第二十三條又ハ第二十四條ニ違反シ
タル者ハ五圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十一條 煙草輸出者標草ヲ製シ又ハ其
ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十二條 第二十七條ニ違反シタル者ハ三十
圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル
標草ハ之ヲ沒收ス之ヲ讓受ケタル者亦同シ
第五十三條 第三十一條第二項ニ違反シタル者
ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ標草
ヲ讓受ケタル者亦同シ
第五十四條 第三十二條ニ依リ輸入シタル標草
ヲ他ニ讓渡シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰
金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル標草ハ之ヲ沒收ス
第五十五條 第三十三條ニ違反シタル者ハ五圓
以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル

場所ヲ供與シタル者亦同シ
第五十六條 許可ヲ受ケサル者ノ耕作若ハ試作
シタル葉煙草又ハ煙草耕作者、試作者ニ非サ
ル者ノ育成シタル煙草苗又ハ權利者ノ不明ナ
ル葉煙草若ハ煙草苗ヲ所持シタル者ハ十圓以
上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル葉煙
草若ハ煙草苗ハ之ヲ沒收ス
第五十七條 第三十四條第一項ニ違反シテ製造
標草ヲ所持シ、讓渡シ又ハ讓受ケタル者ハ煙
草賣捌人ニ在リテハ百圓以上千圓以下ノ罰金
ニ處シ其ノ他ノ者ニ在リテハ十圓以上三百圓
以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル製造標草ハ
之ヲ沒收ス
第五十八條 私自ニ煙草ヲ製造シ又ハ製造ノ準備
ヲ爲シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處
シ其ノ犯罪ニ係ル標草及煙草製造器具機械及
卷紙ハ之ヲ沒收ス
第五十九條 第三十五條ニ違反シタル者ハ十圓
以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル物
品並其ノ原料、製造器具機械及卷紙ハ之ヲ沒
收ス
第六十條 第三十六條ニ違反シタル者又ハ權利
者不明ノ煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ヲ所
持シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ
處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草製造専用ノ器具機械
及卷紙ハ之ヲ沒收ス
第六十一條 本法ノ犯罪ニ係ル物件ヲ他ニ讓渡
シ若ハ消費シタルトキ又ハ其ノ物件ニシテ他
ニ所有者アル爲沒收スルコトヲ得サルトキハ

其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徵ス
第六十二條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯
ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之
ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ十圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ刑法ニ正條アル
モノハ刑法ニ依ル
第六十三條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、
煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販
賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者カ未成年者又
ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ
發スル命令ノ規定ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則
ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關
シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付
テハ此ノ限ニ在ラス
第六十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令
ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及
數罪併發ノ例ヲ用井ス
第六十五條 煙草耕作者、試作者、煙草賣捌人、
煙草製造専用ノ器具機械及卷紙ノ製作者、販
賣者若ハ藏置者又ハ煙草輸出者ハ其ノ代理
人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從
業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基
キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指
揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルコト
ヲ得ス
第六十六條 明治三十三年法律第五十二號ノ規
定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル
犯罪ニ之ヲ準用ス
第六十七條 間接國稅犯則者處分法ハ本法又ハ

本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ之ヲ準用ス但シ本法ニ定メタル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第六十八條 本法ハ明治三十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條第二項及第七十三條ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十九條 本法施行ノ際ニ於ケル葉煙草耕作者ハ本法ニ依リ葉煙草耕作者ト看做ス

第七十條 左記ノ物件ハ政府之ヲ徵收シ之ニ對シ補償金ヲ交付ス

一 明治三十七年六月三十日ニ現在スル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙但シ刻煙草製造専用ノモノヲ除ク

二 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル刻煙草製造専用ノ器具機械

三 明治三十八年三月三十一日ニ現在スル葉煙草

第七十一條 本法施行ノ際政府ノ保管ニ係ル輸出入葉煙草ニ關シテハ本法施行後ト雖仍舊葉煙草專賣法ヲ適用ス

ル刻煙草以外ノ煙草製造業者ノ所有ニ係ル葉煙草ハ明治三十八年三月三十一日迄ハ刻煙草製造業者若ハ葉煙草賣買業者ニ限り之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ所有スルコトヲ得但シ外國產葉煙草ニ限り明治三十七年七月二十日迄ニ其ノ買上ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第七十五條 政府ハ煙草製造業者ニ對シ其ノ請求ニ依リ煙草賣渡代金ノ二割ニ相當スル金額ヲ交付シ其ノ額金五百圓ニ滿タサル者ニ對シテハ金五百圓ヲ交付ス但シ煙草製造用ノ建物及其ノ敷地ヲ所有スル者ニシテ其ノ建物及敷地ノ全部ノ徵收ハ買上ヲ受ケサル者ニ對シテハ尙交付金ニ相當スル金額ノ六分ノ一ヲ増給ス

第一項及第二項ノ賣渡代金ハ明治三十五年ヨリ明治三十六年ニ至ル二箇年間ノ賣渡代金ノ平均高ニ依リ明治三十五年二月以後ニ其ノ營業ヲ開始シタル者ハ明治三十六年ノ賣渡高ニ依リ(同上ヲ以テ)

及第七十二條、第七十四條ノ買上價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議整ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

買業者又ハ外國產原料ヲ以テ外國若ハ内地ニ於テ製造シ且商標ヲ有スル煙草ノ全國一手販賣業者ニ在リテハ明治三十八年三月三十一日迄ニ其ノ所貯ニ係ル刻煙草以外ノ製造煙草ノ種類數量ヲ明治三十七年七月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ

違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八十六條 葉煙草專賣法ニ違反シタル者ニハ本法施行後ト雖仍同法ヲ適用ス
 第八十七條 本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ之ヲ施行セズ
 本法ヲ施行セサル地ト本法施行地トノ間ニ於ケル煙草ノ移入移出ニ關シテハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 政府ノ外本法ヲ施行セサル地ヨリ煙草ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯シタル者ハ十圓以上十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル煙草ハ之ヲ沒收ス
 第八十八條 明治三十八年ニ於テハ煙草製造業者及葉煙草買業者ニ係ル免許料ハ之ヲ徵收セズ
 明治三十七年ニ於ケル割煙草以外ノ製造業者ニ係ル免許料ハ其ノ十二分ノ六ヲ還付ス
 第八十九條 第七十條、第七十三條ノ補償金、第七十二條、第七十四條ノ買上金及第七十五條ノ交付金ニ充ツル爲メ政府ハ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得
 第七十五條ノ交付金ハ國庫債券ヲ以テ之ヲ給付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ現金ヲ以テ之ヲ給付ス
 第七十條、第七十三條ノ補償金及第七十二條、第七十四條ノ買上金ハ本人ノ請求ニ依リ國庫債券ヲ以テ給付スルコトアルヘシ
 國庫債券ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ

附シ發行ノ年ヨリ七箇年以内ニ之ヲ償還ス但シ第七十五條第二項ニ依リ交付スル國庫債券ニ限り發行ノ年ヨリ十箇年以内ニ之ヲ償還ス
 (同上ノ以テ)
 國庫債券ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外整理公債條例ニ準據ス

●煙草專賣法施行細則
 (明治三十七年五月二十八日)
 (大藏省令第十九號)
 改正、明治四〇年第一九號、四一年第三七號、四二年第四五號、四三年第三二號、四四年、四五年、一〇年第四一號、一一年第四九號、二一年第九一號
 煙草專賣法施行細則左ノ通相定ム
 第一條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ地方專賣局長ノ定ムル期間内ニ第一號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ(明治三十七年四月十九號ヲ以テ改正)
 前項耕作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ノ許可證ヲ交付スヘシ
 第二條 地方專賣局長ハ左ノ順序ニ依リ煙草ノ耕作ヲ許可スヘシ(同上)
 一 前年ニ於テ煙草ノ耕作、乾燥、調理、包裝、品質等他ノ模範トナルヘキモノト認メラレタル者
 二 前年迄煙草ノ耕作ヲ繼續シタル者
 三 本年新規耕作ヲ申請セル者
 第三條 地方專賣局長ハ耕作許可申請ニ係ル段別カ申請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シテ適當ナリト認ムルトキハ其ノ段別ヲ減少シテ許可スルコトアルヘシ(同上)
 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス
 一 煙草賣捌人

二 煙草製造専用ノ器具機械又ハ巻紙ノ製作者、販賣者又ハ設置者
 三 煙草ノ輸出又ハ移出ヲ業トスル者
 四 前各號ノ一ニ該當スル者ト同一ノ家ニ在ル者又ハ其ノ同居者
 第五條 地方專賣局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ煙草耕作ヲ許可セサルコトアルヘシ(同上)
 一 煙草ニ關スル法令ニ違反シタル者
 二 煙草耕作ノ成績不良ナリシ者
 三 不適當ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
 四 取締上不便ト認ムル場所ニ煙草ヲ耕作、乾燥又ハ設置ヲ爲サムトスル者
 五 段別五畝未滿ノ土地ニ煙草ヲ耕作セムトスル者
 六 其ノ他煙草耕作者タルニ不適當ナリト認ムル者
 第六條 煙草耕作者苗床ノ場所、坪數、煙草耕作地ノ場所、段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及設置場ヲ變更増減シ又ハ耕作ヲ廢止セムトスルトキハ第一號書式ニ準シ所管地方專賣局ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ(同上)
 第七條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ其ノ耕作許可證並第三號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ(同上)
 相續ニ因リ其ノ耕作ヲ承繼シタルトキハ其ノ耕作許可證並第四號書式ノ申請書ヲ所管地方

專賣局ニ差出シ耕作許可證ノ交付ヲ受ケヘシ(同上)
 第八條 煙草耕作者其ノ耕作段別ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ煙草專賣法第三十七條ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ
 第九條 煙草耕作者煙草苗ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲サムトスルトキハ第五號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出シ許可ヲ受ケヘシ(同上)
 第十條 煙草耕作者其ノ許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ所管地方專賣局ニ申請スヘシ(同上)
 第十一條 左ニ掲ケル事項ハ地方專賣局長ノ指示スル所ニ從フヘシ(同上)
 一 種子ノ採取
 二 苗床ノ設備及其ノ管理
 三 播種期
 四 移植期
 五 畦間株間ノ距離
 六 除草ノ摘播
 七 其ノ他ノ耕作方法
 八 葉分ノ選別
 九 乾燥方法
 十 葉製ノ方法
 十一 一把ノ葉數
 十二 一包ノ把數又ハ量目
 十三 一包ノ把數又ハ量目
 十四 結束材料

十五 包裝ノ方法
 第十二條 煙草ヲ移植ヲ了シタルトキハ殘存セザル煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ殘存苗トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得
 第十三條 煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所毎ニ字、地番、氏名及許可番號ヲ記シタル目録ヲ設ケヘシ
 第十四條 煙草專賣法第十一條ノ規定ニ依リ葉煙草ノ收穫量目ヲ査定セムトスルトキハ地方專賣局長ハ査定ヲ受ケヘキ煙草耕作者、煙草耕作區域及査定期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ(天正十二年六月號省令)
 第十五條 地方專賣局長ハ之ヲ公示スヘシ
 第十六條 煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルトキハ即時異議申立簿ニ其ノ不服ノ要領ヲ記入シ捺印スヘシ(天正十二年六月號省令)
 第十七條 煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ選定スヘキ鑑定人ハ地方專賣局長ニ於テ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局員以外ヨリ選定スルモノトス(明治三十七年四月十九號ヲ以テ改正)
 第十八條 地方專賣局長煙草專賣法第十二條第二項ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ第六號書式ノ決定書ヲ異議申立人ニ交付スヘシ(同上)
 第十九條 煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管地方專賣局ニ届出ツヘシ(同上)

第十九條 枯葉、不熟葉、蝕損葉、立枯等アルトキハ煙草耕作者ハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條 煙草耕作者種子採取ノ爲母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ所管地方專賣局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、葉竝ニ依リ區分調理スヘシ

第二十二條 前條ノ葉分ハ總テ左ノ區分ニ依ルヘシ

- 一 土葉
- 二 中葉
- 三 本葉
- 四 天葉

前項ノ葉分ニ依リ難キモノハ雜葉トスヘシ

第二十三條 乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ收納ニ適セサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ經テ之ヲ廢棄スヘシ

第二十四條 葉煙草納付ノ場所及期日ハ地方專賣局長之ヲ定メ公示スヘシ

第二十五條 煙草耕作者納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ耕作許可證ヲ携帶スヘシ

前項ノ許可證ハ納付ノ際之ヲ所管地方專賣局長ニ提出シ葉煙草ノ納付量目、賠償金等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十六條 煙草耕作者ノ納付セムトスル葉煙草ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十七條 煙草耕作者煙草專賣法第十六條ニ依リ再鑑定ヲ求メトスルトキハ賠償金ノ請求前ニ於テ第七號書式ニ依リ其ノ不服ノ要領ヲ所管地方專賣局長ニ申出ツヘシ

第二十八條 第二十七條ニ依リ再鑑定ノ申立アリタルトキハ地方專賣局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ第八號書式ノ決定書ヲ申立人ニ交付スヘシ

前項ノ鑑定人ハ少クとも其ノ半數ヲ專賣局長以外ヨリ選定スヘシ

第二十九條 地方專賣局長ハ取締上必要ト認めタルトキハ煙草耕作者ニ對シ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第三十條 公共團體又ハ私人ニ於テ試作場ヲ特設シ煙草ノ試作ヲ爲サムトスルトキハ第一號書式ニ準シ申請書ヲ所管地方專賣局長ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

前項許可證ヲ受ケタル者ニハ第二號書式ニ準シタル許可證ヲ交付スヘシ

第三十一條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草賣渡申請書ヲ專賣局長官ニ提出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ若シ十日以内ニ現品ヲ引取ラザルトキハ相當保管料ヲ徵ス

輸出ノ爲買受タル葉煙草ノ代金一回三千圓以上製造煙草ノ代金一回二千圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

輸出ノ爲當時葉煙草又ハ製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ豫メ國債ヲ提供シ置クトキハ其ノ國債ノ價格ニ達スル迄代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但シ毎回ノ買受代金ハ前項ノ額ヲ下ラサルコトヲ要ス

葉煙草又ハ製造煙草ノ代金納付ノ擔保ヲ提供スル者ハ無記名國債證券ニ在リテハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出シ登錄國債ノ提出ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄通知書ヲ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタル者ハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第二項及第三項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收済ノ日ヨリ起算シ六箇月以内ニ完納スヘシ

輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ買受ヲナシタル者代金納付期日迄ニ買受代金ヲ納付セザルトキハ年五分ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトアルヘシ

輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ藏置場ヲ變更セムトスルトキハ所管地方專賣局長ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第三十二條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ輸出後專賣局長官ノ指定シタル期間内ニ輸出免狀並外國仕向港ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ專賣局長官ニ提出スヘシ

第三十三條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ帳簿ヲ製シ少クとも左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 葉煙草ノ買入年月日、拂出年月日、包裝番號、種類、葉分、量目、代金及仕向先
- 二 葉煙草ノ改裝年月日、元包裝番號、元量目、改裝番號及改裝量目
- 三 製造煙草ノ買受年月日、拂出年月日、種類、名稱、數量、代金及仕向先
- 三十四條 輸出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ其ノ使用ニ適セサルニ至リ之ヲ廢棄セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所管地方專賣局長ニ申出テ許可ヲ受クヘシ
- 三十四條ノ二 輸出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ニシテ仕向地ニ陸揚前盜難火災等ニ因リテ滅失シタルトキハ直ニ所管地方專賣局長ニ届出ツヘシ
- 三十五條 標本ニ供スル爲葉煙草ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局長ニ提出スヘシ
- 第三十六條 標本ニ供スル爲葉煙草又ハ製造煙草ノ輸入ヲ爲サムトスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ專賣局長ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第三十七條 第三十五條及第三十六條ノ標本煙草ヲ標本トシテ他ニ讓渡サムトスルトキハ第十二號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局長ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 煙草專賣法第三十二條ニ依リ製造煙草ヲ輸入セムトスル者ハ第十三號書式ノ申請書ヲ專賣局長官ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 煙草專賣法ヲ施行セザル地ニ移出スル爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求スル者アルトキハ專賣局長官ニ定メタル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得

第四十條 第三十一條ノ規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條ノ二 移出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ移出前ノ他ニ讓渡シ又ハ消費スルコトヲ得但シ其ノ使用ニ適セサルニ至リタルモノハ政府ノ許可ヲ受ケテ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四十一條 第三十一條ノ規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 移出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ノ移出ヲ廢止シタルトキハ買受ノ日ヨリ一箇年ヲ過キ之ヲ移出セザルトキハ其ノ使用ニ適スルモノニ限り政府ノ收納シ其ノ他ハ之ヲ廢棄セシム

前項ノ收納ヲ爲ストキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ賠償金ヲ交付ス但シ其ノ賠償金ハ第三十

九條ニ依ル賣渡價格ニ超過スルコトヲ得ス

鑑定人ハ專賣局長官之ヲ選定ス

第四十條ノ四 移出ノ爲買受ケタル葉煙草又ハ製造煙草ハ政府ノ許可ヲ受ケタル場所ニ非サレハ之ヲ藏置スルコトヲ得

前項ニ違反シタル者ハ五百圓以上一千元以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知りテ藏置ノ場所ヲ供與シタル者亦同

第四十一條 移出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ヲ買受ケタル者ハ移出免狀並仕向地ニ陸揚ヲ爲シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ買受後專賣局長官ノ指定シタル期間内ニ其ノ買受ヲ爲シタル煙草專賣官署ニ提出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ仕向地ニ陸揚ヲ爲シタル數量ヲ買受ヲ爲シタル數量ヨリ少キトキハ移出者ヲシテ其ノ不足額ニ對シ葉煙草ニ付テハ第三十九條ノ賣渡價格ニ相當スル金額ノ四倍以下製造煙草ニ付テハ其ノ定額ト第三十九條ノ賣渡價格トノ差額ニ相當スル金額ノ二倍以下ヲ其ノ煙草ノ代金ヲ納付シタル專賣官署ニ納付セシム

第四十二條 移出者ハ第三十三條ノ規定ニ準シ帳簿ヲ製シ之ヲ爲スヘシ

移出者帳簿ヲ製シ又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ四十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條ノ二 第三十四條及第三十四條ノ二ノ規定ハ移出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ヲ製作シ販賣シ又ハ藏置セムトスル者ハ第十號又ハ第十五號書式ノ申請書ヲ所管地方專賣局ニ差出し許可ヲ受クヘシ(明治四十二年六月九號ヲ以テ改正)
前項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ廢セムトスルトキハ其ノ旨所管地方專賣局ニ届出ツヘシ(同上)

第四十四條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者又ハ販賣者ハ該簿ヲ調製シ少クトモ器具機械又ハ卷紙ノ種類、數量、代金、製作月日又ハ買受月日、買受先、賣渡月日、賣渡先ヲ記載スヘシ

第四十五條 煙草、煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ノ運送ヲ委託セラレタル者ハ其ノ運送中ハ委託者ノ代理人トナリタルモノト看做ス(附則)

第四十六條 本省令ハ煙草專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四十七條 明治三十年大藏省令第十六號葉煙草再鑑定規程及明治三十四年大藏省令第四號葉煙草專賣法施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ煙草專賣法附則第六十八條第二項ニ依リ刻煙草ノ製造ヲ業トスル者及葉煙草ノ賣渡ヲ業トスル者ニ對シテハ仍舊葉煙草專賣法施行細則ヲ適用ス
第四十八條 煙草專賣法第八十三條ニ依リ申告書ハ第十六號書式ニ依リ所管地方專賣局ニ差

出スヘシ(同上)
第四十九條 煙草專賣法第八十四條ニ依リ調製スヘキ帳簿ニ關シテハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス
明治三十七年七月以後ニ於ケル毎月末日現在製造煙草ノ種類、數量及其ノ月ノ受拂高ハ第十七號書式ニ依リ翌月五日迄ニ所管地方專賣局ニ申告スヘシ(同上)

煙草專賣法違反事件ニ關スル件

煙草專賣法第六十七條但書、鹽專賣法第三十八條第二項、粗製樟腦、樟腦油專賣法第二十三條第二項ニ依リ間接國稅犯則者處分法中收稅官吏ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ專賣官吏、收稅官吏、稅關官吏、警察官吏又ハ森林官吏トシ稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ稅關官吏ノ發見ニ係ル違反事件ニ關シテハ違反事件發見地ヲ管轄スル稅關長トシ其ノ他ノ官吏ノ發見ニ係ル違反事件ニ關シテハ違反事件發見地ヲ管轄スル地方專賣局長トス(明治四十年十月一日ヨリ施行)
煙草專賣法、鹽專賣法及粗製樟腦、樟腦油專賣法違反事件ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ準用ス
附則
本省令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十七年勅令第六十四號、明治三十八年勅令第三百三十六號ハ之ヲ廢止ス
明治三十六年勅令第四百一十一號中内地ニ關スル

煙草賣捌規則

第一條 煙草賣捌人ハ政府ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ專賣局長官ノ指定シタル區域内ノ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス但シ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ノ認許ヲ得テ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受クルコトヲ得
政府ハ必要ト認ムルトキハ煙草元賣捌人ニ指定セラレタル者ニ對シ其ノ指定期間開始前製造煙草ヲ賣渡スコトアルヘシ(大正四年大藏省令第二十五號ヲ以テ改正)
前項ノ賣渡ニ付テハ本令中煙草元賣捌人ニ關スル規定ヲ準用ス(同上)
煙草小賣人ハ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス
政府ハ特殊ノ場合ニ於テ製造煙草ヲ特定價格ヲ以テ煙草小賣人又ハ消費者ニ賣渡スコトアルヘシ
第二條 煙草元賣捌人及煙草小賣人ハ必要ニ應

シ三年以内ノ期間ヲ以テ專賣局長官之ヲ指定ス
第一條 煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人タラズトスル者ハ第一號書式ニ依リ申請スヘシ
煙草元賣捌人タル法人其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ專賣局長官ノ許可ヲ受クヘシ(大正五年大藏省令第二十九號ヲ以テ改正)
煙草小賣人タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキハ其ノ旨專賣局長官ニ届出ツヘシ(同上)
第三條 煙草賣捌人死亡又ハ隱居ノ場合ニ於テハ其ノ相続人ハ專賣局長官ニ申告シ殘期間其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ第四條ニ依リ煙草賣捌人ニ指定セラレタルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス(大正三年大藏省令第三十號ヲ以テ改正)
前項ノ申告ハ煙草賣捌人死亡ノ場合ニ在リテハ死亡ノ日ヨリ二月以内ニ、隱居ノ場合ニ在リテハ隱居者ノ連署ヲ以テ隱居ノ日ヨリ二月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(本項以下)
第四條 左ニ掲クル者ハ煙草元賣捌人ニ指定セラレタルコトヲ得ス
一 煙草耕作者、之ト同一ノ家ニ在ル者又ハ煙草耕作者ノ同居者(大正十年大藏省令第二十六號ヲ以テ改正)
二 煙草專賣法第四十一條乃至第四十六條第四十八條乃至第五十條第五十二條第五十四條乃至第六十條ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二年ヲ經サル者(明治十五年大藏省令第十一號ヲ以テ改正)
四 第二十六條第二十七條ニ依リ煙草賣捌人ノ指定ヲ取消サレ二年ヲ經サル者

規定ハ之ヲ適用セス

第九部 煙草賣捌規則

五 身代限度分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者

六 國稅滯納處分又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一年ヲ經サル者

七 懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判ノ確定スルニ至ル迄ノ者

前項第二號乃至第四號ノ一ニ該當スル者ハ煙草小賣人ニ指定セラレルコトヲ得ス

法人ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付テ之ヲ定ム

未成年者又ハ禁治產者ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ未成年者禁治產者又ハ其ノ法定代理人ニ付テ之ヲ定ム但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(天正十一年大藏省令)

第四條ノ二 專賣局長官煙草小賣人ヲ指定スルニ方リテハ左ノ順序ニ依ル(明治四十二年大藏省令)

一 職開又ハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

二 職開又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

三 專賣局職工ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ專賣局現業員共濟組合規則ニ依リ救済金ヲ受ケタル者又ハ專

賣局職工ノ遺族ニシテ同規則ニ依リ救済金ヲ受ケタル者

四 專賣局職工ニシテ十年以上勤続セシ者

五 引續キ三年以上煙草賣捌人タリシ者

六 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ退職料ヲ受クル者又ハ公務ノ爲死亡シタル者ノ遺族ニシテ同一ノ法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者

七 其ノ他ノ者

第五條 (天正四年大藏省令)
煙草元賣捌人ト煙草小賣人トハ互ニ相兼スルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同シクスルコトヲ得ス

第六條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼スルトキハ其ノ營業所ト他ノ營業所トノ間ニ相當ノ區別ヲ設ケヘシ

第七條 煙草元賣捌人他ノ營業ヲ兼スルトキハ專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ對シ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可シ又ハ命スルコトアルヘシ

第八條ノ二 煙草自働發賣機ヲ設置セムトスル煙草小賣人ハ其ノ構造、設置スヘキ位置及發賣スヘキ煙草ノ種類、名稱ヲ定メ第一號書式ノ二ニ依リ專賣局長官ニ申請シ其ノ許可ヲ受ケヘシ(明治四十三年大藏省令)

第九條 煙草賣捌人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ營業所ノ位置又ハ煙草自働發賣機ノ構造若ハ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 政府ヨリ賣渡ス製造煙草ノ代金ハ別ニ定ムルトコロノ煙草元賣捌人ノ等級ニ應ジ又ハ煙草ノ種類ニ從ヒ其ノ定價ニ對シ一定ノ割引歩合ニ依リ之ヲ定ム(明治十五年大藏省令)

第十一條 製造煙草ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類、名稱、包裝別、數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ提出スヘシ

第十二條 製造煙草ヲ買受クル者其ノ代金納付ノ擔保トシテ國債ヲ提供シタルトキハ專賣局長官ハ二月以内代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得(明治十五年大藏省令)

第十三條 製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ前項ノ擔保物件ヲ豫メ提供シ置クトキハ專賣局長官ハ其ノ價額ニ達スル迄代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 前項ニ依リ延納ヲ許可スルハ一回ノ買受代金五百圓以上ノ場合ニ限ル

第十五條 代金納付ノ擔保ヲ提供スル者ハ無記名國債證券ヲ提供ニ在リテハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出シ登錄國債ノ提供ニ在リテハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄簿ヲ提出スヘシ登錄國債ニシテ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ(天正九年大藏省令)

第十六條 煙草賣渡請求者其ノ賣渡ヲ受ケタルトキハ直ニ代金ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シ現品ヲ引取ルヘシ若シ五日以内ニ之ヲ引取ラザ

ルトキハ相當保料ヲ徴ス但シ煙草販賣官署ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 煙草元賣捌人代金納付期日迄ニ製造煙草ノ買受代金ヲ納付セサルトキハ年五分ノ割合ヲ以テ遅延利息ヲ徴スルコトアルヘシ

第十五條 政府ヨリ煙草元賣捌人ニ賣渡ス製造煙草ハ煙草販賣官署又ハ其ノ貯藏所ニ於テ之ヲ引渡スモノトス(明治四十三年大藏省令)

第十六條 煙草販賣官署又ハ其ノ貯藏所ヨリ煙草元賣捌人ノ營業所ニ至ル迄ノ製造煙草運搬費ハ一定ノ割合ヲ以テ政府之ヲ支給ス(明治四十三年大藏省令)

第十七條 地方專賣局長ハ必要アリト認メタルトキハ前項ニ依リ運搬費ヲ支給スヘキ場合ニ於テ其ノ製造煙草ノ運送業者ヲ指定スルコトアルヘシ(天正二年大藏省令)

第十八條 前項ノ規定ハ第一條第五項ノ場合ニ之ヲ準用ス(天正四年大藏省令)

第十九條 煙草元賣捌人ノ煙草小賣人ニ賣渡ス煙草ノ價格ハ別ニ定ムルトコロノ制限額ヲ超ユルコトヲ得ス(明治十五年大藏省令)

第二十條 煙草販賣官署長ハ煙草賣捌人ノ店舗ノ設備、出賣人ノ數、出賣ノ回数、煙草保存ノ方法、店舗ニ備置クヘキ煙草ノ種類、數量及其ノ供給方ニ付指示スルコトヲ得(明治十五年大藏省令)

第二十一條 煙草賣捌人ハ其ノ出賣人ヲシテ自己ノ出賣人タルコトヲ證スルニ足ル證票ヲ携帶

セシムヘシ

前項ノ證票ニハ煙草販賣官署ノ證印ヲ受ケヘシ

第二十二條 煙草小賣人ハ營業所ノ見易キ場所ニ製造煙草ノ定價表及第三號標形ニ依リ標札ヲ掲ケヘシ

第二十三條ノ二 煙草自働發賣機ヲ設置シタル煙草小賣人ハ其ノ指定番號、住所及氏名ヲ該自働發賣機ニ標記スヘシ(明治四十三年大藏省令)

第二十四條 煙草元賣捌人ハ第四號及第五號書式ノ帳簿ヲ調製シ製造煙草ノ受拂ヲ明確ニスヘシ

第二十五條 煙草小賣人ハ帳簿ヲ調製シ製造煙草ノ買受ケタルトキハ其ノ買受年月日並其ノ種類、名稱、數量、代金ヲ記載スヘシ

第二十六條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ煙草元賣捌人ハ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ検査證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ検査證明書ヲ煙草販賣官署ニ提出スヘシ

第二十七條 前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ引替若ハ買戻ノ爲ニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草元賣捌人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

前二項ノ規定ハ第一條第五項ノ場合ニ之ヲ準用ス(天正四年大藏省令)

第二十三條 製造煙草ニシテ品質ノ惡變シ又ハ包裝ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ煙草小賣人ハ其ノ買受先ニ之カ引替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ検査證明ヲ受ケ現品ト共ニ其ノ検査證明書ヲ買受先ニ提出スヘシ

第二十四條 前項ノ場合ニ於テ其ノ引替ノ原因カ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ煙草小賣人ハ製造煙草ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ辨償スヘシ

第二十五條 煙草小賣人前條ニ依リ製造煙草ノ引替ヲ請求シ又ハ第三十條ニ依リ製造煙草ノ買戻ヲ請求シタルトキハ煙草元賣捌人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 煙草元賣捌人其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ廢止ノ日ヨリ三十日以前ニ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草元賣捌人其ノ一箇所又ハ多數箇所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ(明治十五年大藏省令)

第二十七條 前項ノ期間ヲ經過セスシテ其ノ營業又ハ營業所ヲ廢止セムトスルトキハ專賣局長官ノ許可ヲ受ケヘシ

第二十八條 煙草小賣人其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ專賣局長官ニ申告スヘシ二箇所以上ノ營業所ヲ有スル煙草小賣人其ノ一箇所又ハ多數箇所ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ(明治十五年大藏省令)

第十一條 (以下本項) 煙草自働發賣機設置者其ノ設置ヲ撤廢セムトスル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス (明治四十四年十一月一號ヲ以テ本項改正) (明治四十五年十一月一號ヲ以テ本項改正)

第二十六條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

- 一 煙草元賣捌人第四條第一項第一號、第三號及第五號乃至第七號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ (明治四十六年十一月一號ヲ以テ改正)
- 二 煙草元賣捌人政府ヨリノ煙草買受代金一年五千圓未滿ナルトキ
- 三 煙草元賣捌人納付期日ヲ過キ仍製造煙草ノ買受代金ヲ完納セザルトキ
- 四 煙草小賣人第四條第一項第三號ニ該當スルニ至リタルトキ (同上)
- 五 煙草小賣人一月以上引續キ其ノ營業ヲ爲サザルトキ又ハ其ノ買受代金一年五千圓未滿ナルトキ (明治四十五年十一月一號ヲ以テ改正)

法人カ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ニ指定セラレタル場合ニ於テ前項第一號又ハ第四號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第二十七條 煙草賣捌人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス (明治四十五年十一月一號ヲ以テ改正)

- 一 煙草元賣捌人第一條第一項ニ依ル營業區以外ノ煙草小賣人ニ製造煙草ヲ販賣シタルトキ

- 二 煙草元賣捌人第一條第一項ニ違反シテ他ノ煙草元賣捌人ヨリ製造煙草ヲ買受ケ又ハ情ヲ知テ之ヲ賣渡シタルトキ又ハ
- 三 煙草賣捌人第九條ニ違反シタルトキ又ハ許可ヲ受ケスシテ營業所ヲ新設シタルトキ (同上)
- 四 煙草元賣捌人第十六條ノ制限ヲ超ニテ製造煙草ヲ賣渡シタルトキ
- 五 煙草賣捌人本令又ハ煙草販賣官署長カ本令ニ依リ指示シタル事項ニ違反シ當該官署ノ注意ヲ受クルモ尙之ニ従ハサルトキ (同上)

前項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ罰金又ハ科料ニ處セス直ニ煙草元賣捌人又ハ煙草小賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第二十八條 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草元賣捌人ノ營業區域ヲ縮小シ又ハ一定ノ期間ヲ限リ其ノ區域ノ全部ヲ他ノ煙草元賣捌人ノ營業區域ニ指定スルコトヲ得 (明治四十二年十一月一號ヲ以テ改正)

- 一 專賣局長官ノ命シタル地ニ營業所ヲ設置セザルトキ
- 二 出賣人ノ數又ハ出賣ノ回數其ノ他製造煙草ノ供給方ニ付煙草販賣官署長ノ指示ニ従ハサルトキ

第二十九條 (一) 左ノ場合ニ於テ專賣局長官ハ煙草自働發賣機設置ノ許可ヲ取消スコトヲ得 (明治四十二年十一月一號ヲ以テ改正)

- 一 煙草自働發賣機設置ノ許可ヲ受ケタル煙

草小賣人其ノ設備ヲ爲サヌ又ハ其ノ設備不完全ナルトキ

二 煙草自働發賣機ニ對スル煙草ノ供給方ニ付煙草販賣官署長ノ指示ニ従ハサルトキ

二十九條 煙草元賣捌人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スルモノナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ其ノ指定ヲ取消サレタルトキ又ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ノ事實ノ發生後三十日以内ニ專賣局長官ノ指定シタル煙草販賣官署ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル買戻價格ハ現行定價ヨリ煙草元賣捌人ハノ現行割引歩合ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス (明治四十二年十一月一號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ煙草元賣捌人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ製造煙草ノ品質惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキ又ハ引替ハ買戻ノ爲ニ煙草小賣人ヨリ引渡ヲ受ケタル製造煙草ニシテ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ品質惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十條 煙草小賣人死亡シ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキ、指定期間滿了シ引續キ指定セラレサルトキ其ノ指定ヲ取消サレタルトキ又ハ其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ現存スル製造煙草ノ事實ノ發生後三十日以内ニ其ノ買受先ニ之カ買戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ第一條第五項ニ依リ政府ヨリ直接ニ賣渡シ

タル製造煙草ノ買戻價格ハ煙草小賣人ハノ現行賣渡價格ヲ以テス (明治四十五年十一月一號ヲ以テ改正) (明治四十六年十一月一號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ煙草小賣人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ由リテ品質惡變シ又ハ包裹ノ破損若ハ汚染シタルモノアルトキハ拂戻スヘキ金額ヨリ其ノ價格減少ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三十一條 本令中專賣局長官ニ提出スヘキ書類ハ別表ノ區域ニ依リ關係ノ煙草販賣官署ヲ經由スヘシ

附則 本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス明治三十八年ノ大藏省令第四號煙草賣捌規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十二年七月一日以降煙草元賣捌人タラムトスル者ハ第一號書式ニ依リ明治四十二年五月二十日迄ニ申請スヘシ

現ニ煙草小賣人タル者ニシテ明治四十二年七月一日以降引續キ煙草小賣人タラムヘキ者ハ其ノ申請ヲ俟タズ明治四十二年六月二十日迄ニ專賣局長官之ヲ指定ス

附則 (大正九年大藏省令第五十一號附則) 本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス向其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格ハ毎年四月市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シ之ヲ改算ス但シ其ノ價格ニ著シキ變動アリト認メ

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス向其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格ハ毎年四月市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シ之ヲ改算ス但シ其ノ價格ニ著シキ變動アリト認メ

●道路法

(大正八年四月十一日)
法律第五十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル道路法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
大正十一年第三號

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依ル認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ
第二條 左ニ掲ケルモノハ道路ノ附屬物トシテ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得
一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場
二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、橋、道路元標、里程碑及道路標識
三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場
四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ
第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ
本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス
第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ
第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ
第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付

テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス
第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得
第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定
第八條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス
一 國道
二 府縣道
三 市道
四 町村道
第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス
一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鐵道府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線
二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線
第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス
一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線
二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線
三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル路線
四 府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
五 府縣内樞要ノ地、港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル路線
六 府縣内樞要ノ地、港津ニ達スル路線
七 數市町村ヲ連結スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線
八 樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル國道又ハ府縣道ニ連絡スル路線
九 地方開發ノ爲ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線
第十二條 (大正十一年法律第三號) 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス
第十三條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス
第十四條 市町村長ハ市町村ノ爲ニ必要ナル場合ニ限リ市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得
前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線カ重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス
第三章 道路ノ管理
第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス
第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得
道路ト他ノ工作物ト兼用ヲ兼スル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス
第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム
第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ
主務大臣必要アリト認ムルトキハ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ道路ノ管理權ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣之ヲ行フ
第二十一條 道路ト他ノ工作物ト兼用ヲ兼スル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル
第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲ニ必要ヲ生シ

タル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得
第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得
第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ヲ生シタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得
第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋梁又ハ渡船場ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得
前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ
第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ橋梁又ハ渡船場ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得
第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得
國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用料法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得
第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ
第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十二條 道路ノ管理ノ爲ニ必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四章 道路ニ關スル費用及義務
第三十三條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ
前項ニ規定スルモノヲ除ク外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議

ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ決定ス

第二十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 特ニ道路ノ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ト生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第三十二條 本法若キテ發シタル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ別段ノ履行スル爲ニ必要ナル費用ハ法令ニ依リテ定ムル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第三十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

第三十四條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ト生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設ケル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲ニ必要ト生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依リ道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私

人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第四十條 特ニ道路ノ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ト生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十二條 本法若キテ發シタル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ別段ノ履行スル爲ニ必要ナル費用ハ法令ニ依リテ定ムル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ト生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

第四十六條 第二十四條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設ケル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第四十七條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲ニ必要ト生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行爲ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第四十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依リ道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私

之ヲ統轄スル行政廳又ハ行政廳タル管理者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ストキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ費用負擔者之ヲ爲スモノト看做ス

第四十一條ノ規定ニ依リ負擔金ハ前二項ノ例ニ依リ國庫又ハ公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋梁又ハ渡船場其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ト生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十六條 非常災害ノ爲ニ必要ナルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ費用スルコトヲ得

第四十七條 前二條ノ規定ニ依リ立入、使用、使役又ハ費用ニ因リ現ニ生シタル損害ハ立入、使用、使役又ハ費用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スヘシ

第四十八條 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同シ

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第五十一條 監督及罰則

第五十二條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ管理者ハ本法若キテ發シタル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキ

第五十四條 前項第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第五十五條 前二項ノ規定ハ主務大臣カ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消

シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 左ニ掲ケル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定ヲ爲スコトヲ得

一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト

二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト

三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト

四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト

五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ爲スコト

六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト

七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋梁又ハ渡船場ノ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設ケルコト

八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用料ノ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ノ徵收スルコト

九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト

十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スコト

第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號

ニ掲ケル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命シ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定竝之ニ基キテ發シタル命令ハ本法若キテ發シタル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 本法若キテ發シタル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋梁、渡船場其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リテ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ徵收金ノ先取特權ノ順位竝其ノ追徴還付及時効ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依リ

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ得シテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタル者

二 許可ヲ得シテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋梁、渡船場其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

三 道路ノ使用ニ對シ路費其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者

四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タル者

五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依リ管理者ノ命ニ從ハサル者

六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規

第十二條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ許可又ハ承認シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ設置者並橋梁又ハ渡船ノ額及徴收期間ヲ告示スヘシ同法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルトキ亦同シ

第十三條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋梁又ハ渡船ヲ徴收スルコトヲ得ス

- 一 軍隊
 - 二 演習中ノ軍人軍屬
 - 三 召集令狀若ハ召集傳達書ヲ所持シ應召ノ爲通行スル軍人又ハ召集令狀配達人
 - 四 簡閱點呼令狀若ハ簡閱點呼傳達書ヲ所持シ簡閱點呼令狀配達人
 - 五 徴發ニ關スル令書配達人
 - 六 徴發人夫及其ノ引率人
 - 七 徴發物件及其ノ運搬人
 - 八 勤務中ノ憲兵又ハ警察官吏
 - 九 護送中ノ囚人又ハ刑事被告人及其ノ護送人
 - 十 水災警防ノ爲又ハ其ノ演習ノ爲通行スル當該官吏員又ハ一定ノ服裝ヲ爲シタル消防夫水防夫
 - 十一 尋常小學校ニ往復ノ兒童
 - 十二 受特區内ニ勤務中ノ修路工夫
- 第十四條 橋梁又ハ渡船ヲ徴收スル者ハ徴收ノ場所ニ左ニ掲クル事項ヲ榜示スヘシ
- 一 設置者

二 橋梁又ハ渡船ノ額

三 徴收期間

四 橋梁又ハ渡船ヲ徴收セサル場合

第十五條 道路畫帳ヲ調製シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ其ノ旨ヲ告示スヘシ

利害關係人ハ道路畫帳ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル道路ニ關シ告示スヘキ事項ハ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ他ノ工作物ノ管理者タル行政廳ヲ以テ道路及工作物ノ管理ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ管理者同法第十七條ノ規定ニ依リ管理者タル行政廳ニ之ヲ通知シ通知ヲ受ケタル行政廳本令ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第十七條 第五條ノ規定ハ道路法第十五條若ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル道路ニ關シ第十條、第十一條、第十二條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル道路ニ關シ前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス(大正十一年勅令第三三三號)

第十八條 道路法第四十五條ノ規定ニ依ル通知ハ三日前ニ場所及日時ヲ指定シ之ヲ爲スヘシ

道路法第四十五條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ日出前日没後ハ古有者ノ意ニ反シテ立入ルコトヲ得ス

第十九條 道路ノ路線ノ認定者及道路ノ管理者ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督ス

- 一 市町村長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ内務大臣(大正十一年勅令第三三三號)
- 二 前號ニ規定スル以外ノ者認定者又ハ管理者ナルトキハ内務大臣(大正十一年勅令第三三三號)
- 二十條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 市長ヲ以テ管理者トスル國道又ハ府縣道
- 二 新設又ハ改築ヲ爲スコト
- 三 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ互ル路線ヲ認定スルコト
- 四 道路法第二十四條ノ規定ニ依ル承認ヲ府縣ニ對シ爲スコト
- 五 道路法第十七條但書ノ市ノ市内道路ニ關シ同法第三十九條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ負擔方法ヲ定ムルコト
- 五 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ國ニ費用ヲ負擔セシムルコト
- 第二十一條 (大正十五年勅令第二二五號)前二條ニ規定スルモノヲ除クノ外道路法第五十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘキモノニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二十三條 北海道ニ於テ支廳ノ所在地ヲ地方費道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ(大正十四年勅令第三三三號)

●道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定等準用ノ件

除道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定ノ準用ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條 道路法第二十八條、第二十九條、第四十四條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第五十一條乃至第五十三條、第五十六條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第二十二條ノ規定ハ道路又ハ其ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用ス

第二條 道路法第四十五條、第四十七條、第四十九條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第十九條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第十八條ノ規定ハ沿道ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用ス

附則 三十五號勅令

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

北海道ノ道路ノ路線ノ認定者又ハ管理者町村長ナルトキハ第一次ニ支廳長、第二次ニ道廳長官、第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス

北海道ノ道路ニ付テハ左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二市支廳管內以上ニ互ル道路ノ路線ヲ認定スルコト
- 二 道路法第三十七條又ハ第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ道ニ費用ヲ負擔セシムルコト
- 三 前項ニ規定スルモノノ外北海道ニ付テハ本令中府縣、府縣知事、府縣廳、府縣會又ハ府縣道ニ關スル規定ヲ道、道廳長官、道廳、道會又ハ地方費道ニ關シ適用ス

附則

第二十四條 本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 道路法施行ノ際認定スヘキ國道ノ路線ニ關シ豫メ道路會議ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

第二十六條 道路法施行ノ際認定スヘキ府縣道又ハ地方費道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會又ハ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス都道、市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ諮問ニ付亦同シ

第二十七條 市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ニ付テハ道路法施行ノ際ニ限リ第六條ノ規定ニ依ル同法ノ規定等準用ノ件

定ニ拘ラス平面圖ヲ公衆ノ從覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得

前項ノ平面圖ニハ路線ノ位置並路線ノ交叉點及兩端ノ地名若ハ地先地名ヲ表示スヘシ別ニ地番圖書ヲ作製シ平面圖ニ添附スルコトヲ妨ケス

第二十八條 市町村長ニ於ケル道路元標ノ位置ニ付本令施行前道廳長官又ハ府縣知事ノ定メタルモノハ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス

附則 大正十一年勅令第三三三號

本令中第十條ノ二ノ規定並第十七條及第二十三條ノ改正規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年法律第三號中第十一條ノ改正規定施行ノ際認定スヘキ府縣道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會ニ諮問シタルモノハ道路法施行令第二條ノ規定ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

●道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定等準用ノ件

除道路法第七條ノ規定ニ依ル同法ノ規定ノ準用ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條 道路法第二十八條、第二十九條、第四十四條、第四十六條、第四十七條、第四十九條、第五十一條乃至第五十三條、第五十六條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第二十二條ノ規定ハ道路又ハ其ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用ス

第二條 道路法第四十五條、第四十七條、第四十九條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第十九條及第五十九條ノ規定並道路法施行令第十八條ノ規定ハ沿道ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用ス

附則 三十五號勅令

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

道路取締令

(大正九年十二月十六日)

(内務省令第百四十五號)

改正 大正十四年第三號

道路法第四十九條ノ規定ニ基キ道路取締令左ノ通定ム

道路取締令

第一條 道路ヲ通行スル者ハ左側ニ依ルヘシ

第二條 歩道、車道等ノ區別アル道路ニ於テハ其ノ區別ニ從ヒ通行スヘシ

第三條 牛、馬、諸車等ハ斜ニ道路ヲ横切ルヘカラス

第四條 牛、馬、諸車等ハ斜ニ道路ヲ横切ルヘカラス

第五條 牛、馬、諸車等前方ニ在ル者ヲ追越ス場合ハ止ムヲ得サルトキハ除クノ外前者ハ左方ニ避ケ後者ハ其ノ右方ヲ通過スヘシ

第六條 牛、馬、諸車等行進フトキハ互ニ左方ニ避讓スヘシ

第七條 牛、馬、諸車等前方ニ在ル者ヲ追越ス場合ハ止ムヲ得サルトキハ除クノ外前者ハ左方ニ避ケ後者ハ其ノ右方ヲ通過スヘシ

第八條 牛、馬、諸車等行進フトキハ互ニ左方ニ避讓スヘシ

第九條 鐵道又ハ軌道ノ踏切ヲ通過セムトスルトキハ汽車、電車等ノ接近セサルコトヲ確メ

ヲ待チテ進行スヘシ

牛、馬、諸車等電車ヲ追越ス場合ハ道路ノ狀況ニ依リ止ムヲ得サルトキハ除クノ外其ノ左方ヲ通過スヘシ

第六條 進行中ノ消防車、郵便車、傷病人運搬車及隊伍、神輿、葬列ニ對シテハ避讓スヘシ

第七條 牛、馬、諸車等ハ左ノ場合ニ於テハ音響器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ除

一 道路ノ交叉點、曲角其ノ他屈曲ノ場所又ハ雜沓ノ場所ヲ通過スルトキ

二 第三條第三項ノ規定ニ依リ地方長官ノ特ニ指定シタル場所ヲ通過スルトキ

三 歩道ヲ横切ルトキ

四 安全地帯ノ設ケナキ停留場ニ在ル電車ノ側方ヲ通過スルトキ

牛、馬、諸車等坂路、隧道又ハ橋梁ヲ通過スルトキハ、徐行スヘシ

牛、馬、諸車等道路交叉ノ場所ニ於テ右折セムトスルトキハ道路ヲ横切リタル後右方ニ轉向スヘシ

第一項第四號ノ場合ニ於テ乗降客輻湊スルトキハ牛、馬、諸車等ハ一時進行ヲ停止スヘシ

第八條 牛、馬、諸車等ハ夜間燈火ヲ用フニシテ通行スヘカラス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ異リタル規定ヲ設ケルコトヲ得

第九條 鐵道又ハ軌道ノ踏切ヲ通過セムトスルトキハ汽車、電車等ノ接近セサルコトヲ確メ

タル後通行スヘシ

第十條 牛、馬、諸車等ハ安全地帯内ヲ通行スヘカラス

第十一條 道路ノ交叉點、曲角、隧道又ハ橋梁等ニ牛、馬、諸車等ヲ駐ムヘカラス

牛、馬、諸車等ヲ道路ニ駐ムルトキハ其ノ左側端ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ牛馬等ノ奔逸ヲ防クニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ但シ竝木、道路元標、里程標及道路標識等ニ之ヲ繫クヘカラス

第十二條 荷車ノ輪帶幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ

牛車 三寸五分以上

馬車 三寸以上

荷車ノ面 三寸以上

大車ノ面 二寸以上

無限軌道其ノ他道路ヲ損傷セサル特別ノ裝置ヲ爲セル車ニ在リテハ其ノ裝置ノ幅ヲ以テ前項ノ輪帶幅ト看做ス

第十三條 荷車ノ積載量ハ車體ノ重量ヲ合セ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

牛車 四輪車 五百五十貫

馬車 四輪車 四百貫

大車 其ノ他 三百五十貫

第十四條 荷車ノ積荷ノ容積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 高 八尺

二 前後ノ出幅 荷臺ヨリ各二尺

三 左右ノ出幅 荷臺ヨリ各一尺

三 自動車ニ依ル積荷ハ之ヲ車體ノ前後左右ニ突出セシムルコトヲ得ス

第十五條 地方長官ハ土地ノ狀況、道路、橋梁又ハ車輛ノ構造若ハ裝置ニ依リ第十二條第一項、第十三條及第十四條ノ制限ニ異リタル規定ヲ設ケルコトヲ得

第十六條 第十三條、第十四條ノ規定又ハ第十五條ニ基ク命令ニ依ル積荷ノ積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ヲ超ユル物ニシテ分割スヘカラサル場合ハ出發地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 管理者ハ道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十八條 地方長官ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十九條 道路ヲ掘鑿シ又ハ道路ニ物ヲ置ク場合ニハ繩張、點燈其ノ他危險豫防ニ必要ナル

裝置ヲ爲スヘシ

第二十條 沿道ノ土地ニ物ヲ堆積シ又ハ立テ置クトキハ倒塌、崩落ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十一條 道路又ハ沿道ノ土地ニ於テ工作物ヲ建設、撤去若ハ修繕シ又ハ其ノ他ノ作業ヲ爲ストキハ土砂、瓦石、竹木、金物等ノ道路ニ飛散又ハ墜落スルヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十二條 警察官署ハ道路及沿道ノ土地ニ於ケル工作物其ノ他ノ施設及物件ニ付其ノ占有者ニ對シ危險防止其ノ他交通保全ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 道路ニ於テ物ヲ運搬スルトキハ其ノ飛散、漏出、墜落及危險ヲ防クニ必要ナル裝置ヲ爲スヘシ

第二十四條 道路ニ於テ乘馬又ハ諸車運轉ノ練習ヲ爲スヘカラス但シ交通稀疎ニシテ危險ノ虞ナキ場所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 交通頻繁ナル道路ニ於テ兒童、幼兒ニ遊戯ヲ爲サシメ又ハ保護者ナクシテ幼兒ヲ歩行セシムヘカラス

第二十六條 道路ニ於テ煙火、空氣銃、吹矢ノ類ヲ弄シ又ハ投石、投球等危險ノ行爲ヲ爲スヘカラス

第二十七條 第二條、第三條第一項、第二項、第四條乃至第八條第一項、第十條及第二十五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條第三項ノ規定ニ基ク禁止ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十八條 第十一條、第十三條、第十四條、第十六條、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ違反シタル者、第十二條第一項ノ規定又ハ第十五條ノ規定ニ基ク命令ニ依ル積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ニ違反シタル者又ハ第十八條、第十八條ノ規定ニ基ク禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十九條 第十九條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十二條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ百圓以内ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十條 前條ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ハ其ノ代表者ヲ以テ被告トス

第三十一條 本令ニ規定スルモノノ外道路法第四十九條ノ規定ニ基ク命令ハ地方長官ノヲ定ム

附則

本令ハ大正十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用スル荷車ノ輪帶幅ハ大正十八年十二月三十一日迄本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

(大正十四年十二月三十一日)

(内務省令第百四十五號)

道府縣聯合共進會規則

(明治四十三年三月二十五日)

改正 大正九年第一號、二年第二號

道府縣聯合共進會規則左ノ通相定ム

道府縣聯合共進會規則

第一條 道府縣聯合シテ産業ニ關スル共進會ヲ開設セムトスルキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ認可ヲ受ケムトスルキハ共進會開設地ノ地方長官ハ申請書ニ規則書、出品ノ點數及人員豫定書並經費豫算書ヲ添ヘ前年度五月三十一日限農商務大臣ニ差出スヘシ

共進會開設ノ認可アリタル後前項ノ規則ヲ變更セムトスルキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 道府縣聯合共進會ノ聯合區域ハ六道府縣以上十五道府縣以下トス但シ特別ノ事由ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 特種ノ出品種類ニ付開設スル道府縣聯合共進會ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ但シ四道府縣以上聯合スルコトヲ要ス

第五條 道府縣ハ五年目以後ニ非サレハ同種ノ物品ニ付聯合共進會ヲ開設スルコトヲ得ス但シ第三條ニ依リ開設シタル後前條ニ依リ開設シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

特別ノ事由ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ得タル

場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第六條 道府縣聯合共進會規則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 聯合道府縣名
- 二 開設地及會期
- 三 出品ノ資格
- 四 出品ノ類別及各出品人ノ差出スヘキ數量
- 五 參考品ノ陳列ヲナストキハ之ニ關スル規定
- 六 出品願書及出品解説書ニ關スル規定
- 七 出品物搬出入ニ關スル規定
- 八 出品ノ陳列及賣買ニ關スル規定
- 九 出品物ノ危險負擔ニ關スル規定
- 十 審査及賣買ニ關スル規定
- 十一 觀覽ニ關スル規定
- 十二 規則違反者處分ニ關スル規定
- 十三 庶務ニ關スル規定
- 十四 其ノ他必要ト認ムル事項

第七條 農商務大臣ハ審査長審査官及審査員ヲ命シ審査ヲ爲サシメ優等ト認ムルモノニ褒賞ヲ授與ス

第八條 審査員ニ關スル經費ハ聯合府縣ノ負擔トス

第九條 褒賞ヲ左ノ四種トス (大正九年農商務省令第十號)

- 一 一等賞金牌
- 二 二等賞銀牌
- 三 三等賞銅牌
- 四 同位紅白

種牛、乳牛、種馬、種羊、種豚、種鶏、卵鶏又ハ種鷲ノ出品ニ付テハ紫白ノ綬ヲ付

第九條 農商務大臣ハ出品ト同種ノ産業ニ關シ功勞顯著ナリト認ムル者ニ對シ其人ノ存亡ニ拘ラス功勞賞杯ヲ授與ス

第十條 聯合道府縣ノ地方長官ハ功勞賞ヲ授與スルニ適當ナリト認ムル者ノ事績調査及履歷書ヲ共進會開會當日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ開會期間カ三十日以下ナルトキハ開會當日ノ四十日前ニ差出スヘシ (大正九年農商務省令第十號)

第十一條 農商務大臣ハ道府縣聯合共進會ノ定ムル規定ニ違反シタル出品若ハ賣買ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シタル出品人ニ對シ情狀ニ依リ褒賞ヲ授與セズ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條 出品又ハ審査ニ關シ詐欺ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ道府縣聯合共進會ノ定ムル規定ニ違反シタル出品ヲ損壞傷害又ハ撤去シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條 道府縣聯合共進會ハ前二條ニ依ル處分ヲ受ケタル者ニ出品ヲ許可スルコトヲ得ス但シ處分ヲ受ケタル後十年ヲ經過シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 本則ノ規定ハ北海道一圓ノ出品區域トスル道府縣開設ノ寄附共進會ニ付テハ準用ス

第十五條 明治四十一年省令第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十六條 本則施行前道府縣聯合共進會開設ニ付農商務大臣ノ認可ヲ得タル者ハ本則ニ依リ認可ヲ得タルモノト看做ス

臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル件

(大正十年三月十五日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法律ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ官廳又ハ公署ノ職權、法律上ノ期間其他ノ事項ニ關シ臺灣特殊ノ事情ニ因リ特別ノ規定ヲ設クル必要アルモノニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二條 臺灣ニ於テ法律ヲ要スル事項ニシテ施行スヘキ法律ナキモノ又ハ前條ノ規定ニ依リ難キモノニ關シテハ臺灣特殊ノ事情ニ因リ必要アル場合ニ限リ臺灣總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第三條 前條ノ命令ハ主務大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ

第四條 臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ臺灣總督ハ前條ノ規定ニ依ラス直ニ第二條ノ命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ發シタル命令ハ公布後直ニ勅裁ヲ請フヘシ勅裁ヲ得サルトキハ臺灣總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第五條 本法ニ依リ臺灣總督ノ發シタル命令ハ臺灣ニ行ハルル法律及勅令ニ違反スルコトヲ得ス

臺灣總督府法院條例

(明治三十一年七月九日)

本法ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年法律第六十三號又ハ明治三十九年法律第三十一號ニ依リ臺灣總督ノ發シタル命令ニシテ本法施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノニ付テハ當分ノ内仍舊前ノ例ニ依ル

臺灣總督府法院條例

(明治三十一年七月九日)

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣總督府法院條例改正ノ件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣總督府法院條例

第一條 臺灣總督府法院ハ臺灣總督ニ直屬シ民事刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 臺灣總督府法院ヲ分チテ地方法院及高等法院トス (前條ノ上)

地方法院ノ管轄區域内ニ地方法院支部ヲ置キ其事務ノ一部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

地方法院及地方法院支部ノ管轄區域内ニ出張所ヲ置キ登記及公證ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

地方法院、地方法院支部及出張所ノ設置、廢止並管轄區域ハ臺灣總督之ヲ定ム

高等法院ニ覆審部及上告部ヲ置ク

第三條 地方法院ハ其管轄區域内ニ於ケル民事刑事事件ニ付第一審ノ裁判ヲ爲シ刑事ノ豫審及非訟事件ニ關スル事務ヲ取扱フ但高等法院上告部ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ此限ニ在ラス (上)

第四條 高等法院覆審部ハ地方法院ノ判決ニ對スル控訴並高等法院上告部ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外地方法院ノ決定及命令ニ對スル抗告ニ付裁判ヲ爲ス (大正十二年法律第七號)

第四條第二項第二ニ掲ケタル事件ニシテ本令施行前受理シタルモノハ高等法院上告部ニ繫屬スルモノトス

臺灣軍法會議ニ關スル件

附則 本法ハ陸軍軍法會議法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣銀行法

第一條 臺灣銀行ハ株式會社トス 臺灣銀行ハ本店ヲ臺灣ニ設置ス

第七 地金銀ノ賣買及貨幣ノ交換(六十九年法律第七號) 第八 擔保附社債ニ關スル信託事業(六十九年法律第七號)

第九 臺灣銀行ハ銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ備キ其ノ仕拂準備ニ充ツヘシ(三十四年法律第七號)

總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ四箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後本條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

法律上ノ代理人ハ此ノ限ニ在ラス
 第十八條 主務大臣ハ臺灣銀行監理官ヲ置キ臺灣銀行ノ業務ヲ監視セシム
 第十九條 臺灣銀行監理官ハ何時ニテモ臺灣銀行ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得
 臺灣銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ臺灣銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及登記ヲ報告セシムルコトヲ得
 臺灣銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス
 第二十條 臺灣銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ
 第二十一條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス
 第二十二條 臺灣銀行ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十三條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ臺灣銀行ノ銀行券發行高、代付金額及貸付方法ヲ制限スルコトヲ得
 第二十四條 主務大臣ハ臺灣銀行ノ營業上此ノ法律又ハ定款ニ背反シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ
 第二十五條 臺灣銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ

其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ
 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 第二十六條 臺灣銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ頭取若ハ頭取ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ其ノ事犯ニシテ副頭取理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副頭取理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ
 一 第六條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セザル業務ヲ營ミタルトキ
 二 第九條ノ規定ニ反シ銀行券ヲ發行シタルトキ
 三 第二十條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テザルトキ
 附則 臺灣銀行ハ其ノ業務ニ關シテ左ノ事項ニ依リテ執行スルコトヲ得
 第二十七條 政府ハ臺灣銀行創立委員ヲ置キ其ノ設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
 第二十八條 創立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス
 第二十九條 創立委員ハ株主ヲ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出し臺灣銀行設立ノ免許ヲ申請スヘシ
 第三十條 創立委員ハ前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ臺灣銀行頭取ニ引渡スヘシ
 第三十一條 設立初度ノ理事及監查役ノ第十三條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ就テハ同條

第四項ヲ適用スルノ限ニ在ラス
 臺灣銀行ハ其ノ業務ニ關シテ左ノ事項ニ依リテ執行スルコトヲ得
 一 銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 二 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 三 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 四 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 五 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 六 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 七 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 八 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 九 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
 十 臺灣銀行ハ銀行券ノ發行額及仕拂準備ニ關スル毎週平均高表ヲ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

擔保附社債信託法

法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
 第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ營ムコトヲ得タル株式會社ニ在リテハ信託會社ニ依リ信託業務ヲ營ムコトヲ得ス
 第七條 信託會社ノ資本又ハ金積リ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓以下トスルコトヲ得ス
 第八條 信託會社ハ資本又ハ金積リ目的トスル出資ノ總額ハ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス
 第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
 第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
 第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社ノ財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ヲ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
 第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ヲ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
 第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ヲ取消ニ因リテ解散ス
 第十四條 信託會社カ免許ヲ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第一百條、第二百二十六條第二項、第二百二十八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス
 第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
 第十七條 外國ニ於テ物件上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得
 第十八條 前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セザルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ
 第十九條 前項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定ムタルトキハ運籌ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ
 第二十條 日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス
 第二十一條 信託會社ハ其ノ業務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス
 第二十二條 信託會社ハ其ノ業務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス
 第二十三條 信託會社ハ其ノ業務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス
 第二十四條 信託會社ハ其ノ業務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス
 第二十五條 信託會社ハ其ノ業務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ

- 一 委託會社及受託會社ノ商號
- 二 各社債ノ金額
- 三 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
- 四 社債發行ノ方法及期限
- 五 社債償還ノ方法及期限
- 六 利息支拂ノ方法及期限
- 七 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示
- 八 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示
- 九 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及及各會社ノ負擔部分
- 十 委託及受託ノ表示
- 十一 證書作成ノ年月日
- 十二 各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低價額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ際本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項
- 二 物上擔保附社債ナルコト
- 三 信託證書ノ表示
- 四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示
- 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額
- 六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額
- 七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額
- 八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所
- 九 前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ

依リ社債ノ總額ヲ引受タルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定ムタル公告ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓渡ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ニ依ル社債總額ノ引受ヘ之ヲ商行爲トス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債

券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ原本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ委託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項
- 二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケ

タル事項

- 三 第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實
- 四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項
- 二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
- 三 債券ノ番號
- 四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セズ

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第二百六條ニ依リ記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依リ請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號、第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項
- 二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ
 第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ
 第四十一條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ
 第六章 社債權者集會
 第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ召集スルコトヲ得
 第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ヲ召集ヲ請求スルコト

ヲ得
 前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得
 第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得
 前項ノ召集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ召集スルコトヲ得
 第五十一條 商法第五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ召集ニ之ヲ準用ス
 第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得
 商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス
 社債權者集會ノ決議ニハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ

行フコトヲ得
 各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得
 第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得
 第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付召集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得
 第五十五條 社債權者集會ヲ召集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ召集ノ通知ヲ發スヘシ
 商法第五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス
 第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ召集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得
 第五十七條 社債權者集會召集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
 前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ
 社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債

券ヲ供託シ且召集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ
 第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル
 第五十九條 社債權者集會ヲ召集シタル者ハ決議ヲ作成スヘシ
 第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ
 受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議ヲ閱覽セシムヘシ
 第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス
 第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ之ヲ負擔ス
 第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム
 第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得
 第六十五條 社債權者集會ノ決議ノ總額ノ代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額

ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス
 代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定メタルトキハ其ノ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
 第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得
 第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ
 第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ
 第七章 信託契約ノ效力
 第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ
 第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ
 第七十條 信託契約ニ依リ物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス
 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ
 第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應シ平等

ニ擔保ノ利益ヲ享受ス
 第七十二條 信託契約ニ依リ物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス
 第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依リ擔保權ニ之ヲ適用セシム
 第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得
 第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得
 第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス
 第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社連帶テ各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ
 前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス
 第七十八條 信託契約ニ依リ擔保權ハ總社債權者ノ爲ニ之ヲ行使スルコトヲ得
 第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遅延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託

會社ニ報告スルコトヲ得
 委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ先テ
 第一項ノ債權ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ先テ支拂タルトキハ受託會社ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ
 第八十一條 前條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレヌ又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セヌシテ解散シタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ
 第八十三條 第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依リ動産質ニ之ヲ適用ス
 第八十四條 受託會社ハ社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依リ競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得
 第八十五條 受託會社ハ信託契約ノ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ社債ノ總額ニ付支拂ヲ擔保シ不履行ニ因リ

テ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得
 第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得
 第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ
 第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ遲滞ナク債權額ニ應ジテ各社債權者ニ交付スヘシ
 受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス
 社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ
 受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得
 第八十九條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行

爲ラ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ
 第九十條 本法ニ依リ社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス
 第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス
 第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ
 受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
 前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シテ之ヲ準用ス
 第九十三條 信託契約ニ依リ社債ノ總額ノ第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス
 受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受ケル權利ヲ有ス
 第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ

委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス
 前項ノ質權ハ信託契約ニ依リ物上擔保ト看做ス
 第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
 無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス
 第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依リ質權ニ之ヲ準用セス
 第八章 信託事務ノ承繼及終了
 第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得
 信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス
 第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得
 第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ解任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ
 第一百一條 第九十七條ニ依リ信託事務ヲ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス
 前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ
 前條ニ依リ承繼ハ新受託會社ニ對シ主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス
 第一百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依リ場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新受託會社、第九十條ニ依リ場合ニ於テハ委託會社及新受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ
 第一百三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第一百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締約シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ
 社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ契リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス
 第一百五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ
 前項ノ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ
 前項ノ屆書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附スヘシ
 第一百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
 第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準用ス
 第一百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ
 第九章 罰則
 第一百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
 第一百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ
 二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
 三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
 四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ゲタルトキ
 五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
 六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
 七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セズシテ之ヲ交付シタルトキ
 八 第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ
 九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ
 十 第九十五條第一項ニ依リ検査ヲ妨ケタルトキ
 十一 第五十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
 十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ
 十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 第十四條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
 一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
 二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セズ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
 三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメザリシトキ
 四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
 第五十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

第一百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得
 第一百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ
 既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ
 第一百十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書

ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス
 第一百十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ヲ停止ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ
 第一百十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添附スヘシ
 第一百十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遅滞ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ
 第一百十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ニ付テハ委託會社ヲ登記權利者トス
 第一百十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第六十六條又ハ第七十七條ニ依リ債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル
 第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十八年勅令第八十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ之ヲ施行ス)

擔保附社債信託法施行細則

第一條 擔保附社債信託法施行細則
 一 前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類株式會資會社ニ在リテハ之ニ準ズヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(大正五年法律第十一號)
 第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ムトスルトキハ免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ
 一 一定款又ハ會社契約書ノ謄本
 二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本
 三 又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
 三 最終ノ貸借對照表
 第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遅滞ナク左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ
 一 信託證書謄本
 二 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スルヘル契約書アルトキハ其ノ契約書謄本
 三 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

附則

前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印アル信託證書ノ謄本ナルコトヲ要ス
 前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
 第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遅滞ナク届出ツヘシ
 前項ノ變更カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書謄本ヲ添附スヘシ
 第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社債ノ募集カ確定シタルトキハ遅滞ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
 一 應募ノ口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額
 二 募入ノ口數券面總額及總價格(即チ會社ノ實收スヘキ金額)
 第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ
 一 信託證書案
 二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本
 三 擔保附社債信託法第二十二條第一項第五號乃至第七號ノ事項及社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面
 四 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
 五 前號ノ外國會社ノ資本又ハ金銭ヲ目的トスル出資ノ總額及其ノ拂込金額ヲ記載シ

タル書面
 第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ屬書ニハ代表者タル資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス
 第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ召集アリタルトキハ遅滞ナク集會ノ目的、場所、期日及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
 信託會社カ社債權者集會ノ決議錄ヲ作成シ又ハ決議錄謄本ノ交付ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク其ノ決議錄謄本ニ集會ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ其ノ決議ノ無効ノ宣告又ハ其ノ宣告ノ取消アリタルトキ亦同シ
 社債權者集會ノ決議ヲ執行シタルトキハ執行者ハ遅滞ナク其ノ額末ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ
 第十條 擔保附社債信託法第四十九條第二項ニ依リ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
 一 集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面
 二 召集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル後二週間内ニ召集ノ手續ヲ爲サザリシ事
 三 實ヲ記載シタル書面
 前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ前項ノ書類ノ外其ノ社債權者カ各自有スル債券額及社債原簿ニ現存セル

社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルカ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ

第十一條 擔保附社債信託法第八十九條ニ依ル申請書ニハ社債權者集會ノ決議録ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
- 二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁許外ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ提出スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議録添附スヘシ

- 一 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格ノ減少シタル事實ヲ證スル書面
- 二 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格減少ニ關スル計算書

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク供託金受領書添本ヲ添ヘ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル検査ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ年月日及検査ノ狀況ヲ報告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會社ト信託事務ノ承継契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會社及社債權者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタル書面
- 二 信託事務ニ關スル計算書
- 三 承継契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル許可申請書ニハ辭任ヲ要スル事由ヲ記載シタル書面及信託事務ニ關スル計算書ヲ添附スヘシ

第十七條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議録添本ヲ添附スヘシ

第十八條 擔保附社債信託法第一百條第二項ニ依ル届書ニハ同條第一項ノ契約書添本ヲ添附スヘシ

第十九條 擔保附社債信託法第一百五條第二項ニ依ル届書ニハ引繼ノ順末ヲ記載シ同條第三項ノ目錄ト共ニ差出スヘシ

第二十條 信託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク總計算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十一條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後遲滞ナク各會社共同シテ左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ但シ合併ニ依リ信託ノ業務ヲ廢止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 合併ニ關スル契約書
- 二 合併ニ依リ設立シ又ハ合併後存続スル會社ノ定款
- 三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル會社各自ノ貸借對照表
- 四 合併ニ關スル株主總會決議録添本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面
- 五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタルコト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコトヲ證スル書面

合併セムトスル會社カ銀行タルトキハ銀行條例施行細則第八條ニ依ル認可申請書ニ第十五條第一號乃至第三號及前項第五號ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存続スル會社カ新ニ信託事業ヲ營ムトスルトキハ免許申請書ニ第一項ノ書類ヲ添附スヘシ

第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依ル請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トス

ル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シテ届出ツヘシ

清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度遲滞ナク届出ツヘシ

清算力結了シタルトキハ遲滞ナク決算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十四條 信託會社カ登記又ハ登錄ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ遲滞ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

- 一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ
- 二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲シタルトキ及其ノ決定アリタルトキ
- 三 検査役ノ選任アリタルトキ
- 四 仕拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタルトキ
- 五 商法第七十四條第一項ニ依ル株主總會ノ召集ヲ爲シタルトキ

第二十六條 大正五年大藏省令第十號銀行條例施行細則第九條乃至第十一條及第十三條乃至

第十五條ノ規定ハ之ヲ信託會社ニ準用ス但シ營業報告中社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準シテ調製スヘシ

信託會社ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月十日マテニ差出スヘシ

附則

第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附屬様式略ス)

明治四十一年三月二十七日
法律第二十號
煉乳原料砂糖戻税法
第一條 政府ノ承認ヲ得テ砂糖色相和蘭標本第十五號以上ノ砂糖ヲ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得
使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
第二條 前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ消費税ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
第三條 收税官吏ハ第一條ニ依リ承認ヲ與ヘタル砂糖ヲ使用スル場所ニ就キ原料、製品、器具、器械及帳簿書類ヲ検査シ其ノ他監督上必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得
附則
本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
（明治四十一年法律第二十號）

明治四十一年三月二十七日
法律第二十號
煉乳原料砂糖戻税法施行規則
第一條 煉乳原料砂糖戻税法第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ種類、數量、場所及日時ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ
前項ノ承認ハ毎回五百斤以上ノ場合ニ限り之ヲ與フルモノトス
第二條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ原料砂糖ノ種類、數量、消費稅額、使用承認年月日、使用年月日及製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ
第三條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三 製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日
四 他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱
第四條 收税官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
附則
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年三月二十七日
法律第二十號
煉乳原料砂糖戻税法施行規則
第一條 煉乳原料砂糖戻税法第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ種類、數量、場所及日時ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ
前項ノ承認ハ毎回五百斤以上ノ場合ニ限り之ヲ與フルモノトス
第二條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ原料砂糖ノ種類、數量、消費稅額、使用承認年月日、使用年月日及製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ
第三條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三 製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日
四 他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱
第四條 收税官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
附則
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

乳部

●煉乳原料砂糖戻税法

明治四十一年三月二十七日
法律第二十號
煉乳原料砂糖戻税法
第一條 政府ノ承認ヲ得テ砂糖色相和蘭標本第十五號以上ノ砂糖ヲ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得
使用後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
第二條 前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ消費税ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
第三條 收税官吏ハ第一條ニ依リ承認ヲ與ヘタル砂糖ヲ使用スル場所ニ就キ原料、製品、器具、器械及帳簿書類ヲ検査シ其ノ他監督上必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得
附則
本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
（明治四十一年法律第二十號）

●煉乳原料砂糖戻税法施行規則

明治四十一年三月二十七日
法律第二十號
煉乳原料砂糖戻税法施行規則
第一條 煉乳原料砂糖戻税法第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ種類、數量、場所及日時ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ
前項ノ承認ハ毎回五百斤以上ノ場合ニ限り之ヲ與フルモノトス
第二條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ原料砂糖ノ種類、數量、消費稅額、使用承認年月日、使用年月日及製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ
第三條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三 製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日
四 他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱
第四條 收税官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
附則
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●煉乳原料砂糖戻税法施行規則

明治四十一年三月二十七日
法律第二十號
煉乳原料砂糖戻税法施行規則
第一條 煉乳原料砂糖戻税法第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ種類、數量、場所及日時ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申請スヘシ
前項ノ承認ハ毎回五百斤以上ノ場合ニ限り之ヲ與フルモノトス
第二條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ原料砂糖ノ種類、數量、消費稅額、使用承認年月日、使用年月日及製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ
第三條 煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二 使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三 製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日
四 他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱
第四條 收税官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
附則
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌
避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三
十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモ
ノハ刑法ニ依ル

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ
規定ニ違背シタル者ハ刑法ノ減輕、再犯加
重及數罪併發ノ例ヲ用井ス

第二十一條 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ヲ
ルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ
規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法
定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者
ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ
限ニ在ラス

第二十二條 樟腦、樟腦油ノ製造者又ハ取引人
ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其
ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ
本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル
トキハ自己ノ指揮ニ出テサルヲ故ヲ以テ處罰
ヲ免ルコトヲ得ス

第二十三條 間接國稅犯則者處分法及明治三十
三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ
基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス
間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長
ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ命令ヲ以テ之
ヲ定ム

第二十四條 本法施行ノ爲必要ナル規定ニシテ
主務大臣ノ定ムヘキ事項ハ臺灣ニ於テハ臺灣
總督之ヲ定ム

第二十五條 本法ハ明治三十六年十月一日ヨリ
之ヲ施行ス

臺灣樟腦及樟腦油專賣規則並臺灣樟腦及樟腦
油製造規則ハ之ヲ廢止ス

第二十六條 本法施行ノ際内地ニ於テ樟腦、樟
腦油ノ製造者又ハ取引人ノ所有スル粗製樟
腦、樟腦油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ準
シ之ヲ政府ニ納付スヘシ

第二十七條 本法施行ノ際内地ニ於テ樟腦、樟
腦油ノ製造者又ハ取引人以外ノ者ノ所有ニ係
ル粗製樟腦、樟腦油ニ關シテハ本法ノ規定ヲ
適用セス

第二十八條 本法施行ノ際内地ニ於テ樟腦、樟
腦油ヲ製造スル者ハ明治三十六年十一月一日
迄ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間内ハ
從前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條 臺灣樟腦及樟腦油製造規則ニ依リ
特許ヲ受ケタル者ハ其ノ期間満了ノ日迄本法
ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則

粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則左ノ通相定ム

第一條 粗製樟腦、樟腦油ヲ製造セムトスル者
又ハ粗製樟腦ヲ精製セムトスル者ハ製造場、
廠數、一箇年ノ生産見込量目及製造者手ノ時
期ヲ定メ所轄地方專賣局ニ出願スヘシ

第二條 所轄地方專賣局ニ於テ必要ト認メ製造
場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出
スヘキコトヲ命シタルトキハ粗製樟腦、樟腦
油製造者又ハ粗製樟腦精製者ハ之ヲ提出スル
コトヲ要ス

第三條 粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ粗製樟腦
精製者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ
ハ其ノ事由ヲ具シ所轄地方專賣局ニ出願スヘ
シ

一 製造場ヲ移轉セムトスルトキ
二 廠ノ撤去又ハ増設ヲ爲サムトスルトキ
三 一箇年生産見込量目ヲ變更セムトスルト
キ

第四條 製造者手ノ時期ヲ變更セムトスルトキ

第四條 相續ニ因リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造又
ハ粗製樟腦ノ精製ヲ繼承シタルトキハ相續人
ヨリ其ノ旨所轄地方專賣局ニ届出ツヘシ

相續ニ因ルノ外製造又ハ精製ヲ繼承セムトス
ルトキハ製造者又ハ精製者及繼承者連署シ所
轄地方專賣局ニ出願スヘシ

第五條 粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ粗製樟腦
精製者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ
ハ所轄地方專賣局ニ届出ツヘシ

一 製造又ハ精製ヲ休止セムトスルトキ又ハ
休止後更ニ製造又ハ精製ニ著手セムトス
ルトキ

二 住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ
第六條 粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ粗製樟腦
精製者製造場所在市町村ニ現住セザルトキハ
粗製樟腦、樟腦油專賣法ニ依リ事務ヲ處理セ
シムル爲管理人ヲ定メ所轄地方專賣局ニ届出
ツヘシ

第七條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ各製造場ニ
其ノ廠數、氏名及許可ノ年月日ヲ記載シタル
標札ヲ掲クヘシ

第八條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ管理人、焚
夫、運搬夫其ノ他ノ從業者ニ左ノ木製標札ヲ
携帯セシムヘシ

粗製樟腦、樟腦油製造者
氏名 年 月 日 名 印

第九條 粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ粗製樟腦
精製者其ノ製造又ハ精製ヲ廢止セムトスルト
キハ所轄地方專賣局ニ出願スヘシ

第十條 粗製樟腦、樟腦油專賣法第九條ニ依リ
粗製樟腦、樟腦油ノ製造ヲ制限スル必要アリ
ト認メタルトキハ地方專賣局ハ粗製樟腦、樟
腦油製造者ノ一箇年生産見込量目ヲ更訂シ之
ヲ製造者ニ通知スヘシ

第十一條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ粗製樟腦、
樟腦油製造後六十日以内ニ之ヲ所轄地方專賣
局ニ納付スヘシ

第十二條 所轄地方專賣局ハ事務ノ都合ニ依リ特ニ納付
期日ヲ指定スルコトアルヘシ

第十三條 第一項ノ期間内又ハ前項ノ期日ニ納付スルコ
ト能ハサルトキハ事由ヲ具シ所轄地方專賣局
ニ出願シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ粗製樟腦
又ハ樟腦油ノ容器ニ製造ノ場所、年月日及製
造者ノ氏名ヲ記載スヘシ

第十五條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ代理人ヲ
以テ粗製樟腦、樟腦油ノ納付ヲ爲スコトヲ得
運送營業者カ粗製樟腦、樟腦油製造者又ハ其
ノ代理人ヨリ粗製樟腦、樟腦油ノ運送ヲ委託
セラレタルトキハ運送中ハ其ノ代理人トナリ

第十四條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ豫メ所轄
地方專賣局ノ認可ヲ得テ所轄地方專賣局以外
ノ地方專賣局ニ粗製樟腦、樟腦油ノ納付ヲ爲
スコトヲ得

第十五條 一 地方專賣局ニ於テ收納スル粗製
樟腦及樟腦油ノ標準品質左ノ如シ

一 粗製樟腦
水分及固形夾雜物ノ容量百分ノ壹以下ニ
シテ其ノ硫酸反應著色ニ於テ二十五分一
沃素規定液ヲ過キテ溫度ノ上昇ニ於テ攝
氏溫度器二十度以下ナルモノ

二 樟腦油
樟腦油固有ノ香氣ノ外異臭ヲ放タス且ツ
攝氏溫度器十五度ノ時ニ於テ比重〇、九
一以上ナルモノ

前項ニ於テ沃素規定液ト稱スルハ沃素百二十
六、八六瓦ヲ沃度加里約三百瓦ト共ニ水ニ溶
解シテ一リートルニ至ラシメタルモノヲ謂
フ

第十五條ノ二 粗製樟腦樟腦油製造者ノ納付セ
ムトスル粗製樟腦ニシテ前條標準品質ニ適合
セザルトキハ製造者ハ其ノ總量目ニ左ノ乘率
ヲ乘シタル量目ニ依リ納付ヲ爲スコトヲ得但

粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則

シ色相不良ナルモノ又ハ著色十分一沃素規定液ヲ過クルモノ若ハ温度ノ上昇三十度ヲ超ユ

ルモノハ一級又ハ二級ヲ下スモノトス(昭和六年七月七日以前に製造シタル者ハ別定)

Table with 4 columns: 水滲分及固形率, 乘率, 硫, 酸, 反, 應. Rows 0-15.

第十五條ノ三 粗製樟腦、樟腦油製造者ノ納付セムトスル粗製樟腦ニシテ其ノ品質粗悪ナルモノ又ハ其ノ樟腦油ニシテ標準品質ニ適合セサルモノハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムルコトアルヘシ(昭和七年六月七日)

理人災害其ノ他ノ事故ニ因リ粗製樟腦、樟腦油ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ現ニ損害アリタル地ヲ所轄スル地方專賣局ニ届出ツヘシ(同)

延納ヲ許可スルコトヲ得 前二項ニ依リ延納ヲ許可スルハ一回ノ買受代金五百圓以上ノ場合ニ限ル

● 訴訟法

第一條 訴訟ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲グル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

● 附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス

● 附則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス

● 借債利息差許ニ依リ不都合ノ所業アル者處分方

（明治三十三年十二月二日）

今般長第二號ノ以て借債利息差許ノ規定ニ依リ不都合ノ所業アル者ハ其地方官ニ依リ之ヲ處分スルノ旨相違致事

● 借債利息差許ニ依リ不都合ノ所業アル者處分方

（明治三十三年十二月二日）

今般長第二號ノ以て借債利息差許ノ規定ニ依リ不都合ノ所業アル者ハ其地方官ニ依リ之ヲ處分スルノ旨相違致事

● 南洋羣島裁判官

（明治三十三年十二月二日）

南洋羣島裁判官ノ任命ニ關スル件

● 南洋羣島裁判官

（明治三十三年十二月二日）

南洋羣島裁判官ノ任命ニ關スル件

ね部

● 年齢計算ニ關スル件

（明治三十五年十二月二日）
（法律第五十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齢計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

年齢ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第四百十三條ノ規定ハ年齢ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

（明治三十五年十二月二日）
（法律第五十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル年齢計算ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

年齢ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第四百十三條ノ規定ハ年齢ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

姓名	年齢	性別	職業	住所
山田 太郎	25	男	農夫	東京府 山田町
田中 次郎	30	男	商人	大阪府 田中町
佐藤 一郎	18	男	学生	京都府 佐藤町
鈴木 三郎	45	男	職工	神戶市 鈴木町
高橋 五郎	60	男	老人	福岡県 高橋町
中村 八郎	22	男	学生	奈良県 中村町
渡辺 九郎	35	男	商人	和歌山県 渡辺町
森田 十郎	40	男	職工	徳島県 森田町
松本 十一郎	55	男	商人	香川県 松本町
伊藤 十二郎	65	男	老人	高松市 伊藤町
山本 十三郎	70	男	老人	高松市 山本町
田村 十四郎	75	男	老人	高松市 田村町
佐々木 十五郎	80	男	老人	高松市 佐々木町
高橋 十六郎	85	男	老人	高松市 高橋町
中村 十七郎	90	男	老人	高松市 中村町
渡辺 十八郎	95	男	老人	高松市 渡辺町
森田 十九郎	100	男	老人	高松市 森田町

● 南洋羣島裁判官

（明治三十三年十二月二日）

南洋羣島裁判官ノ任命ニ關スル件

南洋羣島裁判官ノ任命ニ關スル件

第九條 各法院ニ檢察局ヲ附置ス

各檢察局ヲ通シテ檢察專任一人ヲ置ク委任トス
各檢察局ノ檢察ハ其ノ局内ノ事務ヲ掌理ス
各檢察局ノ管轄區域ハ之ヲ附置シタル法院ノ管轄區域ニ同シ
第十條 檢察官ハ司法警察官ヲ指揮監督シ刑事訴訟ヲ爲シ其ノ執行ヲ指揮監督ス
南洋廳長官ハ南洋廳警部ヲシテ地方法院檢察事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
高等法院檢察局檢察事務ハ其ノ職務ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ南洋廳長官ハ南洋廳警部ヲシテ臨時其ノ職務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
第十一條 南洋廳支廳長及南洋廳警視ハ司法警察官トシテ犯罪搜查ニ付地方法院檢察事ト同一ノ權ヲ有ス
南洋廳警部及警部補ハ檢察ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ承ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜查スヘシ
第十二條 法院及檢察局ヲ通シテ書記專任四人ヲ置ク判任トス民事刑事ノ審理ニ關スル準備ヲ爲シ圖書ヲ作り及一切ノ訴訟記録ヲ整理保存ス
書記ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ法院又ハ檢察局ニ於ケル諸般ノ事務ニ從事ス
附則
本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前臨時南洋群島防備隊民政署ニ於テ受理シタル訴訟事件ハ之ニ相當スル南洋廳支廳ニ於テ之ヲ完結ス
民事刑事ニ付本令施行前臨時南洋群島防備隊民政署ニ於テ爲シタル裁判及前項ノ規定ニ依リ南洋廳支廳ニ於テ爲シタル裁判ハ之ヲ南洋廳地方法院ニ於テ爲シタル裁判ト看做ス

Table with columns for dates and locations, listing administrative actions and appointments.

南部支那ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル件

第一條 本法ニ於テ南部支那ト稱スルハ支那福建省廣東省廣西省雲南省ヲ謂フ
第二條 南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ職務ヲ爲シタル罪ノ公判ハ臺灣總督府臺北地方法院之ヲ管轄ス
第三條 南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴及抗告ハ臺灣總督府高等法院上告部ノ權限ニ屬スルモノヲ除クハ臺灣總督府高等法院覆審部、南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル上告又ハ上告棄却ノ決定ニ對スル抗告ハ臺灣總督府高等法院上告部之ヲ管轄ス
第四條 南部支那ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル刑事事件ニ關シテ外務大臣ニ於テ外交上必要アリト認ムルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ當該領事官ニ命シ且被告人ヲ臺灣總督府臺北監獄ニ移送セシムルコトヲ得
第五條 前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ移送スル場合ニ於テハ臺灣總督府高等法院ノ

檢察官ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ法院覆審部ニ爲サシムヘシ

前項ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第十八條第一項及第二十三條ノ規定ヲ準用ス
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

Table with columns for dates and locations, listing administrative actions and appointments.

Table with columns for dates and locations, listing administrative actions and appointments.

本報記者の調査によれば、労働争議調停法が公布されてから、各地で労働争議が頻りに起つてゐる。...

労働争議調停法の公布は、労働争議の解決に大いに役立つものと期待されてゐる。...

労働争議調停法の施行は、労働争議の減少に寄与するものと見られてゐる。...

ら部

労働争議調停法

(大正十五年四月九日)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル労働争議調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

労働争議調停法

第一條 左ニ掲タル事業ニ於テ労働争議發生シタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ

シタルトキハ行政官廳ハ當事者雙方ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得

第五條 委員中缺員ヲ生シタルトキハ前二條ノ手續ニ準シテ之ヲ補充ス

第十四條 調停委員會ハ調停ニ必要ナル範圍ニ於テ委員ヲシテ作業所其ノ他争議ノ關係場所ニ立入り、作業若ハ設備ヲ視察シ又ハ關係者ニ質問セシムルコトヲ得但シ軍事上秘密ヲ要スル場所ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 委員又ハ委員タリシ者ハ故ナク前二條ノ場合ニ知得タル秘密ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第十六條 第九條ニ規定スル調停手續ノ終了ノ場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ願末ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

第十七條 行政官廳ハ前條ノ規定ニ依ル報告ノ要旨ヲ公表スヘシ但シ労働争議解決シタル場合ニ於テ當事者一方ノ選定シタル委員全能力カ豫メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 委員及第十三條ニ規定スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第十九條 第一條第一項ニ掲グル事業ニ於ケル労働争議ニ關シ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキハ現ニ其ノ争議ニ關係アル使用者及労働者並其ノ屬スル使用者團體及労働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ハ第九條ニ規定スル調停手續ノ終了ニ至ル迄左ニ掲グル目的ヲ以

テ其ノ争議ニ關係アル使用者又ハ労働者ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

一 使用者ヲシテ労働争議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ労働者ノ集團ヲシテ労働争議ニ關シ労働者ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭關係ノ申込ヲ拒絶セシムルコト

二 労働者ノ集團ヲシテ労働争議ニ關シ労働者ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ雇傭關係ノ申込ヲ拒絶セシムルコト

第二十條 故ナク第十三條ニ規定スル出席説明又ハ説明書類ノ提示ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第二十一條 故ナク第十六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ説明ヲ爲シタル者

二 故ナク第十四條ノ規定ニ依リ立入、視察ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シタル者

三 第二十二條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第九十七號ヲ以テ同年七月一日ヨリ之ヲ施行ス)

労働争議調停法施行令

(大正十五年六月二十四日勅令第九十六號)

朕労働争議調停法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

労働争議調停法施行令

第一條 労働争議調停法及本令ニ依ル行政官廳ノ職務ハ争議ノ發生シタル作業所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)之ヲ行フ

第二條 労働争議調停法第一條ニ依リ二以上ノ地方長官ノ管轄ニ涉ルトキハ内務大臣ハ其ノ一ヲ指定シテ前項ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 内務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル行政官廳以外ノ行政官廳ヲ指定シテ前條第一項ノ職務ヲ行ハシメ又ハ自ら之ヲ行フコトヲ得但シ内務大臣其ノ指揮監督ノ下ニ在ラサル行政官廳ヲ指定セムトスルコトハ豫メ其ノ所管大臣ト協議スルコトヲ要ス

第四條 第一條ニ於テ地方長官トアルハ船員法ノ適用アル船員ノ争議ニ付テハ通信局長トシ前二條ニ於テ内務大臣トアルハ船員ノ争議ニ付テハ通信大臣トス

第五條 調停委員會開設ノ請求ハ左ノ事項ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 争議ノ發生シタル作業所ノ名稱及所在地

二 争議ニ關係アル労働者ノ概數

三 代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ足ルヘキ事項

四 調停委員會ニ關スル通知ヲ受クヘキ場所

五 争議ノ要求事項

六 争議ノ經過概要

第五條 當事者ノ一方ヨリ調停委員會開設ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 調停委員會ヲ開設セムトスル旨ノ通知ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七條 行政官廳前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第八條 調停委員會労働争議調停法第九條ノ規定ニ依リ調停手續ヲ終了シタルトキ又ハ其ノ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

第九條 前項ノ報告アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ公示スヘシ

第十條 調停委員會ノ議事ニ關スル總テノ書類ハ労働争議調停法第十六條ニ規定スル報告ト共ニ之ヲ行政官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第十一條 労働争議調停法第十八條ノ規定ニ依リ辨償ヲ受クルコトヲ得ル費用ハ旅費、日當及止宿料トス

第十二條 前項ノ旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

附則
本令ハ労働争議調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(別表)

區分	船賃	車馬賃	日當	止宿料
一里ニ付	一日ニ付	一夜ニ付		

労働争議調停法第一條第六號ノ事業ヲ定ムルノ件

委員	二等九十錢六	四八	四
當事者又ハ其ノ代表者其ノ他利害關係人又ハ備考	二等七十五錢三	四五	四

鐵道賃及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケサル場合ニハ其ノ乗車又ハ乗船ニ要スル運賃トス

労働争議調停法第一條第一項第六號ノ事業ヲ定ムルノ件

(大正十五年七月十日勅令第九十二號)

朕労働争議調停法第一條第一項第六號ノ事業ヲ定ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ニ掲グル部隊又ハ工作處ニ於ケル兵器艦船ノ製造修理ノ事業ハ之ヲ労働争議調停法第一條第一項第六號ノ事業トス

陸軍航空本部
陸軍航空本部
陸軍技術本部
陸軍兵器廠
陸軍造兵廠
海軍工廠
要港部工作部
海軍火藥廠
海軍技術研究所
海軍艦政本部製圖工場

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

労働者募集取締令

(大正十三年十二月二十九日)

労働者募集取締令

第一條 本令ニ於テ募集主トハ募集シタル労働者ノ雇主タルヘキ者ヲ謂ヒ、募集従事者トハ募集主ノ委託ヲ受ケ又ハ自ら雇傭セムカ爲テ労働者ノ募集ニ従事スル者ヲ謂フ

第二條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外職工、鑛夫又ハ土工夫其ノ他ノ人夫ノ募集ニ之ヲ適用ス

一 應募者就業ノ爲住居ヲ變更スル必要ナキトキ

二 單ニ廣告ニ依リ募集シ就業場ニ於テノミ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三 移民保護法ニ依ル募集ヲ爲ストキ

第三條 募集主ハ募集開始前左記事項ヲ記載シタル就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ應募者ノ就業場所在地所轄地方長官ニ届出ツヘシ

一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主たる事務所ノ所在地及代表者ノ氏名

二 應募者ノ就業場ノ名稱及所在地

三 短期ノ事業ニ在リテハ其ノ事業ノ開始及終了時期

四 應募者ノ就業スヘキ事業ノ種類

五 就業時間、休憩時間、休日及夜間作業ニ關スル事項

六 賃金ニ關スル件

七 宿舍、食事ノ費用、往復旅費等ノ負擔ニ關スル事項

八 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

九 雇傭期間及解雇ニ關スル事項

十 負傷、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於ケル扶助救済ニ關スル事項

募集主前項ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ノ外募集ニ關シ配布スヘキ文書アルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ届出タル就業案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ變更シタルトキハ遅滞ナク之ヲ届出ツヘシ

第四條 労働者ノ募集ニ従事セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ其ノ寫眞二葉ヲ添ヘ募集主ノ連署ヲ以テ其ノ住所所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主たる事務所ノ所在地及代表者ノ氏名

二 募集従事者ノ本籍、住所、氏名、職業及生年月日

三 募集従事者ノ雇傭

四 募集従事期間

五 募集従事区域

六 應募者ノ就業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

募集従事期間ハ三年以内トス

第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者更ニ他ノ募集主ノ爲ニ募集ニ従事セムトスルトキハ依ル許可ヲ申請スヘシ

第五條 地方長官前條ノ規定ニ依リ許可ヲ爲シタルトキハ様式第一號ニ依リ募集従事者證ヲ交付スヘシ

募集従事者募集従事者證ヲ滅失、紛失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

募集従事者證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ募集従事者ハ遅滞ナク其ノ書換ヲ申請スヘシ

前二項ノ申請ハ募集従事者ノ寫眞二葉ヲ添ヘ許可ヲ爲シタル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 募集従事者ハ應募者若ハ應募セムトスル者又ハ本人ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ其ノ募集従事者證ヲ提示スヘシ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集主ハ第四條ノ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク之ヲ届出ツヘシ

一 募集主事業ヲ廢止シタルトキ

二 募集主募集従事者ニ對シ募集ノ委託ヲ解キタルトキ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集従事者ハ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク募集従事者證ヲ返納スヘシ

一 募集ニ従事スルコトヲ廢シタルトキ

二 募集従事期間満了シタルトキ

三 募集従事者ノ許可ヲ取消セラレタルトキ

前條各號ノ一ニ該當スルトキ

第九條 募集従事者死亡シタルトキハ戶籍法第十七條ノ届出義務者募集従事者證ヲ添付シ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク其ノ旨届出ツヘシ

第十條 募集従事者著手セムトスルトキハ豫メ第三條ノ就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スヘキ文書ヲ添付シ左記事項ヲ募集地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 募集従事者ノ住所、氏名

二 募集従事者ノ居所及事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ所在地

三 當該警察官署管内ニ於ケル募集従事期間當該警察官署管内ニ於テ募集セムトスル労働者ノ男女別豫定人員

四 應募者ノ集合所ヲ定メタルトキハ其ノ所在地

前項各號ノ事項又ハ前項ノ規定ニ依リ添付スヘキ文書ニ變更アリタルトキハ遅滞ナク之ヲ届出ツヘシ

第十條 募集従事者ハ應募セムトスル者ニ對シ第三條ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ交付シ其ノ主旨ヲ懇示スヘシ

第十一條 募集従事者ハ様式第二號ニ依リ應募者名簿ヲ調製シ、募集従事中之ヲ携帶シ又ハ第九條ノ規定ニ依リ届出タル居所若ハ事務所ニ備付クヘシ

第十二條 募集従事者ハ左ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 募集従事者證ヲ他人ニ讓渡若ハ貸與シ又

ハ募集主ノ他人ニ委託スルコト

二 募集ニ關シ事實ヲ隱蔽シ誇大虚偽ノ言辭ヲ弄シ其ノ他不正ノ手段ヲ用キルコト

三 應募者ヲ強要スルコト

四 應募者又ハ應募セムトスル女子ニ對シ風俗ヲ紊ル行爲ヲ爲スルコト

五 應募者又ハ應募セムトスル者ニ對シ遊興ヲ勧誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト

六 濫ニ應募者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ケ其ノ他應募者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト

七 濫ニ應募者ニ對シ其ノ所持品ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル所持品ノ返還ヲ拒ムコト

八 應募者ヲ募集従事者證記載ノ募集主以外ノ者ニ周旋スルコト

九 應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ヨリ手数料、報酬等何等ノ名義ヲ問ハズ金錢其ノ他ノ財物ヲ受ケルコト

十 當該官吏又ハ應募者ヲ保護スル者ニ對シ應募者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ偽ルコト

第十三條 募集従事者ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニ付テハ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ズ但シ已ム得サル事由ニ因リ承諾ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 募集従事者應募者ヲ引率シテ出發セ

労働者募集取締令

(大正十三年十二月二十九日)

労働者募集取締令

第一條 本令ニ於テ募集主トハ募集シタル労働者ノ雇主タルヘキ者ヲ謂ヒ、募集従事者トハ募集主ノ委託ヲ受ケ又ハ自ら雇傭セムカ爲テ労働者ノ募集ニ従事スル者ヲ謂フ

第二條 本令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外職工、鑛夫又ハ土工夫其ノ他ノ人夫ノ募集ニ之ヲ適用ス

一 應募者就業ノ爲住居ヲ變更スル必要ナキトキ

二 單ニ廣告ニ依リ募集シ就業場ニ於テノミ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三 移民保護法ニ依ル募集ヲ爲ストキ

第三條 募集主ハ募集開始前左記事項ヲ記載シタル就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ應募者ノ就業場所在地所轄地方長官ニ届出ツヘシ

一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主たる事務所ノ所在地及代表者ノ氏名

二 應募者ノ就業場ノ名稱及所在地

三 短期ノ事業ニ在リテハ其ノ事業ノ開始及終了時期

四 應募者ノ就業スヘキ事業ノ種類

五 就業時間、休憩時間、休日及夜間作業ニ關スル事項

六 賃金ニ關スル件

七 宿舍、食事ノ費用、往復旅費等ノ負擔ニ關スル事項

八 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

九 雇傭期間及解雇ニ關スル事項

十 負傷、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於ケル扶助救済ニ關スル事項

募集主前項ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ノ外募集ニ關シ配布スヘキ文書アルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ届出タル就業案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ變更シタルトキハ遅滞ナク之ヲ届出ツヘシ

第四條 労働者ノ募集ニ従事セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ其ノ寫眞二葉ヲ添ヘ募集主ノ連署ヲ以テ其ノ住所所轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

一 募集主ノ住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、主たる事務所ノ所在地及代表者ノ氏名

二 募集従事者ノ本籍、住所、氏名、職業及生年月日

三 募集従事者ノ雇傭

四 募集従事期間

五 募集従事区域

六 應募者ノ就業場ノ名稱、所在地及事業ノ種類

募集従事期間ハ三年以内トス

第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者更ニ他ノ募集主ノ爲ニ募集ニ従事セムトスルトキハ依ル許可ヲ申請スヘシ

第五條 地方長官前條ノ規定ニ依リ許可ヲ爲シタルトキハ様式第一號ニ依リ募集従事者證ヲ交付スヘシ

募集従事者募集従事者證ヲ滅失、紛失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

募集従事者證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ募集従事者ハ遅滞ナク其ノ書換ヲ申請スヘシ

前二項ノ申請ハ募集従事者ノ寫眞二葉ヲ添ヘ許可ヲ爲シタル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 募集従事者ハ應募者若ハ應募セムトスル者又ハ本人ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ其ノ募集従事者證ヲ提示スヘシ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集主ハ第四條ノ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク之ヲ届出ツヘシ

一 募集主事業ヲ廢止シタルトキ

二 募集主募集従事者ニ對シ募集ノ委託ヲ解キタルトキ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ募集従事者ハ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク募集従事者證ヲ返納スヘシ

一 募集ニ従事スルコトヲ廢シタルトキ

二 募集従事期間満了シタルトキ

三 募集従事者ノ許可ヲ取消セラレタルトキ

前條各號ノ一ニ該當スルトキ

第九條 募集従事者死亡シタルトキハ戶籍法第十七條ノ届出義務者募集従事者證ヲ添付シ許可ヲ爲シタル地方長官ニ遅滞ナク其ノ旨届出ツヘシ

第十條 募集従事者著手セムトスルトキハ豫メ第三條ノ就業案内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スヘキ文書ヲ添付シ左記事項ヲ募集地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 募集従事者ノ住所、氏名

二 募集従事者ノ居所及事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ所在地

三 當該警察官署管内ニ於ケル募集従事期間當該警察官署管内ニ於テ募集セムトスル労働者ノ男女別豫定人員

四 應募者ノ集合所ヲ定メタルトキハ其ノ所在地

前項各號ノ事項又ハ前項ノ規定ニ依リ添付スヘキ文書ニ變更アリタルトキハ遅滞ナク之ヲ届出ツヘシ

第十條 募集従事者ハ應募セムトスル者ニ對シ第三條ノ就業案内又ハ雇傭契約書案ヲ交付シ其ノ主旨ヲ懇示スヘシ

第十一條 募集従事者ハ様式第二號ニ依リ應募者名簿ヲ調製シ、募集従事中之ヲ携帶シ又ハ第九條ノ規定ニ依リ届出タル居所若ハ事務所ニ備付クヘシ

第十二條 募集従事者ハ左ニ掲クル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一 募集従事者證ヲ他人ニ讓渡若ハ貸與シ又

ハ募集主ノ他人ニ委託スルコト

二 募集ニ關シ事實ヲ隱蔽シ誇大虚偽ノ言辭ヲ弄シ其ノ他不正ノ手段ヲ用キルコト

三 應募者ヲ強要スルコト

四 應募者又ハ應募セムトスル女子ニ對シ風俗ヲ紊ル行爲ヲ爲スルコト

五 應募者又ハ應募セムトスル者ニ對シ遊興ヲ勧誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト

六 濫ニ應募者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ケ其ノ他應募者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト

七 濫ニ應募者ニ對シ其ノ所持品ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル所持品ノ返還ヲ拒ムコト

八 應募者ヲ募集従事者證記載ノ募集主以外ノ者ニ周旋スルコト

九 應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ヨリ手数料、報酬等何等ノ名義ヲ問ハズ金錢其ノ他ノ財物ヲ受ケルコト

十 當該官吏又ハ應募者ヲ保護スル者ニ對シ應募者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ偽ルコト

第十三條 募集従事者ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニ付テハ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ズ但シ已ム得サル事由ニ因リ承諾ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 募集従事者應募者ヲ引率シテ出發セ

第十八條 許可ヲ爲シタル地方長官募集従事者ヲ不當ナリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

募集地所轄地方長官募集従事者ヲ不當ナリト認ムルトキハ其ノ募集ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條 募集主ハ労働者ノ募集ニ付様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ取纏メ翌年二月十五日迄ニ就業場所在地所轄地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十條 募集主又ハ募集従事者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ依リ届出テタル就業場内、雇傭契約書案其ノ他募集ニ關シ配布スヘキ文書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

二 第三條ノ規定ニ依リ届出ナキ募集案内、雇傭契約書案其ノ他ノ文書ヲ募集ニ關シ配布シタルトキ

三 第三條、第五條第三項、第七條、第九條乃至第十六條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

四 應募者名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

五 第十七條ノ規定ニ依ル命令ニ従ハサルトキ

六 第十八條第二項ノ規定ニ依リ募集ノ停止中募集ニ從事シタルトキ

第二十一條 第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケス

又ハ募集従事者證記載事項ノ範圍外ニ互リ労働者ノ募集ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十二條 工場法第十八條ノ規定スル工場管理人又ハ職業法施行細則第五十四條ノ規定スル職業代理人ハ本令ノ適用ニ付募集主ト看做ス但シ第三條第一項第一號、第四條第一項第一號及様式第一號ノ記載ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 募集主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第二十四條 募集主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ募集主ニ關スル本令ノ規定ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

第二十五條 本令ハ大正十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

第二十七條 第三條及第十九條ノ就業場所在地所轄地方長官トアルハ鑛業及砂鑛業ニ在リテハ就業場所在地所轄鑛山監督局長トス

第二十八條 應募者ノ就業場所在地又ハ募集従事者ノ住所カ本令施行區域外ニ在ル場合ニ於テハ第三條若ハ第十九條ノ規定ニ依リ届出又

ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ノ申請ハ主タル募集地所轄地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 本令施行ノ際労働者募集取締ニ關スル廳府縣ノ命令ニ依リ募集ニ從事スルコトノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行後二月間ハ許可ヲ爲シタル地方長官管轄区域内ニ限り本令第四條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス(様式略ス)

労働統計實地調査令

(大正十二年五月二十三日)

第一條 労働統計實地調査ハ三年毎ニ一回十月十日現在ニ依リ之ヲ行フ

第二條 本令ニ於テ鑛山ト稱スルハ鑛業法又ハ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業場及工場ヲ謂フ本令ニ於テ労働者ト稱スルハ賃銀ヲ得テ工場又ハ鑛山ノ作業ニ従事スル職工、鑛夫、人夫、其ノ他ノ勞役者ヲ謂フ

第三條 労働統計實地調査ハ第一條第一項ノ期日ニ於テ三十人以上ノ労働者ヲ使用スル工場又ハ五十人以上ノ労働者ヲ使用スル鑛山ノ事業主及労働者ニ付之ヲ行フ但シ左記第一號ニ該當スル工場ニ在リテハ三百人以上、第二號ニ該當スル工場ニ在リテハ八百人以上、第三號ニ該當スル工場ニ在リテハ五百人以上ノ労働者ヲ使用スルモノニ付之ヲ行フ

一 綿絲紡績業又ハ麻絲紡績業ヲ營ムモノ

二 製絲業、絹絲紡績業、船舶車輛製造業、洋紙製板紙類ノ製造業、熨斗製造業又ハセメント製造業ヲ營ムモノ

三 毛氈絲業、眞綿製造業、眞真田製造業、絲

組物紐洋燈心類ノ製造業、活字製造業、漆器業、火藥ダイナマイト類ノ製造業、雷管導火線製造業、製油及製蠟業、籠籠檜檜傘骨柳行李類ノ製造業又ハ蘭廷麥桿眞田及經木眞田製造業ヲ營ムモノ

第四條 第一條第一項ノ期日ニ休業セル工場又ハ鑛山ニシテ引續キ十月二十日迄休業シタルモノニ關シテハ調査ヲ行ハス

第五條 事業主ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス

一 工場又ハ鑛山ノ名

二 工場又ハ鑛山ノ所在地

三 事業ノ種類

四 労働者現在數

五 一日ノ所定労働時間

六 一日ノ所定休憩時間

七 一箇月ノ所定休業日數

八 賃物給與ノ種類及價額

九 労働者ニ付テハ左ノ事項ヲ調査ス

一 氏名

二 男女ノ別

三 出生ノ年月

四 出生地

五 配偶者ノ有無

六 教育ノ程度

七 職名

八 就業ノ年數

九 賃銀

十 賃物給與ノ有無

第六條 労働統計實地調査ハ各工場又ハ鑛山ニ

就キ之ヲ行フ但シ調査ヲ行フ際工場又ハ鑛山ニ出勤セサル者ニ付テハ其ノ居所ニ就キ之ヲ行フコトヲ得

第七條 事業主ハ第五條第一項各號ノ事項ヲ、労働者ハ同條第二項各號ノ事項ヲ申告スル義務アルモノトス

第八條 事業主自ラ工場又ハ鑛山ノ管理ヲ爲ササルトキハ事實上之ヲ管理スル者ヲ以テ事業主ト看做ス

第九條 府縣知事ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣内ノ工場ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス(採択二年令改正)

第十條 鑛山監督局長ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ其ノ管轄区域内ノ鑛山ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス(同上)

第十一條 府縣支廳長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ管轄区域内ノ工場ニ關スル調査ノ執行ヲ指揮監督ス(同上)

第十二條 市町村長ハ工場ニ關シテハ府縣知事(府縣支廳長ノ管轄区域内ノ町村長ハ府縣支廳長)鑛山ニ關シテハ鑛山監督局長ノ指揮監督ヲ承ケ市町村内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス(同上)

第十三條 (同上)

第十四條 労働統計實地調査ノ事務ノ執行ヲ指導セシムル爲メ必要アルトキハ府縣、鑛山監督局長、府縣支廳又ハ市町村ニ労働調査指導員ヲ置クコトヲ得(同上)

第十五條 労働統計實地調査ノ事務ヲ執行セシムル爲メ市町村ニ労働調査員及労働副調査員ヲ

第十六條 勞働調査指導員、勞働調査員及勞働副調査員ハ府縣知事又ハ鑛山監督局長ノ推薦ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第十七條 勞働調査指導員ハ當政府府縣知事、鑛山監督局長、府縣支廳長又ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ調査事務ヲ執行ス

第十八條 勞働調査員及勞働副調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ事業票及勞働票ノ配付蒐集、調査事項ニ關スル質問記入其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十九條 官營事業ニ關スル調査ニ付テハ主務大臣別ニ其ノ手續ヲ定ム

第二十條 本令中府縣支廳長、町村長ニ關スル規定ハ市制第六條及第八十二條ノ市ニ在リテハ市長、區長ニ之ヲ適用シ府縣支廳知事トアルハ北海道廳長、府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳長トアルハ北海道廳支廳長トアルハ之ニ準ス

第二十一條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第二十二條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第十七條 勞働統計實地調査施行規則

第一條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第二條 天災事變其ノ他已ム得サル事故ノ爲メ勞働調査員及勞働副調査員前條ノ期間内ニ其ノ職務ヲ執行シ又ハ之ヲ完結スルコト能ハサルトキハ市町村長ハ該事故アル工場又ハ鑛山ニ限リ其ノ期間ヲ二十日以内延長スルコトヲ得

第三條 勞働調査員又ハ勞働副調査員故障アルトキハ市町村長ハ之ニ代ルヘキ適當ノ者ヲ選任シ其ノ職務ヲ執行セシム

第四條 事業票ハ別表第一號様式、勞働票ハ別表第二號様式ニ依リ之ヲ提出ス

第五條 事業主ハ事業票ニ各調査事項ヲ記入シ署名又ハ捺印ノ上調査期日後五日以内ニ之ヲ勞働調査員ニ提出ス

第六條 勞働調査員又ハ勞働副調査員ハ勞働票ニ就キ各調査事項ヲ問ヒ其ノ申告ニ基キ勞働票ニ記入シ之ヲ勞働者ニ示ス

第十七條 勞働統計實地調査施行規則

第七條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第八條 調査期日後十日ヲ経過スルモ其ノ居所不明ノ勞働者アルトキハ勞働調査員ハ勞働者名簿ノ備考欄ニ「調査不能」ト記入ス

第九條 勞働統計實地調査令第二十條ノ規定ハ本則ニ之ヲ準用ス

第十條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第十一條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第十二條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

●勞働統計實地調査施行細則

第一章 勞働調査指導員、勞働調査員及勞働副調査員ノ選任及職務執行ノ期間

第一條 勞働調査員ハ各工場又ハ鑛山ニ一人ヲ置ク但シ情況ニ依リ數工場又ハ鑛山ヲ通ジテ一人ノ勞働調査員ヲ置クコトヲ得

第二條 勞働者五十人以上ヲ使用スル工場又ハ鑛山ニ在リテハ凡ソ勞働者五十人毎ニ一人ノ割合ヲ以テ勞働副調査員ヲ置ク但シ情況ニ依リ増減スルコトヲ得

第三條 府縣知事又ハ鑛山監督局長ハ府縣、鑛山監督局長、府縣支廳長又ハ市町村ノ職員其ノ他ノ者ノ中ヨリ勞働調査指導員タルニ適當ト認ムル者ヲ、工場又ハ鑛山ノ事業主、職員其ノ他ノ者ノ中ヨリ勞働調査員タルニ適當ト認ムル者ヲ、職員、勞働者ノ中ヨリ勞働副調査員タルニ適當ト認ムル者ヲ選定シ八月十五日迄ニ内閣總理大臣ニ内申ス

第四條 勞働調査員及勞働副調査員ノ任命アリタルトキハ市町村長ハ勞働調査員及勞働副調査員ノ擔當スベキ工場又ハ鑛山ヲ指定ス

第五條 市町村長ハ勞働統計實地調査施行規則第三條ノ規定ニ依リ勞働調査員又ハ勞働副調査員ノ職務ヲ執行スル者ヲ選任シタルトキハ直ニ府縣知事又ハ鑛山監督局長ニ報告ス

第六條 天災事變其ノ他已ム得サル事故ノ爲メ勞働調査員及勞働副調査員勞働統計實地調査施行規則第一條ノ期間内ニ其ノ職務ヲ執行ヲ完結スルコト能ハザルトキハ其ノ旨市町村長ニ申出デ指揮ヲ請フ

第七條 市町村長ハ勞働統計實地調査施行規則第二條ノ規定ニ依リ同第一條ノ期間ヲ延長シタルトキハ鑛山監督局長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ府縣知事又ハ鑛山監督局長ニ直ニ其ノ旨報告ス

第八條 府縣知事又ハ鑛山監督局長ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨内閣總理大臣ニ報告ス

第九條 市町村長ハ準備調査トシテ七月一日現在ニ依リ其ノ管内ニ於テ勞働統計實地調査令第三條ノ規定ニ該當スル各工場又ハ鑛山ニ就キ七月十五日迄ニ左ノ事項ヲ調査シ別表第一號様式ノ準備調査簿ヲ作成ス

第十條 同一事業主ニ屬スル二以上ノ工場又ハ鑛山アルトキハ各別ニ之ヲ調査ス

第十一條 工場又ハ鑛山ノ所在地ニ二以上ノ市町村ニ跨リ調査ニ關スル所屬分明ナラザルモノアルトキハ關係市町村長ハ協議ノ上其ノ所屬ヲ決メシ協議調ハザルトキハ工場ニ關シテハ府縣知事、鑛山ニ關シテハ鑛山監督局長之ヲ指定ス

第十二條 市町村長ハ準備調査後調査期日迄ニ工場又ハ鑛山ノ新設、廢業其ノ他ノ事由ニ依リ調査スベキ工場又ハ鑛山ニ異動アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ都度準備調査簿ヲ加除ス

第十三條 勞働調査員ハ其ノ擔當スル工場又ハ鑛山ニ現在スル勞働者ニ就キ九月末日迄ニ別表第二號様式ノ勞働者名簿ヲ作成シ勞働副調査員ノ分擔スベキ範圍ヲ指定ス

第十四條 勞働調査員ハ勞働者名簿作成後調査期日迄ニ其ノ擔當スル工場又ハ鑛山ノ勞働者ニ異動アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ都度勞働者名簿ヲ加除シ之ヲ勞働副調査員ニ通知ス

第十五條 事業票及勞働票ノ配付、勞働票其ノ他ノ印刷物ハ内閣總理大臣ヨリ工場ニ關スルモノハ府縣知事ニ、鑛山ニ關スルモノハ鑛山監督局長ニ送付ス

第十六條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第十七條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第十八條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第十九條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第二十條 勞働統計實地調査施行規則ハ本令ニ關スル事項ニ關シテ之ヲ施行スルニ必要ナル事項ニ關シテ之ヲ定ム

第十六條 府縣知事又ハ鑛山監督局長ハ事業票及勞働票其ノ他ノ印刷物ヲ受領シタルトキハ其ノ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ八月末日迄ニ之ヲ市町村長ニ(府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ニ對シテハ府縣知事ハ府縣支廳長ヲ通ジテ)送付スベシ

第十七條 府縣支廳長ハ事業票及勞働票其ノ他ノ印刷物ヲ受領シタルトキハ其ノ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ八月末日迄ニ之ヲ管轄區域内ノ町村長ニ送付スベシ

第十八條 市町村長ハ事業票及勞働票其ノ他ノ印刷物ヲ受領シタルトキハ其ノ一部分ヲ豫備ノ爲保存シ其ノ他ハ九月二十五日迄ニ適當ノ方法ニ依リ之ヲ勞働調査員ニ交付スベシ

第十九條 市町村長ハ事業票ヲ勞働調査員ニ交付スルニ當リ準備調査簿ノ番號及道府縣郡市區町村名ヲ各票ニ記入スベシ

第二十條 勞働調査員ハ事業票及勞働票ノ交付ヲ受ケタルトキハ調査期日ノ前日迄ニ事業票ハ之ヲ事業主ニ配付シ勞働票ハ自ら之ヲ保管スベシ但シ勞働調査員ヲ置ク工場又ハ鑛山ニ在リテハ勞働調査員ニ勞働票ヲ交付スベシ

第二十一條 勞働調査員又ハ勞働調査員ハ其ノ保管スル各勞働票ニ勞働者名簿ノ番號ヲ記入スベシ

第二十二條 勞働調査員ハ事業票又ハ勞働票不足スベシト認メタルトキハ直ニ市町村長ニ請求シテ之ガ補給ヲ受クベシ

第二十三條 市町村長ハ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ豫備ノ爲保存シタル事業票又ハ勞働票ヲ交付シ尙不足ヲ生ジタルトキハ府縣知事(府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長)又ハ鑛山監督局長ニ請求シ之ガ補給ヲ受クベシ

第四章 事業票及勞働票ノ検査

第二十四條 勞働調査員又ハ勞働調査員勞働統計實地調査施行規則第六條ノ事務ヲ完結シタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一 勞働票ノ番號及氏名ヲ勞働者名簿ト對照検査スルコト

二 勞働票ノ記入事項ヲ一枚毎ニ検査スルコト

前項検査ノ結果調査漏又ハ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ勞働統計實地調査施行規則第六條ノ規定ニ準ジ調査又ハ訂正スベシ

第二十五條 勞働調査員ハ自己ノ調査シタル勞働票又ハ勞働票記入ノ提出シタル勞働票ニ就キ事業票記入ノ勞働者現在數ト勞働票ノ枚數トヲ對照検査シ誤謬ナシト認メタルトキハ之ヲ番號順ニ整理シ事業票及勞働者名簿ト共ニ之ヲ一括シ十月二十日迄ニ市町村長ニ提出スベシ

第二十六條 市町村長ハ勞働調査員ヨリ事業票及勞働票ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ニ依リ處理スベシ

一 事業票ノ番號及工場又ハ鑛山ノ名ヲ準備調査簿ト對照検査スルコト

二 事業票記入ノ勞働者現在數及勞働者名簿ト勞働票ノ總枚數トヲ對照検査スルコト

三 事業票ノ記入事項ヲ一枚毎ニ検査スルコト

前項検査ノ結果誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ市町村長ハ勞働調査員ヲシテ之ガ訂正ノ手續ヲ爲サシムベシ

第二十七條 勞働調査員又ハ勞働調査員調査漏ノ工場又ハ鑛山アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨市町村長ニ申出ヅベシ

第二十八條 市町村長ハ調査漏ノ工場又ハ鑛山アルコトヲ發見シタルトキハ勞働調査員ヲシテ速ニ調査ヲ爲サシメ又ハ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ調査スベシ

第五章 事業票及勞働票其ノ他ノ附屬書類ノ進達

第二十九條 市町村長ハ検査済ノ事業票ニ依リ工場ト鑛山トノ二種ニ分チ別表第三號様式ノ市町村要計表ヲ作成スベシ

前項ノ要計表ハ組合町村ニ在リテハ各町村別ニ之ヲ作成スベシ

第三十條 市町村長ハ事業票、勞働者名簿及勞働票ヲ各工場又ハ鑛山毎ニ一括シ之ヲ準備調査簿ノ番號順ニ整理シ市町村要計表及準備調査簿ト共ニ適當ノ方法ニ依リ府縣知事又ハ鑛山監督局長ノ定メタル期限迄ニ工場ニ關スルモノハ(府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長ヲ經テ)府縣知事ニ、鑛山ニ關スルモノハ鑛山監督局長ニ提出スベシ

第三十一條 府縣知事ハ市町村長ヨリ提出シタル市町村要計表ニ依リ府縣要計表ヲ作成シ事業票及勞働票其ノ他ノ附屬書類ト共ニ十二月末日迄ニ内閣總理大臣ニ進達スベシ

第三十二條 鑛山監督局長ハ市町村長ヨリ提出シタル市町村要計表ニ依リ各府縣別ニ府縣要計表ヲ作成シ事業票及勞働票其ノ他ノ附屬書類ト共ニ十二月末日迄ニ内閣總理大臣ニ進達スベシ

第三十三條 勞働統計實地調査施行規則第九條ノ規定ハ本細則ニ之ヲ準用ス

附則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年内務省訓令第十五號勞働統計實地調査施行細則ハ之ヲ廢止ス

(別表略ス)

臘虎臘胸獸獵獲禁止ニ關スル件

(明治四十五年四月二十二日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臘虎臘胸獸獵獲禁止ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臘虎臘胸獸獵獲禁止ニ關スル件施行規則

(明治四十五年四月二十二日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル臘虎臘胸獸獵獲禁止ニ關スル法律ニ依リテ施行スルニ關シ

引渡スノ契約ヲ爲ササル場合ニ限ル附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

癩豫防ニ關スル件

(明治四十五年三月十九日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル癩豫防ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

前項癩養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項

主務大臣ハ私立ノ癩養所ヲ以テ第一項ノ癩養所ニ代用セシムルコトヲ得

第四條 第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所ニ對シ必要ナル補助ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ前項ノ例ニ依ル

第八條 國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癲癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 醫師第一條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癲癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十年勅令第二百八十四號ヲ以テ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス)(明治四十年勅令第三百一十一號ヲ以テ改正)

癲癩防法施行規則

明治四十年七月二十日(勅令第九十九號) 改正 明治四十二年七月二十日(勅令第九十九號) 改正 明治四十二年七月二十日(勅令第九十九號) 改正

明治四十年法律第十一號癲癩防ニ關スル件施行規則左ノ通定ム

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

癲癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第二條 癲癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ

且患者ノ本籍、住所、氏名及病況並扶養義務者ノ住所、氏名等ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上救護ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癲癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第三條 前條ニ依リ癲癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管

理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ内務大臣ノ指定シタル設立地ノ地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

當該地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受タヘシ

第五條ノ二、療養所ノ長ハ被救護者ニ對シ左ノ懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得(大正五年內務省令)

一 譴責
二 三十日以内ノ謹慎
三 七日以内常食量二分ノ一マテノ減食
四 三十日以内ノ監禁

前項第三號ノ處分ハ第二號又ハ第四號ノ處分ト併科スルコトヲ得

第一項第四號ノ監禁ニ付テハ情狀ニ依リ管理者タル地方長官又ハ代用療養所所在地地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ期間ヲ二箇月マテ延長スルコトヲ得

第五條ノ三、前條ノ外懲戒又ハ檢束ニ關シ必要ナル細則ハ管理者タル地方長官又ハ代用療養所所在地地方長官ノ認可ヲ經テ療養所ノ長之ヲ定ム(同)

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル

シムルコトヲ得
附則
本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

患者又ハ其ノ扶養義務者ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セズ但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癲癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行政官廳及行政死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ

療養所ニ於テ救護中死亡シタル癲癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得(明治四十二年內務省令) 第二十四號ヲ以テ改正

第九條 第二條及第六條ノ地方長官ノ職權其ノ他癲癩防上警察ニ關スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セ

官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入り機器工作物ノ検査、機器附屬具ノ除却其ノ他相當ノ措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 政府ハ公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ爲メ船舶ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ特殊ノ供給又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相當ノ使用料及特殊ノ供給、設備ノ費ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十五條 公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ無線電信、無線電話、電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ船舶運送、報時、氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第十六條 許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施設シタル無線電信、無線電話ヲ使用シタル者又ハ許可ヲ取消シタル後私設ノ無線電信、無線電話ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ取得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第十七條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ取得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ取得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

私設ノ無線電信又ハ無線電話ニ依リ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限停止、設備變更若ハ除却撤去ノ命令ニ従ハサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者使用ノ制限又ハ停止ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ從事者ニ付亦同シ

第十九條 第六條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ無線電信、無線電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第十四條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ船舶ノ使用ヲ拒ミ若ハ特殊ノ供給設備ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ通信ノ秘密ヲ洩シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 不法ニ無線電信、無線電話ニ關スル料金を免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前

項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虛偽ノ通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

公益ヲ害スル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虛偽ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶運送ノ事實ナキニ拘ラス無線電信又ハ無線電話ニ依リ船舶運送通信ヲ發シタル者ハ三個月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者第一項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金、第二項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役、第三項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第二十三條 無線電信ノ事務ニ從事スル者電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電信ニ依ル電報ノ正當ノ事由ナクシテ開投、毀損、隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第二十四條 無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依リ船舶運送通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

船舶運送通信ノ取扱ヲ妨害シタル者ハ前項ニ同シ

第二十五條 無線電信、無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ障礙シ又ハ之ヲ障礙スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條 本法ニ基キテ爲ス當該吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ第十三條ノ規定ニ依ル検査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條 電信法第四條、第五條、第十一條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及第四十五條ノ規定ハ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス

第二十九條 本法ハ航空機ニ施設スル無線電信及無線電話ニ關シ之ヲ準用ス

第三十條 本法ノ適用ニ付テハ航空機ハ之ヲ船舶ト看做ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正四年勅令第八十五號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ

之ヲ施行ス)

附則 (大正十年法律第六十二號附則)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第八十六號ヲ以テ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス)

之ヲ施行ス)

附則 (大正十年法律第六十二號附則)
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第八十六號ヲ以テ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス)

無盡業法

(大正四年六月二十一日)

法律第二十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル無盡業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

無盡業法

第一條 本法ニ於テ無盡ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スヲ謂フ無盡類似ノ方法ニ依リ金錢又ハ有價證券ノ給付ヲ爲スモノ亦同シ但シ賭博又ハ高籤ニ類似スルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 掛金者ニ對シ契約給付金額ヲ限度トスル貨付上

四 銀行ノ預ケ金又ハ郵便貯金前項第三號ノ規定ニ依リ貸付金額ハ掛込済資本金及諸準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條 無盡業ヲ營ム株式會社カ會社財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ無盡契約ニ基ク會社ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス

前項ノ責任ハ取締役力退任ノ登記ヲ爲シタル後二年間仍存續ス

第十一條 無盡業者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス自己ノ計算ニ於テ其ノ經營スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス

第十二條 無盡業ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及使用人ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス自己ノ計算ニ於テ會社ト無盡契約ヲ爲シ又ハ會社ノ管理スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス

第十三條 無盡業者ハ無盡ノ缺口又ハ掛金ノ拂込ヲ爲ササル者アル場合ト雖第一回ノ抽籤入札ノ後ハ給付金額ヲ減少シ又ハ掛金額ヲ増加スルコトヲ得ス

會社ニ非サル無盡業者ハ其ノ營業ヲ表示スル名稱ヲ附シ其ノ名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウルヘシ
無盡業者ニ非サルモノハ其ノ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス
第五條 無盡業ヲ營ム會社ハ他ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得ス
第六條 無盡業ノ營業區域ハ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定メ會社ニ在リテハ定款中ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ事業方法書中ニ之ヲ記載スヘシ
第七條 無盡業ヲ營ム會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サルハ其ノ效力ヲ生セス
第八條 無盡業者カ資本金額、營業所、事業方法又ハ無盡契約約款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ會社カ定款ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ事業方法又ハ無盡契約約款ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第九條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依リ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス
一 國債證券、地方債證券其ノ他特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ債券又ハ株券ノ購入
二 前號ノ有價證券又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付

第十四條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込ナキ場合ニ於テ掛金者ニ代リ掛金ノ拂込ヲ爲ス責ニ任ス
第十五條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス
掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關スル訴訟ニ於テハ無盡ノ管理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得
前項ノ訴訟ニ於テ言渡シタル判決ハ無盡ノ加入者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス但シ各加入者ハ拂込ヲ了セサル掛金額ヲ超ニテ執行ヲ受クルコトナシ
第十六條 無盡業者ハ毎半年事業ノ報告書ヲ作リ主務大臣ニ提出スヘシ
第十七條 無盡業者ハ毎半年ノ貸借對照表ヲ作リ新聞紙又ハ事業方法書ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ公告スヘシ
第十八條 無盡業者ハ各無盡ニ付抽籤入札ノ都度其ノ收支ノ計算ヲ帳簿ニ記載シ次回ノ抽籤入札ノ前日迄ニ之ヲ營業所ニ備ヘ置クヘシ
第十九條 掛金者ハ無盡業者ニ對シ營業時間内何時ニテモ前半年末貸借對照表ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ前條ノ帳簿中其ノ加入シタル無盡ニ關スル部分ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得
第二十條 無盡業ヲ營ム會社ハ資本又ハ出資ノ

總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡業者ヲシテ其ノ事業報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
第二十二條 主務大臣ハ無盡業者ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ掛金者ノ利益ヲ保護スル爲ニ必要ト認ムルトキハ其ノ事業方法ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
無盡業者カ法令、定款又ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ事業ノ停止若ハ役員ノ改任ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
第二十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ無盡業ヲ營ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十四條 左ノ場合ニ於テハ會社ニ非サル無盡業者又ハ無盡業ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
一 第五條、第八條第一項、第九條、第十一條、第十三條、第十六條乃至第十八條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第六條ノ規定ニ依リ定メタル營業區域外ニ於テ營業ヲ爲シタルトキ
三 第八條第二項又ハ第十二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
四 正當ノ理由ナクシテ第十九條ノ閱覽ノ請

五 求ヲ拒ミタルトキ
第二十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ
第二十五條 第十二條ノ規定ニ違反シ無盡業者ト無盡契約ヲ爲シタル會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役若ハ使用人又ハ會社ニ非サル無盡業者ノ使用人ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
無盡業者前項ノ無盡契約ヲ爲シタルトキハ會社ニ非サル無盡業者又ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
第二十六條 第二十條ノ規定ニ違反シタルトキハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
第二十七條 第四條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處ス
第二十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス
第二十九條 本法中主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十一條 本法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ本法施行前ニ爲シタル無盡契約ノ完了スル

迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十五條、第十六條、第十八條、第二十一條乃至第二十四條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ他ノ事業ト共ニ無盡業ヲ營ム會社カ無盡業ノ免許ヲ申請シ之ヲ免許スル場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ免許ト共ニ五年内ノ期間ヲ定メ其ノ營業ノ事業ノ兼營ヲ認許スルコトヲ得

第三十三條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ二箇以上ノ道府縣ニ互リ無盡業ヲ營ム者カ無盡業ノ免許ヲ申請シ之ヲ免許スル場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ免許ト共ニ五年内ノ期間ヲ定メ其ノ營業區域外ニ於ケル營業ノ繼續ヲ認許スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認許ヲ受ケ其ノ營業區域外ニ於ケル營業ノ繼續ヲ認許シテハ無盡業者ハ認許期間満了後其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第三十四條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ無盡業ヲ營ム會社カ無盡業ノ免許ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ資本又ハ出資ノ金額ヲ以テスル拂込金額ニ付第三條ノ規定ヲ適用セズ

無盡業法施行細則

大正四年十月五日

無盡業法施行細則左ノ通定ム

第一條 新設會社ニシテ無盡業ヲ營ムトスルモノハ其ノ資本金額及營業所ヲ記載シタル免許申請書ニ業務執行社員ノ全員、總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 定款

二 事業方法書

三 無盡業契約書

四 認可申請前日ニ於ケル會社ノ日計表

五 前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面、株式會社ニ在リテハ非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類、株式合資會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 既設會社ニシテ無盡業ヲ營ムトスルモノハ其ノ資本金額及營業所ヲ記載シタル免許申請書ニ業務執行社員ノ全員、總取締役署名シ前條第一項ニ記載シタル書類ノ外左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 會社登記簿ノ謄本

二 最終ノ財産目録及貸借對照表

三 最終ノ損益計算及利益處分ニ關スル書面

四 株主ノ氏名及持株數ヲ記載シタル書面

第三條 會社ニ非スシテ無盡業ヲ營ムトスル者ハ其ノ資本金額、營業所及營業ヲ表示スル名稱ヲ記載シタル免許申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 戶籍謄本

二 履歷書

三 資産調査書

四 事業方法書

五 無盡業契約書

第四條 會社ニ非スシテ新ニ無盡業ノ免許申請ヲ爲ス者他ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ其ノ事業ノ種類ヲ記載シタル認許申請書ニ事業狀況説明書又ハ事業計畫書ヲ添附シテ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ規定ハ會社ニ非スシテ既ニ無盡業ヲ營メル者他ノ事業ヲ兼營セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 事業方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 無盡業ノ種類

二 各種無盡業ノ豫定收支計算

三 各種無盡業ニ付無盡業者ノ利益ニ組入ルヘキ金額ノ算出方法

四 各種無盡業ニ付給付金カ掛金ヲ超過スル場合ニ於ケル給付資金ノ補填方法

五 掛金ノ取立又ハ拂込ノ方法

六 抽籤入札其ノ他給付ノ順位ヲ定ムル方法

七 入札ノ場合ニ於ケル最低手取金高ノ制限

八 入札差金分配ノ方法

九 掛金ニ對スル保證又ハ擔保ニ關スルコト

十 欠口處理ノ方法

十一 代理店ノ權限ニ關スルコト

十二 勸誘又ハ集金ニ要スル經費

十三 會社ニ非スシテ無盡業ヲ營ム者ノ事業經營區域

十四 貸借對照表ヲ新聞紙ニ公告セサル者ニ在リテハ其ノ公告方法

前項第二號ノ豫定收支計算ハ無盡業ノ口數、毎回ノ掛金額、給付ノ金額、回数及其ノ毎回ニ於ケル收支及支出金額ヲ表記スルコトヲ要ス

無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ニ在リテハ其ノ旨ヲ事業方法書ニ附記スルコトヲ要ス

第六條 無盡業契約書ニハ前條第五號乃至第九號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 掛金延滞ノ場合ニ於ケル違約金又ハ遅延利息ニ關スルコト

二 無盡業契約解除ノ條件及效果ニ關スルコト

三 無盡業契約ニ基ク權利義務ノ讓渡ニ關スルコト

第七條 無盡業契約ヲ爲スニハ書面ヲ用フルコトヲ要ス

無盡業契約書ニハ無盡業契約ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第八條 無盡業契約ノ期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 無盡業ノ給付金額ハ千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條 無盡業ノ口數ハ百ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 無盡業者ハ特ニ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十二條 無盡業者カ事業ヲ開始シタル日ヨリ六月内ニ事業ノ開始ヲ爲ササルトキハ營業免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 無盡業者カ事業ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第十四條 無盡業者カ事業ヲ開始シタルトキハ監査役ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其ノ住所、氏名及職業ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十五條 無盡業者カ支店ニ非サル出張所、派出所又ハ代理店ヲ設置、移轉又ハ廢止シタルトキハ事由ヲ具シ其ノ年月日、所在場所並代理店主ノ住所、氏名及職業ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第十六條 無盡業者カ支店ニ非サル出張所、派出所又ハ代理店ヲ設置、移轉又ハ廢止シタルトキハ事由ヲ具シ其ノ年月日、所在場所並代理店主ノ住所、氏名及職業ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第十七條 無盡業者カ其ノ事業ヲ廢止シ又ハ解散シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ニ届出ツヘシ

第十八條 無盡業者カ破産ノ宣告ヲ受ケ、破産宣告ニ對シ抗告ヲ爲シ又ハ抗告ニ對シ裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ地方長官ニ届出ツヘシ

裁判所ノ認可ヲ受ケ又ハ協諾契約カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第十六條 無盡業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後各會社ノ業務執行社員ノ全員、總取締役ノ署名シタル認許申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 總會ノ決議書又ハ社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書面

二 合併ニ關スル契約書

三 合併ニ因リ存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款

四 商法第七十八條第一項ニ依リ作成シタル貸借對照表

五 商法第七十八條第二項ニ依ル公告、催告及商法第二百二十條ノ二ノ通知ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書面

第十七條 合名會社カ組織ヲ變更シテ合資會社トナリ若ハ合資會社カ組織ヲ變更シテ合名會社トナリタルトキハ其ノ同書ニ貸借對照表、定款及組織變更ニ關スル社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書面ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第十八條 株式合資會社カ組織ヲ變更シテ株式會社トナリタルトキハ其ノ同書ニ貸借對照表、定款及組織變更ニ關スル株主總會ノ決議、無限責任社員ノ一致アリタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書面ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第十九條 無盡業ヲ營ム會社カ定款ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書、株主總會ノ決議、總社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ルヘキ書面ヲ添附シテ地方長官ニ提出スヘシ

株式會社又ハ株式合資會社ノ資本減少ニ關スル定款變更認可申請書ニハ前項ノ書類ノ外第十六條第四號及第五號ノ書面ヲ添付スヘシ

第二十條 會社ニ非サル無盡業者カ資本金額又ハ營業所ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ地方長官ニ提出スヘシ

會社ニ非サル無盡業者カ其ノ營業ヲ表示スル名稱ヲ變更シタルトキハ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 無盡業者カ事業方法ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ地方長官ニ提出スヘシ

第二十二條 無盡業者ノ事業年度ハ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第二十三條 無盡業法第十六條ノ事業報告書ハ附屬雛形ニ準シテ調製シ事業年度經過後二月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケテ延期スルコトヲ得

第二十四條 無盡業法第十八條ノ帳簿ニハ無盡ノ番號及現在口數ヲ記載シ左記各號ニ關スル收支計算ヲ明ニスヘシ

一 掛金
二 給付金(入札差金ヲ含ム)

三 入札差金
四 解約ニ因ル受拂金
五 利益ニ組入ルヘキ金額

第二十五條 本則中給付金、給付金額トアルハ有價證券ノ給付ヲ爲ス無盡ニ在リテハ給付證券、給付證券價額トシ、無盡業者ノ利益ニ組入ルヘキ金額トアルハ無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業ニ在リテハ管理手数料其ノ他管理者ノ取得スヘキ利益トス

第二十六條 無盡業法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ本則施行後一月内ニ其ノ事業狀況ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱、營業所、資本金額、拂込資本金額、無盡契約高、給付済高、其ノ兼營スル他業ノ種類、最終ノ貸借對照表及會社ノ取締役、監査役又ハ業務執行社員ノ氏名ヲ記載シ定款、營業規程ヲ添付スヘシ

第二十七條 無盡業法第三十二條ノ規定ニ依リ他ノ事業ノ兼營ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ認可申請書ニ其ノ兼營セムトスル事業ノ經過、現在ノ狀況及將來ノ計畫ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十八條 無盡業法第三十三條ノ規定ニ依リ營業區域外ニ於ケル營業繼續ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ認可申請書ニ事業ノ將來ニ關スル計畫ヲ記載シタル書面ヲ添付シ其ノ營業地ヲ管轄スル地方長官ノ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル無盡業者カ資本金額又ハ定款ヲ變更セムトスルトキハ主たる營業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ認可申請書ヲ提出スヘシ

第二十九條 無盡業法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ニシテ其ノ營業ノ免許ヲ得サルモノノ事業報告書ハ第二十三條ノ雛形ニ依ルコトヲ要セス

前項ノ無盡業者ニ對シテハ第二十四條ノ規定ヲ適用セス

第三十條 無盡業法又ハ本則ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ノ經由スルコトヲ要ス

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ會社ニ非サル無盡業者又ハ無盡業ヲ營ム會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ヲ科料ニ處ス

一 第七條、第十二條乃至第十五條、第十七條、第十八條、第二十條第二項又ハ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第二十四條ノ規定ニ違反シ帳簿ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

附則
本則ハ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス(雛形略ス)

●無盡業法ニ依リ主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルノ件

(大正四年十月十五日 勅令第七十八號)

無盡業法第二十九條ニ依リ主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

無盡業法第二十九條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル事項ハ無盡業ノ營業地ヲ管轄スル地方長官ヲシテ之ヲ行ハシム但シ第四號ノ検査ノ事宜ニ依リ主務大臣ニ於テ之ヲ行フ

一 無盡業法第五條第二項ノ規定ニ依リ他ノ事業ノ兼營ヲ認可スルコト
二 無盡業法第八條ノ規定ニ依リ資本金額、營業所、事業方法、無盡契約約款又ハ會社定款ノ變更ヲ認可スルコト
三 無盡業法第十一條第二項ノ規定ニ依リ自己ノ管理スル無盡ニ加入スルコトヲ認可スルコト
四 無盡業法第二十一條ノ規定ニ依リ事業報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコト

附則
本令ハ大正四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●無盡業取扱方

(大正四年十月十六日 勅令第七十九號)

無盡業取扱方左ノ通り心得ヘシ

第一條 無盡業ノ免許申請書、無盡業ヲ營ム會社ノ合併ノ認可申請書又ハ無盡業法第三十二條ノ規定ニ依リ認可申請書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第二條 事業方法又ハ無盡契約約款ノ變更、事業ノ停止、役員ノ改任ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲シ又ハ免許ヲ取消スノ必要アリト認ムルトキハ其事由ヲ具シテ上申スヘシ

第三條 無盡業者ノ資本金額、營業所、事業方法、無盡契約約款若ハ會社定款ノ變更ヲ認可シ又ハ會社ニ非サル無盡業者ノ他ノ事業ヲ兼營スルコトヲ認可シ若ハ自己ノ管理スル無盡ニ加入スルコトヲ認可シタルトキハ一月内ニ之ヲ報告スヘシ

第四條 無盡業法施行細則第十二條乃至第十五條、第十七條、第十八條又ハ第二十條第二項ノ届書ヲ受理シタルトキハ一月内ニ之ヲ報告スヘシ

第五條 無盡業者ノ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱
二 組織
三 兼營スル他業ノ種類
四 營業所ノ所在場所

五 營業區域
六 資本ノ總額及一株ノ金額、株式ノ數又ハ各社員ノ出資額、責任ノ種類
七 拂込済資本金額
八 存立時期
九 營業主、取締役、監査役、業務執行社員、支配人ノ氏名
十 營業免許、會社設立登記及開業ノ年月日
十一 支拂停止ノ事由及年月日
十二 破産ノ事由及年月日
十三 解散又ハ事業廢止ノ事由及年月日
十四 合併ノ認可又ハ定款、事業方法、無盡契約約款變更ノ認可其ノ他行政處分ノ年月日

前項ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ記入スヘシ

第六條 無盡業者ノ提出シタル事業報告書ニ基キ無盡業ノ狀況ニ關スル統計ヲ作成シテ次ノ事業年度内ニ之ヲ提出スヘシ

第七條 無盡業法施行細則第二十六條ニ依リ事業狀況届書ヲ受理シタルトキハ同則施行後二月内ニ營業者ノ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱、營業所、資本金額、拂込資本金額、無盡契約高、給付済高、其ノ兼營スル他業ノ種類、會社ノ取締役、監査役、業務執行社員又ハ營業主ノ氏名ヲ報告スヘシ

前項ノ事項ニ關スル各事業年度内ノ變更ハ次ノ事業年度内ニ之ヲ報告スヘシ

第八條 二箇以上ノ道府縣ニ互リ無盡業ヲ營ム

者カ認可又ハ認許ノ申請ヲ爲シタル場合ニハ
他ノ道府縣ノ地方長官ト協議ノ上之ヲ處分ス
ヘシ

者カ認可又ハ認許ノ申請ヲ爲シタル場合ニハ
他ノ道府縣ノ地方長官ト協議ノ上之ヲ處分ス
ヘシ

四 若シ該河川ノ航行ノ妨害ヲ及ボスル
五 若シ該河川ノ航行ノ妨害ヲ及ボスル
六 若シ該河川ノ航行ノ妨害ヲ及ボスル

六 若シ該河川ノ航行ノ妨害ヲ及ボスル
七 若シ該河川ノ航行ノ妨害ヲ及ボスル
八 若シ該河川ノ航行ノ妨害ヲ及ボスル

う部

●運河法

改正 大正二年四月九日
法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ運河法ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

運河法

第一條 一般運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河
ヲ開設セムトスル者ハ内務大臣ノ免許ヲ受ク
ヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定シ
タル期限内ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申
請スヘシ

第三條 國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケ
タル者ニ於テ運河ニ接続若ハ接近シ又ハ之ヲ
横斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌
道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ
免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ效用ニ妨害ナキ限リ
之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四條 前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ
妨害アリキ否ニ付争アルトキ又ハ同條第二項ノ
場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用

ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ
決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴
願スルコトヲ得

第五條 工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認
可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改
築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始
セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河
使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受
クヘシ

第八條 地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前
項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタ
ル者ヨリ事業ノ報告ヲ徴シ又ハ其ノ狀況ヲ檢
査スルコトヲ得

第十條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタ
ル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命ジ
其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 運河及附屬物件ハ免許ノ效力存續スル
間及其ノ效力消滅後一年間ハ内務大臣ノ許可
ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供
スルコトヲ得ス

第十二條 株式會社又ハ株式合資會社カ事業經
營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額
ハ株金ノ十分一迄下ルコトヲ得

第十三條 水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤
防、護岸、物揚場、繫船場ノ築設ニ要ス

ル土地
二 運河用通信、信號ニ要スル土地
三 上屋、倉庫等ノ建設ニ要スル土地
四 運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製
作スル工場ノ建設ニ要スル土地
五 職務上常住ヲ要スル運河從事員ノ住宅及
前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル土地ハ運河ニ
沿ヒタルモノニ限ル

第十四條 明治四十二年法律第二十八號ハ運河
ノ財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組
ス

一 水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル
工作物並ニ之ニ屬スル器具、機械
二 工場、上屋、倉庫、事務所、住宅及其ノ
敷地並ニ之ニ屬スル器具、機械
三 運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ
敷地並ニ之ニ屬スル器具、機械
四 前三號ニ掲ケタル工作物ヲ所有シ又ハ使用
スル爲メ他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上
權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲ケタル
土地ノ爲ニ存スル地役權
五 運河ニ要スル船舶並ニ之ニ屬スル器具、機
械
六 運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機
械

第十五條 國又ハ公共團體ハ免許ノ效力消滅シ

タル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條 國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲タル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得

一 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二 免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十八條 工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十九條 前二條ノ場合ニ於テ同一路線ニ當リ運河ノ開設ヲ免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル

運河法施行規則

(大正二年十一月二十八日)

(內務省令第十七號)

本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附則

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正二年勅令第三百五號ヲ以テ大正二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス)

第二十一條 本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十二條 本法ノ適用ヲ受ケル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得(大正四年法律第二十號)

運河法施行規則左ノ通定ム

運河法施行規則

第一條 運河開設免許ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一 起業目論見書

二 運河測量圖

三 開設費概算書

四 事業上ノ收支概算書

五 組合事業ニ在リテハ其ノ組合契約書ノ謄本

六 會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本

七 會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記及定款ノ謄本並運河事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄若ハ總社員ノ同意書ノ謄本

八 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ運河事業經營ニ關スル決議書ノ謄本

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 起業ノ目的及理由

二 運河ノ名稱及主たる事務所設置地

三 事業資金ノ總額及財源

四 運河ノ起點、終點及經過地名

五 運河ノ延長、底幅及水深(水面長尺ヲ以テシ)

六 運河ノ通航スヘキ最大舟筏ノ長、幅及吃水並航行ノ方法

七 工事施行期間

八 事業經營期間

第三條 運河測量圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ二百分一以上トシ運河ノ中心線、開門、水門、隧道、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場等ノ位置並附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面等ノ位置及名稱ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

二 縱斷方面

縮尺ハ距離ヲ二百分一以上、高ヲ二百分一以上トシ地盤及運河底敷ノ高位、諸水位(水面長尺ヲ以テシ)並平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

三 橫斷定規圖

縮尺ハ二百分一以上トシ縱橫ノ各寸法ヲ記入スヘシ

運河測量圖ニハ運河經過地ノ地勢、水路選定ノ理由並運河ト附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等トノ關係ヲ説明シタル書類ヲ添付スヘシ

第四條 開設費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、開門費、水門費、隧道費、橋梁費、通信信號設備費、建物費、船舶費、器具機械費、總務費等ノ各項ニ分チ數量及金額ヲ記載スヘシ

第五條 事業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ

總額、內譯並其ノ計算ノ基ヲ所ヲ示シ且事業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第六條 工事設計認可ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一 運河測量圖

二 構造圖

三 工事說明書

四 土坪計算書

五 開設費概算書

第七條 運河測量圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ三千分一以上トシ運河ノ中心線、曲線ノ半徑及交角、運河用地ノ境界、水路、開門、水門、隧道、道路、曳船道、堤防、物揚場、繫船場、船溜、待避場、上屋、倉庫、工場、倉宅、駐在所、通信所、信號所等及之ニ要スル土地ノ區劃、用地以外左右各百間以内ノ地勢、附近ノ市街、村落、鐵道、軌道、道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等及其ノ名稱、運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ工作物、府、縣、郡、市、區、町、村ノ境界及方位ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

二 縱斷方面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシ高ヲ二百分一以上トシ地盤、運河底敷及兩岸堤防ノ高位、諸水位(水面長尺ヲ以テシ)並平面圖

ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

三 橫斷面圖

縮尺ハ二百分一以上トシ一町毎ニ調製スヘシ但シ水路幅員ノ異ナル箇所ニ付テハ其ノ斷面ヲ示スヘシ

第八條 構造圖ハ左ノ二種トス

一 護岸、開門、水門、隧道、曳船道、堤防、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場、通信所、信號所等ノ構造圖

二 運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ橋梁、伏越其ノ他ノ工作物ノ構造圖

前項第二號ノ構造圖ニハ運河ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及斷面圖ヲ添付スヘシ

第九條 工事說明書ニハ水路測定ノ理由、運河測量圖及構造圖ニ示シタル各工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、作業方法、掘鑿及浚渫土砂處分方法等ヲ記載スヘシ

第十條 土坪計算書ニハ一町毎(地盤ノ起伏其ノ力又(其ノ其)ニ横斷面ヲ取リ其ノ番號、距離、平積、立積ヲ記載シ土質ヲ區別シテ切取、盛土ノ數量ヲ示スヘシ

第十一條 開設費概算書ニハ第四條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、金額及內譯ヲ示スヘシ

開門、水門、隧道等構造ノ複雜ナル工作物ニ付テハ設計書ヲ添付スヘシ

第十二條 免許ヲ受ケタル者會社發起人ナルトキハ會社成立ノ後ニ非サレハ工事設計ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第十三條 指定ノ期限内ニ工事設計ノ認可ヲ申請スルコト能ハサルトキハ正當ノ事由アル場合ニ限り期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 免許ヲ受ケタル者ハ工事設計ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ著手シ指定ノ期限内ニ之ヲ竣功スヘシ但シ正當ノ事由ニ因リ期限内ニ著手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 工事ニ著手シ又ハ竣功シタルトキハ運河ニテ地方長官ニ届出ツヘシ

第十六條 免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ通航ヲ停止スルコトヲ得ス

第十七條 免許ヲ受ケタル者ハ毎事業年度後一箇月内ニ事業報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十八條 運河法第四條、第十五條第二項、第十六條第二項又ハ第十九條第二項ニ依リ決定ノ申請書ハ正副二通ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 當事者ノ表示

二 申請ノ目的及理由

三 協議ノ顛末

第十九條 前條ノ申請書ヲ受理シタル地方長官ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期限内ニ

答辯書ヲ提出セシムヘシ

指定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定ヲ爲スコトヲ得副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十條 決定ノ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ運河ニテ内務大臣ニ届出ツヘシ

一 免許申請者又ハ免許ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ住所ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ

二 會社成立シ又ハ解散シタルトキ

三 定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ

四 本則第二條第二號及第三號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ

五 事業ヲ廢止シタルトキ

第二十二條 本則ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ總テ副本ヲ作成シ運河開設地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

第二十三條 本則ハ運河法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 運河法施行前免許ヲ受ケタル運河ニシテ免許ノ條件ニ因リ免許年限滿了後官有ニ歸スヘキモノニ付テハ運河法中第十五條以外ノ規定ヲ其ノ他ノモノニ付テハ運河法ノ規定全部ヲ適用ス

第二十五條 運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際既ニ許可若ハ認

可ヲ受ケタルモノハ運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十六條 運河法第二十二條ニ依リ運河用地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ内務大臣ニ申請スヘシ

の部

農工銀行法

第一章 總則

第一條 農工銀行ハ株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但シ土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ノ取締役及監査役ハ農工銀行ノ營業區域内ニ住所ヲ有スルコトヲ要ス

第二章 營業

第五條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二 拂込資本金及積立金總額ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

三 市町村又ハ法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シ無抵當ニテ本條第一號第二號ノ貸付ヲ爲スコト

四 耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ耕地整理組合若ハ其ノ聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ無抵當ニテ本條第一號、第二號ノ貸付ヲ爲スコト

五 十人以上ノ農業者、工業者又ハ漁業者申合セテ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限り五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト

六 都市計畫法ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ土地區劃整理組合若ハ其ノ

聯合會ヨリ借用ヲ申出タルトキ又ハ共同施行者カ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ無抵當ニテ本條第一號、第二號ノ貸付ヲ爲スコト

第六條 ノ二 工場財團及工場ニ屬スル敷地又ハ建物ヲ除クノ外市制施行地及勅令ヲ以テ指定スル市街地ニ存在スル宅地又ハ建物ヲ抵當トスル貸付金額並前條第六號ノ貸付金額ハ拂込資本金額及農工債券發行額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 前條ノ貸付ハ勅令ヲ以テ指定スル地方ニ限リ拂込資本金額及農工債券發行額ノ四分ノ三迄之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 ノ二 農工銀行ハ第六條第二號ノ制限内ニ於テ漁業權ヲ抵當トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第七條 ノ三 産業組合、重要輸出品工業組合、漁業組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合會ニハ無抵當ニテ第六條第一號又ハ第二號ノ貸付ヲ爲スコトヲ得

第七條 ノ四 農工銀行ハ日本勸業銀行カ割増金附助業債券ノ發行ニ依リテ得タル資金ヲ以テ引受ケタル農工債券ニ依リ資金ヲ田、畑、鹽田、山林、牧場、養魚池又ハ漁業權ヲ抵當トスル貸付並第六條第三號乃至第五號、第七條ノ二及第七條ノ三ノ貸付ノ外使用スルコトヲ得

第八條 農工銀行ニ於テ抵當ノ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但シ舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキ又ハ先順位ノ抵當權者カ農工銀行ニシテ舊貸付金額及新貸付金額カ第十條ノ制限ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラズ(明治三十三年法律第三十六條改正)

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ貸付ケル場合ニハ有價證券又ハ不動産ヲ添擔保ニ徵スルコトヲ得(明治三十三年法律第三十六條改正)

第十條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永続スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

第十一條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但シ抵當物ノ外ニ貸付金高ニ倍以上ノ價格ヲ有スル不動産又ハ不動産ヲ添擔當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十二條 不動產ヲ抵當トシテ貸付ケル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以內トス漁業權ヲ抵當トスルトキ亦同シ(明治三十三年法律第三十六條改正)

第十三條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

第十四條 前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得但シ貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 農工銀行ハ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十六條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

第十七條 前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十九條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得

第二十一條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項ニ依リ償還貸付金タルモノヲ控除シタル金額及定期償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ズ(明治三十五年法律第四十條改正)

第二十二條 農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得(明治三十二年法律第三十條改正)

第二十三條 農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス(明治三十二年法律第三十條改正)

第二十四條 農工債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社債總額トス(明治三十二年法律第三十條改正)

第二十五條 農工銀行ハ券面金額二十圓以下ノ農工債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出期方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス(明治三十五年法律第四十條改正)

第二十六條 農工銀行ハ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十七條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

第二十八條 前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第二十九條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第三十條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第三十一條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得

第三十二條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項ニ依リ償還貸付金タルモノヲ控除シタル金額及定期償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ズ(明治三十五年法律第四十條改正)

第三十三條 農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得(明治三十二年法律第三十條改正)

第三十四條 農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス(明治三十二年法律第三十條改正)

第三十五條 農工債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社債總額トス(明治三十二年法律第三十條改正)

第三十六條 農工銀行ハ券面金額二十圓以下ノ農工債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出期方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス(明治三十五年法律第四十條改正)

第三十七條 農工銀行ハ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第三十八條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

第三十九條 前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第四十條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第四十一條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得

第四十三條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項ニ依リ償還貸付金タルモノヲ控除シタル金額及定期償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ズ(明治三十五年法律第四十條改正)

第四十四條 農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得(明治三十二年法律第三十條改正)

第四十五條 農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス(明治三十二年法律第三十條改正)

第四十六條 農工債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社債總額トス(明治三十二年法律第三十條改正)

第四十七條 農工銀行ハ券面金額二十圓以下ノ農工債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出期方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス(明治三十五年法律第四十條改正)

第四十八條 農工銀行ハ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第四十九條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

第五十條 前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第五十一條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第五十二條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第五十三條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得

第五十四條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項ニ依リ償還貸付金タルモノヲ控除シタル金額及定期償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ズ(明治三十五年法律第四十條改正)

第五十五條 農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得(明治三十二年法律第三十條改正)

第五十六條 農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス(明治三十二年法律第三十條改正)

第五十七條 農工債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社債總額トス(明治三十二年法律第三十條改正)

第五十八條 農工銀行ハ券面金額二十圓以下ノ農工債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出期方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス(明治三十五年法律第四十條改正)

第五十九條 農工銀行ハ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第六十條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借入金ノ全部若ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

第六十一條 前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手数料ヲ要求スルコトヲ得

第六十二條 債務者ハ借入金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應ジ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第六十三條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遅延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第六十四條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得

第六十五條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ農工債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項ニ依リ償還貸付金タルモノヲ控除シタル金額及定期償還貸付金總高ヲ超過スルコトヲ得ズ(明治三十五年法律第四十條改正)

第六十六條 農工債券ハ券面金額ヲ十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者若ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得(明治三十二年法律第三十條改正)

第六十七條 農工債券ヲ發行スル場合ニハ商法第九十九條及第二百條ノ二ノ規定ヲ適用セス(明治三十二年法律第三十條改正)

第六十八條 農工債券ヲ發行スル場合ニ於テ應募總額カ社債申込證ニ記載シタル社債總額ニ達セサルトキト雖社債ヲ成立セシムル旨ヲ社債申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ社債總額トス(明治三十二年法律第三十條改正)

第六十九條 農工銀行ハ券面金額二十圓以下ノ農工債券ヲ發行スル場合ニ於テハ賣出期方法ニ依ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ賣出期間ヲ定ムルコトヲ要ス(明治三十五年法律第四十條改正)

第二十九條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ付拂フヘシ

第三十條 農工銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキハ第二十七條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十一條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十二條 農工債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第三十三條 (一) 第四十四條法律ニ依リテ

第四章 準備金

第三十四條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十五條 大藏大臣ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス

第三十六條 農工銀行ノ定款ハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

第三十七條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セムトスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ又大藏大臣ニ於テ支店若ハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十八條 農工銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ

得ス

第三十九條 大藏大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背反シ若ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十條 農工銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十一條 大藏大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十二條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ營業年度ノ初ニ於テ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セムトスルトキモ亦同シ

第四十三條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ大藏大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十四條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見を陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十五條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十六條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第六條第六條ノ二第七條又ハ第七條ノ四ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニ非サルモノニ對シ貸付ヲ爲シタルトキ

第二十二條但書ノ規程ニ反シ預リ金ヲ爲シ又ハ第二十三條ノ規定ニ反シ預リ金若ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

第二十五條ノ規程ニ反シ此ハ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

第二十六條又ハ第二十六條ノ三ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但シ第一十八條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條第二十八條第二項及第三十條ノ規程ニ反シ農工債券ノ償還ヲ爲ササルトキ

第三十四條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十七條 (一) 第四十四條法律ニ依リテ

第四十八條 北海道廳長官及府縣知事ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ設立委員ヲ置キ農工銀行設立ノ免許ヲ得ルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第五十條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ稟請スヘシ

第五十一條 設立委員簡條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ農工銀行取締役ニ引渡スヘシ

第五十二條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ銀行法ヲ適用ス

農林省統計報告規則

農林省統計報告規則左ノ通定ム

第一條 農林省統計報告規則ニ掲グル事項ヲ調査シ各其ノ様式ニ依リ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ但シ其ノ報告期限ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第二條 市町村長ハ前條ノ調査ヲ行フ爲市町村ニ調査區ヲ設ケ各調査區ニ調査員ヲ置クヘシ

第三條 調査區ハ大字、小字等地理上獨立ノ稱呼ヲ有スル區域又ハ調査事項ノ種類ヲ標準トシ當該市町村ニ於ケル産業ノ狀態又ハ調査ノ難易ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ擔當調査區内ニ於ケル農林省統計調査ノ事務ヲ執行スヘシ

第五條 市町村長調査員ヲ任免シタルトキハ其ノ擔當調査區ト共ニ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六條 市町村長調査員ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ内容ヲ檢査シ必要ト認ムルトキハ再調査ヲ爲サシムヘシ

第七條 地方長官第一條ノ規定ニ依リ市町村長ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ別表各様式ニ依リ道府縣計ニ整理集計シ別表各様式ニ掲クル期限迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第八條 本則ノ規定ニ依リ蒐集シタル資料ハ統

農林省統計報告規則

計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第九條 農林省統計調査ニ關スル事務ニ從事シタル者其ノ職務ノ執行ニ關シ個人、法人又ハ組合ノ業務ニ付知得シタル事項ヲ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條 本則中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本則ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

農林省統計様式

第一 耕地面積

第二 水稻作況

第三 米第一回豫想收穫高

第四 米第二回豫想收穫高

第五 米

第六 麥豫想收穫高

第七 麥

第八 食用農産物

第九 園藝農産物

第一〇 工業農産物

第一一 綠肥用作物

第一二 果樹苗

第一三 茶畑

第一四 製茶

第一五 桑畑

第一六 桑苗

- 第一七 春蠶理想樹立枚數
- 第一八 春蠶理想收穫高
- 第一九 春蠶
- 第二〇 夏秋蠶理想樹立枚數
- 第二一 夏秋蠶理想收穫高
- 第二二 夏秋蠶
- 第二三 天蠶及柞蠶
- 第二四 蠶絲類
- 第二五 眞綿
- 第二六 天蠶絲及柞蠶絲
- 第二七 蠶網
- 第二八 蠶製品
- 第二九 牛
- 第三〇 牛乳
- 三一 馬
- 三二 豚
- 三三 綿羊
- 三四 山羊
- 三五 鷄
- 三六 鶩
- 三七 蜜蜂
- 三八 屠殺
- 三九 乳肉製品及罐詰
- 四〇 水産業者
- 四一 漁船
- 四二 漁船
- 四三 沿岸漁獲物
- 四四 遠洋漁業
- 四五 水産養殖

- 第四六 水産製造物
- 第四七 寒天
- 第四八 公私有林野面積
- 第四九 公私有造林用苗木
- 第五〇 公私有林野人工造林
- 五一 公私有林野天然造林
- 五二 公私有林伐採
- 五三 林野產物
- 五四 公私有林野放牧
- 五五 公私有林野被害

（報告様式略）

農林省統計報告規則

●農會法

(六正十一月十二日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル農會法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農會法

第一條 農會ハ農業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 農會ハ法人トス

第三條 農會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

- 一 農業ノ指導獎勵ニ關スル施設
- 二 農業ニ從事スル者ノ福利増進ニ關スル施設
- 三 農業ニ關スル研究及調査
- 四 農業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
- 五 其ノ他農業ノ改良發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

第四條 農會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 農會ハ農業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

第六條 行政官廳ハ農會ニ對シ農業ニ關スル報告書ノ提出及農業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條 政府ハ農會ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第八條 農會ハ町村農會、市農會、郡農會、道府縣農會及帝國農會トス

第九條 農會ノ地區ハ町村農會ニ在リテハ町村又ハ町村組合、市農會ニ在リテハ市、郡農會ニ在リテハ郡又ハ市司ヲ置キタル島嶼、道府縣農會ニ在リテハ道府縣、帝國農會ニ在リテハ内地ノ區域ニ依ル

特別ノ事由アルトキハ農會ノ地區ハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第一項ノ區域ニ増減アリタルトキハ其ノ區域ヲ地區トスル農會ノ地區モ亦之ニ應シテ増減アリタルモノトス

町村力市ト爲リタルトキハ其ノ町村ノ區域ヲ地區トスル町村農會ハ市農會ト爲リタルモノトス

第十條 農會ノ名稱ニハ町若ハ村農會、市農會、郡農會、道、府若ハ縣農會又ハ帝國農會ナル文字ヲ用井ルヘシ但シ農會ノ地區カ町、村、市、郡、道、府又ハ縣ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ此等ノ區域ヲ示スヘキ文字ヲ用井サルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル農會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲タル文字ヲ用井ルコトヲ得ス

第十一條 農會ハ町村農會及市農會ニ在リテハ國、公共團體及命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區内ノ耕地、牧場又ハ原野ヲ所有スル者及其ノ地區内ニ於テ農業ヲ營ム者、郡農會ニ在リテハ其ノ地區内ノ町村農會、道府縣農會ニ在リテハ其ノ地區内ノ市農會、郡農會及郡農會ノ會員ニ非サル町村農會、帝國農會ニ在リテハ道府縣農會ヲ以テ其ノ會員トス

第十二條 農會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

町村農會及市農會ニ在リテハ前項ノ同意ヲ爲シタル者ノ所有シ又ハ占有スル其ノ地區内ノ耕地、牧場及原野ノ面積ハ私用ニ供スル其ノ地區内ノ耕地、牧場及原野ノ面積ノ二分ノ一以上ナルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ此ノ條件ニ依ラサルコトヲ得

第十三條 郡農會、道府縣農會又ハ帝國農會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ農會ノ會員タルヘキ農會ハ其ノ總會ニ於テ創立委員各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ但シ道府縣農會ヲ設立スル場合ニ於テ郡農會ノ會員ニ非サル町村農會力選任スル創立委員ノ選出ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 町村農會及市農會ノ創立總會ニ於テハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ其ノ役員及組織ニヘキ農會ノ職員及豫備議員ト爲ルヘキ者ヲ、其ノ他ノ農會ノ創立總會ニ於テハ其ノ創立委員中ヨリ其ノ役員及豫備議員ト爲ルヘキ農會ノ職員及豫備議員ト爲ルヘキ者ヲ選任スヘシ但シ第二十七條第二項但書及第三項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 農會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十六條 農會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ

會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタ
ルモノト看做ス但シ行政官廳カ特別ノ事由ニ
依リ加入ノ必要ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ
在ラス

第十七條 農會ニ總會ヲ置ク

總會ハ町村農會及市農會ニ在リテハ會長副會
長及會員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ會長副會
長及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス
郡農會、道府農會又ハ帝國農會ノ議員ハ其
ノ農會ノ會員タル農會ニ於テ各一人ヲ其ノ役
員中ヨリ選任スヘシ但シ郡農會ノ會員ニ非サ
ル町村農會カ選任スル議員ノ選出ニ付テハ命
令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 郡農會、道府農會又ハ帝國農會ノ

ニ於テハ創立委員其ノ農會ノ議員ト爲ル
郡農會、道府農會、道府農會又ハ帝國農會ノ
會員タル農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫備議
員各一人ヲ其ノ役員中ヨリ選任スヘシ
豫備議員ハ議員事故アルトキハ之ヲ代理シ議
員開ケタルトキハ議員ト爲ル
前條第三項但書ノ規定ハ豫備議員ニ付テハ準
用ス

第十九條 行政官廳ハ農業ニ關スル學識經驗ア

ル者ヲ郡農會、道府農會又ハ帝國農會ノ特
別議員ニ任命スルコトヲ得
特別議員ノ員數ハ議員定數ノ三分ノ一ヲ超ニ
ルコトヲ得ス
第二十條 左ニ掲ケル事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘ

- 一 收支決算
- 二 經費ノ分賦收入方法
- 三 事業報告及收支決算
- 四 借入金
- 五 基本財産ノ造成、管理及處分
- 六 會則ノ變更
- 七 役員、議員及豫備議員ノ選任及解任
- 八 第十二條第一項、第二十四條第二項及第
三十五條ノ同意
- 九 前項第一號、第二號、第四號及第六號ニ掲ケ
ル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケルニ非
サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 十 第二十一條 總會ハ會長之ヲ招集ス
總會ヲ組織スル者ハ其ノ總數ノ三分ノ一以上
ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事
由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ請
求スルコトヲ得
會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請
求アリタル後十四日以内ニ總會ヲ招集セザル
トキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招
集スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ總會ヲ招集スルコト能ハ
サルトキハ行政官廳ハ會員又ハ議員若ハ特別
議員ヲ指定シテ總會ヲ招集セシムルコトヲ得
第二十二條 總會ノ議長ハ會長、會長事故アル
トキハ副會長ヲ以テ之ニ充ツ會長及副會長共
ニ事故アルトキハ前條第三項若ハ第四項ノ
場合ニ於テハ出席者ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム
第二十三條 總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ規定ア

ル場合ヲ除ク外出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ
決ス可同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依
ル
第二十四條 會則ノ變更ハ總會ニ於テ之ヲ組織
スル者半數以上出席シ出席者ノ三分ノ二以上
ヲ以テ之ヲ議決ス
會則ノ變更カ地區ノ増減ニ關スルトキハ前項
ノ規定ニ依リ議決ノ外新ニ編入セラレ又ハ削
除セラレハキ區域内ノ會員タル資格ヲ有スル
者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ
要ス

第二十五條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ輕

微ナルモノニ付テハ會則ノ定ムル所ニ依リ書
面ヲ以テ其ノ總會ヲ組織スル者ノ意見ヲ徵シ
總會ノ議決ニ代フルコトヲ得但シ町村農會及
市農會ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第二十六條 町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ總代會ヲ置キ總會ニ代フルコトヲ
得
總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選舉シ
タル總代ヲ以テ之ヲ組織ス
總會ニ關スル規定ハ總代會ニ付テハ準用ス
第二十七條 農會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一人
副會長 一人
評議員 數人
役員ハ町村農會及市農會ニ在リテハ會員中ヨ
リ、其ノ他ノ農會ニ在リテハ議員及特別議員
中ヨリ之ヲ選任ス但シ會長及副會長ハ其ノ他

ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス
前項但書ノ規定ニ依リ選任ハ行政官廳ノ認可
ヲ受ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
第二十八條 會長ハ農會ヲ代表シ會務ヲ總理
ス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ
職務ヲ代理ス
副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ
一部ヲ分掌スルコトヲ得
評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ會務執行及財産
ノ狀況ヲ監査ス
第二十九條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨
時急務ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認
ムルモノハ會長之ヲ專決處分スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總會ニ於テ其
ノ承認ヲ求ムヘシ
第三十條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會
員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコ
トヲ得
町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ物
件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得
一 町村農會及市農會ノ經費又ハ過怠金ヲ滞納ス
ル者アル場合ニ於テ其ノ會長ハ請求アルトキ
一 市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此
ノ場合ニ於テ農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四
ヲ市町村ニ交付スヘシ
前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市
町村其ノ他之ニ準ヘキモノノ徵收金ニ次キ
其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

ノ者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス
前項但書ノ規定ニ依リ選任ハ行政官廳ノ認可
ヲ受ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
第二十八條 會長ハ農會ヲ代表シ會務ヲ總理
ス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ
職務ヲ代理ス
副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ
一部ヲ分掌スルコトヲ得
評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ會務執行及財産
ノ狀況ヲ監査ス
第二十九條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨
時急務ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認
ムルモノハ會長之ヲ專決處分スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總會ニ於テ其
ノ承認ヲ求ムヘシ
第三十條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會
員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコ
トヲ得
町村農會及市農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ物
件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得
一 町村農會及市農會ノ經費又ハ過怠金ヲ滞納ス
ル者アル場合ニ於テ其ノ會長ハ請求アルトキ
一 市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此
ノ場合ニ於テ農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四
ヲ市町村ニ交付スヘシ
前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市
町村其ノ他之ニ準ヘキモノノ徵收金ニ次キ
其ノ時効ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ命令
ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴
訟ヲ爲スコトヲ得
第三十一條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ使用
料及手数料ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ使用料及手数料ノ徵收ニ關シテハ民事
訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第三十二條 行政官廳ハ農會ニ對シ會務ニ關ス
ル報告ヲ爲サシメ、會務執行又ハ財産ノ狀況
ヲ檢査シ、會則收支決算又ハ經費ノ分賦收入
方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令
又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第三十三條 農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ
會員タル農會ニ對シ農業ニ關スル報告書ヲ提
出及農業ニ關スル事項ノ調査ヲ爲サシムルコ
トヲ得
第三十四條 行政官廳ハ農會ノ決議又ハ役員ノ
行為方法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ
若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取
消シ、役員若ハ特別議員ヲ解任シ、議員豫備
議員若ハ總代ノ改選ヲ命ジ、農會ノ事業ヲ停
止シ又ハ農會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
第三十五條 農會解散又ハ合併ヲ爲サントスル
トキハ其ノ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得、
道府農會ニ在リテハ尚其ノ會員タル郡農會
及市農會ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且合併ノ
場合ニ於テハ會則ヲ議定シ事由ヲ具シ行政官
廳ノ認可ヲ受クヘシ
農會分割ヲ爲サントスルトキハ前項ノ規定ニ

準スル同意ノ外分割ノ各農會ノ會員又ハ會員
タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ
得農會ノ權利義務ノ限度ヲ定ム且會則ヲ議定
シ事由ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ
第十二條第二項、第十三條乃至第十五條及第
十七條第四項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準
用ス
第三十六條 合併後存続スル農會又ハ合併ニ因
リテ設立シタル農會ハ合併ニ因リテ消滅シタ
ル農會ノ權利義務ヲ承継ス
分割ニ因リテ設立シタル農會ハ前條ノ規定ニ
依リテ定リタル限ニ於テ從前ノ農會ノ權利
義務ヲ承継ス
第三十七條 農會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ
範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス
第三十八條 農會解散シタルトキハ會長及副會
長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ規
定アルトキハ總會ニ於テ選任シタル者アル
トキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行
政官廳清算人ヲ選任ス清算人開ケタルトキ亦
同シ
第三十九條 清算人ハ農會ヲ代表シ清算ヲ爲ス
ニ必要ナル一切ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス
清算方法及財産處分ニ付テハ行政官廳ノ認可
ヲ受クヘシ
第四十條 行政官廳必要ト認ムルトキハ清算方
法及財産處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任
スルコトヲ得

第四十一條 本法ニ於テ市町村アルハ市町制
ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準スヘキ
モノトシ郡トアルハ北海道ニ在リテハ北海道
廳支廳長管轄區域トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十
一年勅令第三百五十七號ヲ以テ大正十二年一月
一日ヨリ之ヲ施行ス)
明治三十二年法律第三百三號農會法ハ之ヲ廢止
ス
明治三十二年法律第三百三號農會法ニ依リ設立シ
本法施行ノ際現ニ存スル農會ハ之ヲ本法ニ依リ
設立シタルモノト看做ス
本法施行ノ際現ニ前項ノ農會ノ役員、議員、豫
備議員又ハ特別議員ノ職ニ在ル者ハ其ノ任期中
仍其ノ職ニ在ルモノトス

農會法施行規則

(大正十一年九月十七日
農會法施行規則第六號)

農會法施行規則左ノ通定ム

第一條 町村農會又ハ市農會ノ地區内ニ於テ左
ノ各號ノ一ニ該當スル農業者ノミヲ營ム者ハ其
ノ農會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス
一 一段歩未滿ノ他人ノ土地ニ於テ行フ耕種
二 一箇年ヲ通シテ框架製種四枚未滿又ハ之
ニ相當スル量ヲ播種シテ行フ農業
三 前二號ニ掲クルモノヲ併セテ行フ農業
前項ニ掲クル者ノ外地方長官ニ於テ特ニ町村
農會及市農會ノ會員ヨリ除外スルノ必要アリ
ト認ムル者アルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ
命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得(大正十一年
勅令第三百五十七號ヲ以テ之ヲ修正ス)

第二條 町村農會又ハ市農會ハ會則ノ定ムル所
ニ依リ其ノ地區内ニ居住セザル會員ヲシテ其
ノ地區内ニ代理人ヲ設ケシムルコトヲ得
農會ハ前項ノ代理人ニ對スル通知ヲ以テ本人
ニ對スル通知ニ代フルコトヲ得
第三條 農會ヲ設立セムトスルトキハ會員タル
資格ヲ有スル者發起人ト爲リ他ノ會員タル資
格ヲ有スル者ニ地區、創立費用、收支概算及
經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意
ヲ求ムヘシ
第四條 農會法第十三條但書ノ創立委員ノ選出
ニ付テハ第十四條ノ規定ヲ準用ス
第五條 創立總會ハ町村農會及市農會ニ在リテ
ハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者、其ノ他ノ農
會ニ在リテハ其ノ創立委員ヲ以テ之ヲ組織ス
第六條 發起人創立總會ヲ召集セムトスルトキ
ハ帝國農會ニ在リテハ少クテ三十日前ニ、
其ノ他ノ農會ニ在リテハ少クテ三十日前ニ、
會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ創立總會
ヲ組織スヘキ者ニ通知シ尙町村農會及市農會
ニ在リテハ之ヲ公告スヘシ
第七條 創立總會ノ議事ハ之ヲ組織スル者ノ三
分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定ス
ルコトヲ得
町村農會及市農會ノ創立總會ニ在リテハ會員
タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有
スル者ニ委任シテ其ノ議事ヲ行フコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ
差出スヘシ
創立總會ノ議長ハ出席者中ヨリ之ヲ互選スヘ
シ
第二十四條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス
第八條 農會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ
償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ
第九條 郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ノ創立
總會ニ於テハ其ノ組織スヘキ道府農會ノ議
員及豫備議員ト爲ルヘキ者ノ選任ハ之ヲ行
フ
第十條 創立總會終了シタルトキハ發起人ハ選
擧クテ設立認可申請書ヲ行政官廳ニ差出スヘ

前項ノ認可申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ
同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ
明細書及議事録ノ際本ヲ添附スヘシ
農會法第九條第二項及第十二條第二項但書ノ
場合ニ於テハ前項ニ掲クルモノノ外其ノ事由
ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
第十一條 會則ニハ農會法及本則ニ規定スルモ
ノ外左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
一 名稱
二 事業
三 事務所
四 農會法第九條第一項ノ區域ニ依ラサル農
會ニ在リテハ其ノ地區
五 役員ノ定數
六 總代會ヲ置ク農會ニ在リテハ總代ノ定
數、任期、選任及解任ニ關スル規定
七 會計ニ關スル規定
八 會計ニ關スル規定
第十二條 農會ノ設立ヲ認可シタルトキハ行政
官廳ハ其ノ農會ノ名稱、地區、事務所及認可
ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ
變更アリタルトキ亦同シ
第十三條 町村農會及市農會ハ會員名簿ヲ編製
シ之ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ會員名簿ニハ左
ノ事項ヲ記載スヘシ
一 會員ノ氏名及住所
二 會員タル資格
三 地租納額其ノ他經費賦課ノ基礎ト爲ルヘ

キ事項
四 代理人ノ氏名及住所
會員名簿ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ農
會ハ選擧ノ訂正スヘシ
會員名簿ノ開覽ヲ求ムル者アリタルトキハ農
會ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ム
コトヲ得
第十四條 郡農會ノ會員ニ非サル町村農會ノ選
出スヘキ道府農會ノ議員及豫備議員ハ郡毎
ニ各一名トシ其ノ郡内ニ在ル郡農會ノ會員ニ
非サル町村農會ハ其ノ役員中ヨリ之ヲ選任ス
ヘシ
第十五條 郡農會、道府農會及帝國農會成立
シタルトキハ其ノ會員タル農會ハ最近ノ總會
ニ於テ豫備議員ヲ選任スヘシ但シ郡農會ノ會
員ニ非サル町村農會ノ行フ豫備議員ノ選任ニ
付テハ其ノ組織スル道府農會ノ指定スル期
日ニ依ル
第十六條 豫備議員關ケタルトキハ其ノ豫備議
員ヲ選任シタル農會ハ最近ノ總會ニ於テ豫備
議員ヲ選任スヘシ
第十七條 規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十八條 役員、議員及豫備議員ノ任期ハ農會
ノ事業年度ニ從ヒ四箇年トス但シ補闕ノ役
員、議員及豫備議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期
間トス
新ニ成立シタル農會ノ最初ノ役員、議員及豫
備議員ノ任期ハ他ノ農會ノ役員、議員及豫備
議員ノ殘任期間トス

役員、議員及豫備議員ハ其ノ任期滿了シタル
トキト雖後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行
フモノトス
第十八條 會員百人以上ヲ以テ組織スル町村農
會及市農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ總代會ヲ
置クコトヲ得
總會ニ關スル規定ハ總代會ニ付之ヲ準用ス
第十九條 町村農會又ハ市農會ノ總代ハ其ノ會
員中ヨリ投票ニ依リ之ヲ選舉ス
第二十條 總代ヲ選舉スルノ權利ハ一人一箇ト
ス但シ同一ノ土地ヲ共有スルニ因リテノミ會
員タル資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人ト看做ス
前項ノ權利ハ會員自ラ之ヲ行フヘシ但シ未成
年者及禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ於テ
之ヲ行フヘシ
第二條ノ代理人ヲ設ケタル場合ニ於テハ會員
ハ其ノ代理人ヲシテ第一項ノ權利ヲ行ハシム
ルコトヲ得
第二十一條 總代ノ選舉ニ關スル事務ハ會長之
ヲ管理ス
第二十二條 總會ヲ召集セムトスルトキハ帝國
農會ニ在リテハ少クテ三十日前ニ、其ノ他
ノ農會ニ在リテハ少クテ三十日前ニ會議ノ
目的タル事項、日時及場所ヲ總會ヲ組織スル
者ニ通知スヘシ
前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ
得
第二十三條 總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通

知シタル事項ニ付テハ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 總會ノ議長ハ議事録ヲ作リ左ニ掲タル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

- 一 總會ノ日時及場所
- 二 總會ヲ組織スル者ノ定數又ハ員數
- 三 出席者ノ員數
- 四 議事ノ要領
- 五 議決シタル事項及贊否ノ數

第二十五條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第二十六條 町村農會及市農會ノ經費ヲ賦課セムトスルトキハ左ノ賦課方法及金額ノ制限ニ依ルヘシ但シ總會ノ決議ヲ以テ其ノ一ニ依ルコトヲ得(大正十五年農會法第十三條)

- 一 會員割 一人ニ付金五十錢以内
- 二 會員ノ資格要件 地租納額百分ノ五十
- 三 農會ノ土地ノ租額 以テ
- 四 原野ニシテ農業ニ利用セサル土地ニ付テハ地租割ヲ賦課スルコトヲ得
- 五 特別ノ事由アル場合ニ於テハ町村農會又ハ市農會ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ第一項ノ賦課方法又ハ金額ノ制限ニ依ラスシテ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第二十七條 町村農會及市農會ハ其ノ會員ニ對シ總會ノ議決ニ依リ穀物ノ滿其ノ他ノ農産物ヲ以テ經費ヲ負擔セシムルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ物品ノ價格ハ經費ノ賦課額ニ相當スルコトヲ要ス

第二十八條 收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ毎年二月末日迄ニ之ヲ行政官廳ニ提出スヘシ但シ設立ノ認可ヲ受ケタル年度ニ於テハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滞ナク之ヲ提出スヘシ

第二十九條 會則、收支豫算及經費分賦收入方法ノ變更並借入金ノ認可申請書ニハ理由書ヲ添附スヘシ尚借入金ノ認可申請書ニハ利率、期間、借入先及償還ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 事業報告及收支決算ハ次ノ事業年度内ニ總會ノ承認ヲ受ケ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ提出スヘシ

第三十一條 農會法第二十七條第三項ノ規定ニ依リ役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附スヘシ

第三十二條 農會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ幹事、技師其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第三十三條 農會ノ解散、合併若ハ分割又ハ地區ノ増減ニ關スル會則變更ノ認可申請書ニハ法定ノ同意アリタルコトヲ證明スル書面ヲ添附シ尚合併ノ場合ニ於テハ合併後存続スル農會又ハ合併ニ因リテ設立スル農會ノ會則、分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各農會ノ會則及其ノ

權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

農會法第三十五條第三項ノ規定ニ依リ準用スル同法第十二條第二項但書ノ場合ニ於ケル合併又ハ分割ノ認可申請書ニハ前項ノ書類ノ外其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第三十四條 農會ノ解散、合併又ハ分割ヲ認可シタルトキハ行政官廳ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十五條 清算終了シタルトキハ清算人ハ清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ツヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ農會ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ツヘシ

- 一 役員ノ選任又ハ解任アリタルトキ
- 二 清算人ノ就任又ハ解任アリタルトキ

第三十七條 町村農會、市農會、郡農會及道府縣農會ヨリ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ(大正十五年農會法第十三條)

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ地方長官又ハ北海道廳支廳長ハ農林大臣ニ報告スヘシ(大正十五年農會法第十三條)

- 一 農會ノ設立、解散、合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキ
- 二 農會法第三十二條ノ規定ニ依リ會則、收支豫算若ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命シ又ハ同法第三十四條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シタルトキ
- 三 道府縣農會ノ特別議員ヲ任命シタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ報告書ニ事由

書ヲ添附スヘシ

第三十九條 農會法第十二條、第十六條、第二十九條、第二十七條、第三十四條、第三十五條、第三十九條及第四十條並本則第三十條、第三十五條及第三十六條ニ於テ行政官廳ト稱スルハ町村農會、市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官、道府縣農會及帝國農會ニ在リテハ農林大臣トス但シ北海道ニ於ケル町村農會ニ在リテハ北海道廳支廳長トス(大正十五年農會法第十三條)

北海道廳支廳長農會法第十六條ノ認可及第三十四條ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ北海道廳長官ニ經何スヘシ(大正十五年農會法第十三條)

農會法第十九條、第二十一條及第三十八條ニ於テ行政官廳ト稱スル町村農會、市農會、郡農會及道府縣農會ニ在リテハ地方長官、帝國農會ニ在リテハ農林大臣トス但シ北海道ニ於ケル町村農會及郡農會ニ在リテハ北海道廳支廳長トス(大正十五年農會法第十三條)

第四十條 (大正十五年農會法第十三條)

附則

本則ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年農務省令第十二號、明治三十五年農務省令第二十六號及明治三十八年農務省令第二十四號ハ之ヲ廢止ス

農會ハ當分ノ内從前ノ例ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作成シ地方長官ヲ經テ之ヲ農務大臣ニ差出スヘシ

附則 (大正十五年農會法第十三條)

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ郡長ニ對シ爲シタル申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●農會法ノ規定ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件

大正十一年法律第四十號農會法第三十條ノ規定ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 農會ノ經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ノ通知ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ農會ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

其ノ農會ニ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ農會ノ前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ農會ノ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ遲滞ナク決定ヲ爲シ異議申立人ニ之ヲ通知スヘシ

第二條 町村農會(北海道ニ於ケル町村農會ヲ除ク)、市農會又ハ郡農會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正十五年農會法第十三條)

北海道ニ於ケル町村農會ノ會員ニシテ前條第二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決定ニ不服アルトキハ北海道廳支廳長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正十五年農會法第十三條)

第一項ノ規定ニ依ル地方長官ノ裁決ニ付テハ
當該農會ノ會長ヨリモ訴訟又ハ訴訟ヲ提起ス
ルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル北海道支廳長
又ハ北海道廳長官ノ裁決ニ付テハ同シトス
道府縣農會又ハ帝國農會ノ會員ニシテ前條第
二項ノ規定ニ依リ決定ヲ受ケタルモノ其ノ決
定ニ不服アルトキハ農林大臣ニ訴訟シ又ハ行
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第三條 前條第一項ノ規定ニ依リ地方長官ニ訴
願セムトスルトキハ其ノ決定ヲ爲シタル農會
ヲ經由スヘシ前條第二項ノ規定ニ依リ北海道
廳支廳長ニ訴訟セムトスルトキ又ハ前條第四
項ノ規定ニ依リ訴訟セムトスルトキ亦同シトス
第四條 農會法第三十條第三項ノ規定ニ依ル處
分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ地
方長官ニ訴訟シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第五條 異議ノ申立又ハ訴訟若ハ行政訴訟ノ提
起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付
ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ之ヲ爲
スヘシ
異議ノ申立ニ關シテハ訴訟法第五條、第八條
第三項、第九條、第十條及第十二條乃至第十
四條ノ規定ヲ準用ス
第六條 (法律第十五號令第二五
附則) (法律第十五號令第二五
本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
農會令ハ之ヲ廢止ス

附則 (大正十五年勅令第二百三十四號附則)
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ郡長ニ提起シタル訴訟ニシテ
本令施行ノ日迄ニ其ノ裁決ナキモノハ之ヲ本令
ニ依リ地方長官ニ提起シタルモノト看做ス
從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル裁決ニ關スル
訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於テ
ハ訴訟ノ提起ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由ス
ルコトヲ要セス
前項ノ訴訟ノ裁決ニ對スル訴訟ニ付テハ仍從前
ノ例ニ依ル

附則 (大正十五年勅令第二百三十四號附則)
本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ郡長ニ提起シタル訴訟ニシテ
本令施行ノ日迄ニ其ノ裁決ナキモノハ之ヲ本令
ニ依リ地方長官ニ提起シタルモノト看做ス
從前ノ規定ニ依リ郡長ノ爲シタル裁決ニ關スル
訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於テ
ハ訴訟ノ提起ハ裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由ス
ルコトヲ要セス
前項ノ訴訟ノ裁決ニ對スル訴訟ニ付テハ仍從前
ノ例ニ依ル

●農業倉庫業法

(大正六年七月二十一日)

改正 大正十五年第三號

農會法ノ規定ニ依ル異議ノ申立、訴訟及行政訴訟ニ關スル件

農會法ノ規定ニ依ル異議ノ申立、訴訟及行政訴訟ニ關スル件

●農業倉庫業法

農會法ノ規定ニ依ル異議ノ申立、訴訟及行政訴訟ニ關スル件

農會法ノ規定ニ依ル異議ノ申立、訴訟及行政訴訟ニ關スル件

要シ其ノ期間ハ六月ヲ超スルコトヲ得ス
 第一條 第三項ニ規定スル寄託物ニ付テハ同條
 第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管ニ支障ナキ
 場合ニ限リ保管期間ヲ更新スルコトヲ得其ノ
 期間ハ前項但書ニ同シ(上)
 第十一條 商法第三編第五章乃至第七章、第三
 百七十五條乃至第三百七十八條及第三百八十
 一條乃至第三百八十三條ノ規定ハ本法ニ別段
 ノ定アル場合ヲ除ク外農業倉庫業者ニ之ヲ
 準用ス(上)
 第十二條 商法第三百七十六條ノ規定ハ受寄物
 ノ割製、改装又ハ荷造ニ關シ農業倉庫業者ニ
 之ヲ準用ス
 第十三條 農業倉庫業者業務規程ヲ變更セムト
 スルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ
 第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅、營業收益
 稅及營業稅ヲ課セス(上)
 第十四條ノ二 農業倉庫業者ノ農業倉庫又ハ其
 ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ニ關シテハ地方稅
 ノ課スルコトヲ得ス(上)
 第十五條 行政官廳公益上必要ト認ムルトキハ
 農業倉庫業者ニ對シ其ノ指定スル穀物又ハ其
 ノ寄託ヲ受ケ、受寄物ノ検査其ノ他ノ行爲ヲ
 爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
 第十六條 行政官廳ハ農業倉庫業者ニ對シ事業
 ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ業務
 執行若ハ財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必
 要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 行政官廳農業倉庫業者ノ業務執行若
 ハ財産ノ狀況ニ依リ事業ノ繼續ヲ困難ナリト
 認ムルトキ、農業倉庫業者ノ行爲カ法令若ハ
 業務規程ニ違反シタルトキ又ハ其ノ行爲カ公
 益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ
 事業ノ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得
 第十八條 農業倉庫業者タル法人ノ理事又ハ之
 ニ準スヘキ者本法又ハ本法ニ基キテ爲ス命令
 又ハ處分ニ違反シタルトキハ十圓以上千圓以
 下ノ過料ニ處ス
 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ
 規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス
 第十九條 本法ニ於テ聯合農業倉庫業者トハ農
 業倉庫業者カ第一條第一項及第二項ノ規定ニ
 依リ寄託ヲ受ケタル物品ヲ本法ニ依リ倉庫ニ
 保管スル者ヲ謂フ(六十五年法律第三十號)
 聯合農業倉庫業者ハ他ノ聯合農業倉庫業者カ
 前項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ヲ保管
 スルコトヲ得
 聯合農業倉庫業者ハ前二項ノ規定ニ依リ保管
 ニ支障ナキ場合ニ限リ業務規程ノ定ムル所ニ
 依リ農業倉庫業者カ第一條第三項ノ規定ニ依
 リ寄託ヲ受ケタル物品又ハ販賣組合若ハ販賣
 組合聯合會カ賣却スル物品ヲ保管スルコトヲ
 得他ノ聯合農業倉庫業者カ本項ノ規定ニ依リ
 寄託ヲ受ケタル物品ニ付亦同シ
 第二十條 産業組合聯合會ニ非サレハ聯合農業
 倉庫業者タルコトヲ得ス(上)
 第二十一條 聯合農業倉庫業者タル産業組合聯

聯合産業組合法ニ規定スルモノノ外第二條
 (第二十六條第一項ノ規定ニ依リ準用)及第十
 九條ニ規定スル事業ノ目的ト爲スコトヲ得
 前項ノ産業組合聯合會ハ所屬組合又ハ所屬聯
 合會ノ爲ニ前項ノ事業ヲ爲スノ外附屬シテ
 所屬組合又ハ所屬聯合會ニ非サル組合又ハ聯
 合會ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第四
 號乃至第六號(第二十六條第一項ノ規定ニ依
 リ準用)ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第二十二條 農業倉庫業者カ寄託者又ハ農業倉
 庫證券ノ所持人及受寄物ノ質權者アル場合ニ
 於テハ其ノ質權者ノ承諾ヲ得テ其ノ受寄物ヲ
 聯合農業倉庫業者ニ寄託シタル場合ニ於テハ
 其ノ寄託ニ因リ生シタル農業倉庫業者ノ權利
 義務ハ當初ノ寄託者又ハ農業倉庫證券ノ所持
 人ニ移轉シ當初ノ寄託ハ將來ニ向テ其ノ效力
 ヲ失フ(上)
 第二十三條 農業倉庫業者カ其ノ受寄物ヲ聯合
 農業倉庫業者ニ寄託セムトスル場合ニ於テ其
 ノ受寄物ノ農業倉庫證券アルトキハ將來ニ向
 テ其ノ證券ノ裏書ヲ禁止スルコトヲ得(上)
 農業倉庫業者ハ前項ノ證券ノ裏書ヲ禁止スル
 ニ非サレハ受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託
 スルコトヲ得ス
 第二十四條 聯合農業倉庫業者ハ其ノ受寄物ノ
 農業倉庫證券ナキ旨ノ農業倉庫業者ノ證明書
 又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ裏書ヲ禁止セラ
 レタル證券ト引換ニ非サレハ其ノ受寄物ノ聯
 合農業倉庫證券ヲ交付スルコトヲ得ス(上)

第二十五條 前二條ノ規定ハ聯合農業倉庫業者
 カ其ノ受寄物ヲ他ノ聯合農業倉庫業者ニ寄託
 スル場合ニ之ヲ準用ス(上)
 第二十六條 第二條、第三條、第六條乃至第九
 條、第十條第一項及第十一條乃至第十八條ノ
 規定ハ聯合農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス但シ第
 二條第六號中農業倉庫業者トアルハ農業倉庫
 業者又ハ聯合農業倉庫業者、農業倉庫證券ト
 アルハ農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券ト
 シ第八條中農業倉庫證券トアルハ聯合農業倉
 庫證券トス(上)
 第十條第二項ノ規定ハ第十九條第一項又ハ第
 二項ニ規定スル寄託物ニ、同條第三項ノ規定
 ハ第十九條第三項ニ規定スル寄託物ニ之ヲ準
 用ス但シ聯合農業倉庫業者カ第十九條第一項
 及第二項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル第一條
 第二項ノ物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正六
 年勅令第百十號ヲ以テ同年九月一日ヨリ之ヲ施
 行ス)
 附則
 (六十五年法律第三十二號附則)
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十
 五年勅令第百五十七號ヲ以テ同年九月一日ヨ
 リ之ヲ施行ス)
 本法施行ノ際現ニ農業倉庫業者カ從前ノ第一條
 第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ仍從
 前ノ例ニ依ル
 本法施行ノ際現ニ存スル預證券及買入證券ニ付
 テハ仍從前ノ例ニ依ル

●農業倉庫法施行規則
 (大正六年八月十五日)
 (商法第九號)
 第一章 總則
 第一條 農業倉庫業者ノ認可申請書ニハ業務規程
 ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ
 (六十五年法律第三十號)
 一 申請ノ理由
 二 倉庫ニ於テ取扱フヘキ物品ノ種類別數量
 三 倉庫ノ所在地
 四 倉庫ノ棟敷、建坪、主要ナル構造又ハ工
 事及收容力並倉庫經營ニ要スル敷地ノ面
 積ニ關スル事項
 五 倉庫及敷地ハ申請者ノ所有ニ保ルモノナ
 リヤ否ヤノ別及所有ニ保ラサルモノニ付
 テハ其ノ使用ノ權利ニ關スル事項
 六 倉庫ハ既設ノモノナリヤ否ヤノ別並新ニ
 建築、改装又ハ修繕ヲ爲スモノニ付テハ
 其ノ竣工ノ決定期日及既設ノモノニ付テ
 ハ建築ノ時期
 七 附屬ノ設備ニ關スル事項
 八 貸付事業ヲ爲ス場合ニ於テハ貸付金額額
 ノ豫定及其ノ調整方法
 九 起業費及一箇年ノ收支概算
 十 申請者タル法人ニ於テ農業倉庫業開始ノ
 決定ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ決定ヲ

證スル書面
 十一 公益法人ニ在リテハ定款又ハ寄附行為
 及財產目錄
 十二 農業倉庫法第一條第一項第二號ノ農
 業倉庫業者タルモノトスル者ニ在リテハ
 其ノ區域内ニ於ケル販賣組合及販賣組
 合聯合會ノ賣却スル數量
 第二章 業務規程
 第一條 農業倉庫業者ノ業務規程ニハ左ノ事項
 ヲ規定スヘシ(同中)
 一 事業ノ種類及農業倉庫法第一條第三項
 ノ規定ニ依リ保管ヲ爲スモノニ在リテハ
 其ノ旨(同中)
 二 保管スヘキ物品ノ名稱
 三 農業倉庫法第一條第三項ノ規定ニ依リ
 保管スヘキ物品ニ付保管ノ順位ヲ定メタ
 ルトキハ其ノ順位並同條第一項及第二項
 ノ規定ニ依リ保管上必要アルトキハ何時
 ニテモ同條第四項ノ規定ニ依リ保管物ノ
 出庫ヲ爲サシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順
 位(上)
 四 保管ノ方法及保管上特殊ノ作業ヲ爲スモ
 ノニ在リテハ其ノ作業
 五 保管料ニ關スル規定
 六 保管期間ニ關スル規定
 七 聯合農業倉庫業者又ハ倉庫業者ニ受寄
 物ノ寄託ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨及
 寄託スヘキ聯合農業倉庫業者又ハ倉庫營
 業者ノ名稱(上)

八 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ寄託スル場合ニ於ケル受寄物及農業倉庫證券ノ取扱
 受寄物ヲ聯合農業倉庫業者ニ引渡ス迄ノ間ニ於ケル危険ノ負擔ニ關スル規定
 九 受寄物ノ入庫及出庫ニ關スル規定
 十 證券發行ニ關スル規定
 十一 保險ニ關スル規定
 十二 避クヘカラサル事由ニ依ル減量ノ負擔ニ關スル規定
 十三 受寄物ノ検査ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
 十四 農業倉庫法第二條ノ規定ニ依ル事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
 十五 産業組合又ハ産業組合聯合會ニ於テ組合員又ハ所屬組合若ハ所屬聯合會ニ非サル者ノ爲ニ事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
 十六 剩餘金又ハ損失金ニ關スル規定
 十七 混合保管ヲ爲スモノニ在リテハ前條ノ事項ノ外業務規程中ニ左ノ事項ヲ規定スヘシ
 一 混合保管ノ範圍
 二 受寄物ノ返還ニ關スル規定
 第四條 農業倉庫法第四條第二項ノ規定ニ依リ農業倉庫業者タルコトヲ得ル者ハ前ノ販賣ヲ目的トスル販賣組合聯合會ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル
 一 共同商倉庫及共同貯蓄装置助成規則ニ依

リ共同商倉庫ノ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル倉庫ヲ有スル者
 二 共同商倉庫及共同貯蓄装置助成規則ニ依リ共同商倉庫ノ助成金ノ交付ヲ受ケタル倉庫ニ準スヘキ規模及構造ヲ具備スル倉庫ヲ有スル者
 第五條 農業倉庫業者ニ非サレハ其ノ名稱中ニ農業倉庫ナル文字ヲ用クルコトヲ得ス
 第六條 農業倉庫業者ハ農業倉庫法第一條第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ同條第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管スル物品ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ
 第七條 農業倉庫業者倉庫ノ所在地、棟數、建坪又ハ收容力ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
 第八條 農業倉庫業者ハ事業年度終了後三月内ニ前年度ノ收支計算書及事業報告書ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
 第九條 農業倉庫業者事業施行ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
 第十條 農業倉庫業者事業ヲ休止又ハ廢止シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
 第十一條 聯合農業倉庫業者ノ認可申請書ニハ業

務規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ
 一 申請者ノ所屬組合又ハ所屬聯合會ニシテ農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者タルモノカ一年間ニ保管スル物品ノ種類別數量及申請者ニ寄託スヘキ物品ノ種類別數量ノ豫定
 二 申請者ノ所屬販賣組合又ハ所屬販賣組合聯合會カ一年間ニ賣却スル物品ノ種類別數量及申請者ニ寄託スヘキ物品ノ種類別數量ノ豫定
 第十二條 聯合農業倉庫業者ノ業務規程ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
 一 事業ノ種類及農業倉庫法第十九條第三項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨
 二 第二條第二號、第四號乃至第十三號及第十六號ニ掲グル事項
 三 農業倉庫法第十九條第三項ノ規定ニ依リ保管スヘキ物品ニ付保管ノ順位ヲ定メタルトキハ其ノ順位並同條第一項及第二項ノ規定ニ依ル保管ノ必要アルトキハ何時ニテモ同條第三項ノ規定ニ依ル保管物ノ出庫ヲ爲サシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順位
 四 農業倉庫法第二條(同法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ準用)ノ規定ニ依ル事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定

五 所屬組合又ハ所屬聯合會ニ非サル組合又ハ聯合會ノ爲ニ事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
 六 聯合農業倉庫業者カ農業倉庫法第二十四條ノ規定ニ依リ聯合農業倉庫證券ト引換ニ受取りタル農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券ノ取扱ニ關スル規定
 第十三條 聯合農業倉庫業者ハ農業倉庫法第十九條第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ同條第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管スル物品ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ
 第十四條 第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ハ聯合農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス但シ第五條中農業倉庫ナル文字トアルハ聯合農業倉庫ナル文字トス
 第十五條 農業倉庫法第六條及第十三條ノ行政官廳ハ地方長官トシ同法第十五條乃至第十七條ノ行政官廳ハ農林大臣及地方長官トス但シ同法第十六條ノ行政官廳ハ北海道ニ於テ産業組合、産業組合聯合會、町村農會、郡農會又ハ町村若ハ之ニ準スヘキモノカ農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者タル場合ニ於テハ農林大臣、北海道廳長官及北海道廳支廳長トス

附 則
 (大正十五年農林省令第十九號附則)
 本令ハ大正十五年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本則ハ農業倉庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第七條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ公益法人ニ付地方長官ノ行フヘキ處分ハ當分ノ農林大臣之ヲ行フ

く部

●火藥類鐵道運送規程

（大正四年十月八日
勅令第一號）

改正 大正二年鐵道運送規程

火藥類鐵道運送規程左ノ通收正ス

火藥類鐵道運送規程

第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スル場合ハ本規程ニ依ル（大正二年鐵道運送規程）
本規程ニ於テ火藥類トハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ規定スルモノヲ謂フ
第二條 火藥類ノ荷送人ハ少クトモ三十六時間前ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ其ノ承諾ヲ求ムヘシ
第三條 火藥類ノ荷送人ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受テヘキ場合ニ於テハ鐵道係員ハ其ノ許可證ヲ檢閲スヘシ
第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍用ノ託送ニ係ルモノハ當該軍衛所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得
火藥類ハ其ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ所ニ火藥、爆藥若ハ火工品ト朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉載セシムヘカカラサルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ明記スヘシ（本規程第五條）
第五條 火藥類ノ受授ハ貨物掛又ハ驛長ノ外之

ヲ爲スコトヲ得ス
火藥類搬入ノ日時、場所及方法ニ關シテハ前項ノ係員ノ指示ニ從フヘシ其ノ搬出ノ日時及方法ニ付亦同シ
第六條 一車以上ノ火藥類ヲ運送ヲ引受ケタルトキハ鐵道ノ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得
附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得
附添人ノ乗車賃ハ三等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス
第七條 火藥類ハ木製有蓋貨車ヲ以テ運送スヘシ但シ貨車ノ内部ニ鐵釘、鐵具等ノ突起シタルモノアルトキハ木板、革、布又ハ蓬ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
第八條 銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ火藥類ハ之ヲ同一車中ニ積載スルコトヲ得ス但シ火藥類ヲ裝填セサル雷管附又ハ爆管附藥莖ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス
第十條 火藥類ハ之ヲ他ノ貨物ト同一車中ニ混載スルコトヲ得ス但シ銃用實包、銃用空包、火藥類ヲ裝填セサル雷管附若ハ爆管附藥莖、雷管（工業用雷管ヲ除ク）、信管、爆管、閉管、殺線導火線、濕藥（硝子火藥ニ係リテ他ノ火藥ニ係ラズ）若ハ芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、硝

酸アンモニア）又ハ（過鹽素酸アンモニア）ヲ主トスル爆藥中「ナイトログリセリン」若ハ純硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、煙火、信號管、星火ヲ發スル榴彈（十二箇以下ノ大榴彈ニ係リテ他ノ榴彈ニ係ラズ）若ハ（大榴彈以下ノ榴彈ニ係リテ他ノ榴彈ニ係ラズ）若ハ（大榴彈以下ノ榴彈ニ係リテ他ノ榴彈ニ係ラズ）若ハ（大榴彈以下ノ榴彈ニ係リテ他ノ榴彈ニ係ラズ）若ハ（大榴彈以下ノ榴彈ニ係リテ他ノ榴彈ニ係ラズ）
又ハ五十斤以下ノ火藥若ハ十斤以下ノ爆藥（炸藥）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス（上同）
一 容器又ハ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且其ノ外部見易キ所ニ品名ヲ明記シタルトキ
二 他ノ貨物カ容易ニ燃燒シ又ハ爆發ノ誘因トナルヘキ虞ナキモノナルトキ
三 火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過セサルトキ
四（同上）
五（同上）
第十一條 前條ノ規定ニ依リ火藥類ヲ他ノ貨物ト混載シタルトキハ他ノ貨物ト相當間隔ヲ保タシメ又ハ墜落ノ虞ナキ箇所ニ於テ他ノ貨物ノ上積ト爲スヘシ（同上）
第十二條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又ハ轉載セサル様緊密ニ積載スヘシ
第十三條 火藥類ノ積卸等ヲナストキハ手鉤類ヲ用若ハ投下スルコトヲ得ス又動搖ヲ豫防シ得ル様革、麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ覆ヒタルトキノ外之ヲ轉載スルコトヲ得ス
火藥類ノ積卸ヲ爲ス場所又ハ火藥類積載ノ貨

車内ニ於テハ安全燈以外ノ燈火ヲ使用シ、燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帶シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス

火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿ツコトヲ得ス

火藥類ノ積卸ヲ爲スニ當リテハ仕業ノ前後其ノ場所及車内ヲ清掃スヘシ

第十四條 火藥類ノ積卸ハ第十條但書ニ掲ケタル火藥類ヲ除クノ外旅客乗降場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ヲ搭載シタル客車カ場内ニ在ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ規定ニ該當スルモノヲ除クノ外日出前及日没後ニ於テ受授、積卸、荷造又ハ荷解ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 火藥類積載貨車ノ兩側面ニハ見易キ位置ニ白地ニ火藥ト朱記シタル標札ヲ附スヘシ

第十七條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ空車ヲ聯結スヘシ但シ不燃貨物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞ナク且燃焼シ易カラサル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得

前項ノ適用ニ付テハ「ボギー」車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス

第十八條 規定ハ第十條但書ノ火藥類ノ積載貨車ニ之ヲ適用セス(本項上テ以テ)

第十九條 火藥類積載ノ貨車ハ七輛以下ニ限リ他貨物積載ノ貨車ト同一列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得

コトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス(本項上テ以テ)

第十九條 火藥類積載ノ貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス但シ鐵道ノ自用ニ供スル信號用雷管及第十條但書ニ掲ケタル火藥類ノ積載貨車並ニ他ノ貨物ト混載シタル貨車ハ此ノ限ニ在ラス(本項上テ以テ)

第二十條 火藥類積載ノ貨車ニ在リテハ制動機ヲ使用スルコトヲ得ス但シ車制動機ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 火藥類ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ且ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外運送中ノ他ノ貨車ニ積積フルコトヲ得ス

第二十二條 火藥類ヲ運送スル列車停車スルトキハ特ニ車輪ノ點檢ヲ嚴ニシ危險アリト認ムルトキハ即時ニ該車輪ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ

列車運轉中車輪發熱ノ徵候ヲ發見シタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ之ヲ冷却シ又ハ危險ナキ程度ニ於テ徐行シ次ノ停車場ニ到リ前項ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十三條 火藥類ヲ運送スル列車二時間以上停車ヲ要スルトキハ成ルヘク隔離シタル線路ニ火藥類ヲ積載シタル貨車ヲ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ前條ノ規定ニ依リ車輪ヲ解放シタル場合亦同シ

第二十四條 火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著

シタルトキハ直ニ之ヲ荷受人ニ通知スヘシ

荷受人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク火藥類ヲ停車場外ニ搬出スヘシ

荷受人カ火藥類積載ノ貨車到着後二時間内ニ火藥類ヲ搬出セサルトキハ鐵道ハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 旅客ハ火藥類ヲ携帶シテ乗車スルコトヲ得ス但シ少量ノ銃用火藥類及機雷火藥類ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス(本項上テ以テ)

附則

本令ハ大正四年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

●火藥類船舶運送及貯藏規則

火藥類船舶運送及貯藏規則左ノ通定ム

火藥類船舶運送及貯藏規則

第一條 船舶ニ依リ火藥類(玩具用普通火工品ヲ含ム)ヲ運送シ又ハ船舶ニ常用火藥類ヲ貯藏スルトキハ本規則ヲ遵守スヘシ(本項上テ以テ)

第二條 本規則ハ船舶ノ全部ヲ以テ軍事輸送ノ用ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セス

開港其ノ他ノ港ニ於テ本規則ニ定ムル事項ト同一ノ事項ニ付特別ノ規定アル場合ニ於テハ其ノ事項ニ依リ本規則ヲ適用セス

火藥類ヲ貨車積ノ鐵道連絡ノ爲専ラ貨車輸送ニ供スル船舶ニ積ミ運送ヲ爲ス場合ニハ第十三條、第十九條及之ニ基ク第二十三條ノ罰則ノ規定ヲ除クノ外本規則ヲ適用セス火藥類鐵道運送規程ニ依ル(本項上テ以テ)

第三條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クヘキ場合ニ於テハ船長ハ其ノ許可證ヲ檢閲シタル後ニ非サレハ之ヲ積積スルコトヲ得ス

第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍需ノ託送ニ係ルモノハ當該軍需所定ノ容器ニ收納スル

コトヲ得

火藥類ハ其ノ容器又ハ包裝ノ頂部見易キ所ニ朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉載セシムヘカラサルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ標記スヘシ(本項上テ以テ)

船舶ハ前二項ニ該當スルモノニ非サレハ火藥類ヲ積積スルコトヲ得ス

第五條 湖川港内ニ於テ火藥類ノ積積若ハ陸揚ヲ爲シ又ハ火藥類ヲ積載スル船舶湖川港内ニ於テ航行、碇泊若ハ繫留セムトスルトキハ發航地、碇泊地又ハ繫留地ノ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官ハ危險防止ノ爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テ積積、陸揚又ハ荷解ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 甲板ナキ船舶ニ於テ旅客ヲ運送スルトキハ火藥類ヲ積積スルコトヲ得ス

第八條 火藥類ハ旅客ノ上船又ハ下船同時ニ積積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ火藥類ハ之ヲ同一ノ船舶ニ積積スルコトヲ得ス

前項ノ火藥類ハ甲板ナキ船舶ニ在リテハ同時ニ之ヲ積積スルコトヲ得ス

第十條 火藥類ハ容易ニ燃焼シ若ハ爆發ノ誘因

ト爲ルヘキ虞アル物品ニ接近シテ積載シ又ハ他ノ貨物ノ下ニ積載スルコトヲ得ス

第十一條 火藥類ハ動搖セサル積載ニ積載スヘシ

第十二條 火藥類ノ積積、陸揚又ハ荷解ヲ爲スルトキハ之ヲ投下スルコトヲ得ス又ハ激突ヲ豫防シ得ル様革、帆布又ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ蔽ヒタル場合ヲ除クノ外之ヲ轉載スルコトヲ得ス

第十三條 火藥類ハ機關室、蓄電池、發電機、料理場、石炭庫、油槽其ノ他熱氣アル場所ニ接近シテ積載スルコトヲ得ス

第十四條 火藥類ハ旅客室、船員室又ハ之ニ接近シタル場所ニ積載スルコトヲ得ス但シ旅客室ニ在リテハ旅客ヲ運送セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 火藥類ヲ積載スル場所ニ鐵釘其ノ他鐵具アルトキハ木板、革、帆布又ハ毛布ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十六條 火藥類ヲ積積シタルトキハ船舶ノ口ヲ密閉シ覆布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十七條 火藥類ノ積卸ヲ爲ス場所又ハ火藥類ヲ積載シタル場所ニ於テハ安全燈ヲ除クノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ場所ニ於テハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿テ其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帶シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス

第十八條 火藥類ノ取扱ヲ始ムル前及之ヲ終リ

火葬場取扱方

明治九年乙卯二月三號、三年乙卯五月〇號

第十九條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十八條ノ規定ニ依リ...

第二十條 船舶ニハ其ノ常用外ノ火藥類ヲ貯藏スルコトヲ得ズ...

シテ起爆劑ヲ附セサルモノ、硝酸、アンモニア、主トスル爆藥中...

瓦斯事業法

(大正十三年四月十日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル瓦斯事業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ瓦斯事業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應ジ...

ル限度ニ於テ其ノ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得...

要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ瓦斯事業ニ對シ...

前項ノ規定ニ依リ爲ス工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ事項ハ命令ヲ以テ定ムルモノノ外當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第十二條 瓦斯料金其ノ他命令ヲ以テ定ムル瓦斯供給條件ノ設定又ハ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ場合ニ於テ主務大臣ハ關係市町村ノ意見ヲ徵スヘシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ瓦斯料金其ノ他瓦斯供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル定ニ基キ瓦斯事業者カ市町村ノ承認ヲ求メタル場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第十三條 瓦斯ノ成分、壓力、光力及熱量並瓦斯工作物ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 瓦斯事業者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ瓦斯ノ供給ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 瓦斯事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ得ス

第十六條 瓦斯事業ノ讓渡ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ瓦斯事業者ヲ營ム會社ノ合併又ハ解散亦同シ

第十七條 市町村カ瓦斯事業ヲ營ムトスルト

キハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ管轄區域内ノ瓦斯事業ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル買收ノ價格其ノ他買收ノ條件ニ關シ協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ規定ニ依ル裁定中買收價格ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十八條 行政官廳ハ瓦斯事業者ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ、報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十九條 第一條ニ掲グルモノヲ除クノ外瓦斯ヲ供給シ又ハ使用スル事業ニ關シテハ第六條乃至第十條及第十七條ノ規定ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

第二十條 瓦斯事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ、行政官廳ノ命シタル事項ヲ執行セシ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ第三條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十一條 本法中主務大臣ノ職權ハ命令ヲ以テ之ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ委任スルコトヲ得

第二十二條 瓦斯工作物ノ損壞其ノ他ノ方法ヲ以テ瓦斯ノ供給ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十三條 瓦斯事業者ノ承諾ヲ得シテ濫ニ瓦斯工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケシテ爲シタル者又ハ第十二條ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 瓦斯事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條ノ規定ニ違反シタルトキ

一 正當ノ事由ナクシテ第十八條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サス若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ其ノ他行政官廳ノ命シタル事項ヲ爲ササルトキ

第二十六條 瓦斯事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ瓦斯事業者ニ適用スヘキ罰則ハ瓦斯事業者法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十四年勅令第二百八十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス)

本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十七條ノ規定ハ本法施行ノ際市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ瓦斯事業ノ買收ニ關シ期間ノ定アルトキハ其ノ期間之ヲ適用セス

瓦斯事業法施行令

(大正十四年九月二十九日 勅令第二百九十九號)

一 瓦斯事業法施行令

第一條 瓦斯事業法第六條第二項ノ主務大臣ハ内務大臣及商工大臣トス

第二條 瓦斯事業法第六條第三項ノ規定ニ依リ瓦斯事業者ノ納付スヘキ使用料ハ同條第一項ノ管理者之ヲ定ム

前項ノ管理者不相當ナル使用料ヲ定メタルトキハ内務大臣及商工大臣ハ瓦斯事業者ノ申請ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第三條 瓦斯事業法第十七條第一項ノ規定ニ依ル瓦斯事業ノ買收ノ認可又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル裁定ハ内務大臣及商工大臣ニ之ヲ申請スヘシ

市町村カ前項ノ買收ヲ爲ス場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ當該市町村ノ管轄區域外ニ互ル瓦斯事業ニシテ引續キ經營スルコト能ハサルモノ又ハ瓦斯事業ニ附帶スル設備ヲ併セ買收スヘキコトヲ當該市町村ニ對シ請求スルコトヲ得

第四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ商工大臣ハ内務大臣ニ協議スヘシ

一 瓦斯事業法第三條、第十六條又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サルトスルトキ

二 命令ノ定ムル所ニ依リ供給區域ノ變更ノ許可ヲ爲サルトスルトキ

三 市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル定ニ關係アル事項ニ付瓦斯事業者法第十二條ノ規定ニ依ル命令ヲ發シ又ハ認可、裁定其ノ他ノ處分ヲ爲サルトスルトキ

四 市町村ノ經營スル瓦斯事業ニ付瓦斯事業者法第十二條ノ規定ニ依ル命令ヲ發シ又ハ認可、裁定其ノ他ノ處分ヲ爲サルトスルトキ

五 災害ノ豫防又ハ除却ノ爲瓦斯工作物ニ關シ瓦斯事業法第十三條ノ規定ニ基キ命令ヲ發シ又ハ之ニ基キ處分ヲ爲サルトスルトキ

六 命令ノ定ムル所ニ依リ瓦斯事業法第十五條ノ規定ニ依ル廢止又ハ休止ノ許可ヲ爲サルトスルトキ

附則

本令ハ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

瓦斯事業者カ瓦斯事業法施行ノ際現ニ河川、溝渠、道路、橋梁、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラシル土地ノ使用ニ關シ其ノ管理者ニ納付スル金銀ハ第二條ノ規定ニ依ル使用料ト看做ス

瓦斯事業法施行規則

(大正十四年十月一日)

瓦斯事業法施行規則左ノ通定ム
第一條 瓦斯事業經營ノ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 起業目論見書
二 工事設計書
三 工事費概算書(第一號様式)
四 收支概算書(第二號様式)
五 他ヨリ瓦斯ノ供給ヲ受ケ瓦斯事業ヲ營マムトスル者ニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書ノ謄本
六 會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本
七 會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記簿及定款ノ謄本、瓦斯事業經營ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本並財產目錄及貸借對照表
八 組合ニ在リテハ其ノ契約書及瓦斯事業經營ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本、財產目錄及貸借對照表
九 公共團體ニ在リテハ瓦斯事業經營ニ關スル其ノ議會ノ議決書ノ謄本
第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 商號又ハ名稱及主たる事務所ノ所在地

二 瓦斯ノ製造及供給ノ方法
三 一日ノ製造能力及貯蔵スヘシノ事業資金ノ總額及其ノ出資方法
四 事業資金ノ總額及其ノ出資方法ノ事業資金外金ヲ區別シテ記載スヘシ
五 供給區域
六 平而圖
七 瓦斯事業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營スル事業ノ大要
三條 工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ位置
二 瓦斯ノ發生、精製、計量、貯蔵及供給ノ用ニ供スル主要ナル裝置
三 工事ノ著手及完了期日
四 條 瓦斯事業法第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケヘキ工事左ノ如シ
一 瓦斯ノ發生、精製若ハ供給ノ用ニ供スル主要ナル裝置(導管ヲ除ク)又ハ瓦斯溜ノ型式、構造及能力
二 高壓導管ノ內徑及配置並高壓導管ヲ通ス

第六條 前條ノ工事施行ノ許可申請書ニハ工事ノ種類ニ從ヒ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ
一 瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ周圍百メートル以内ノ平而圖
二 瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ設計圖
三 瓦斯ノ發生、精製又ハ供給ノ用ニ供スル裝置(導管ヲ除ク)ノ型式、構造、能力及主要寸法ニ關スル說明書
四 高壓導管ノ設置仕様書並其ノ配置圖
五 工事費概算書
第六條 許可ヲ受ケテ工事ヲ施行シタル瓦斯工作物使用ノ許可ハ之ヲ地方長官ニ申請スヘシ
第八條 瓦斯事業者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ運轉ナク之ヲ商工大臣ニ届出サヘシ
第九條 瓦斯事業法第六條第二項ノ規定ニ依リ導管施設ノ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 管理者ニ提出シタル導管施設許可申請書及管理者ノ指令書ノ謄本
二 管理者ノ拒否處分ヲ不當トスル理由書
第十條 瓦斯事業法施行令第二條第二項ノ規定ニ依リ使用料變更ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一 管理者ノ指令書ノ謄本

二 管理者ノ定メタル使用料ヲ不相當トスル理由書
第十一條 瓦斯事業法第七條第二項ノ規定ニ依リ土地立入ノ許可ハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ地方長官ニ申請スヘシ
一 立入ノ目的
二 立入ルヘキ土地ノ區域
三 立入ルヘキ時間及期間
四 所有者若ハ占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由
五 土地所有者及占有者ノ氏名及住所
第十二條 瓦斯事業法第七條第三項ノ規定ニ依リ土地立入ノ通知書ニハ前條第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ且許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ
第十三條 瓦斯事業法第七條第二項ノ規定ニ依リ導管施設ノ許可ハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ地方長官ニ申請スヘシ
一 導管ノ形狀、內徑及其ノ施設方法
二 導管施設ノ爲當該區域ノ選定ヲ必要トスル理由
三 導管施設ノ爲立入ルヘキ土地ノ區域
四 導管施設工事ノ著手時期及期間
五 土地ノ現在ノ使用方法
六 損失補償ノ見積金額及其ノ内譯
七 所有者若ハ占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由
八 土地所有者及占有者ノ氏名及住所
第十四條 瓦斯事業法第七條第三項ノ規定ニ依

ル導管施設ノ通知書ニハ前條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ記載シ且許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ
第十五條 瓦斯事業法第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ他人ノ土地若ハ建造物ニ立入り又ハ他人ノ土地ニ導管ヲ施設セムトスル者ハ其ノ證明ヲ携帶スヘシ
前項ノ證明ハ土地又ハ建造物ノ管理者ノ請求アリタルトキハ之ヲ呈示スヘシ
瓦斯事業者ハ第一項ノ證明ノ雛形ヲ豫メ所轄警察官署ニ提出スヘシ
第十六條 瓦斯事業法第八條第一項ノ規定ニ依リ導管ノ位置ノ變更其ノ他土地使用ニ對スル障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル施設ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 請求ノ目的及理由
二 土地ノ現在ノ使用方法及變更スヘキ使用方法並使用方法變更ノ時期
第十七條 瓦斯事業法第八條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ニ應ズルヤ否ヤ運轉ナク請求者ニ通知スヘシ
瓦斯事業者請求ニ應ズル場合ニ於テハ瓦斯事業法第八條第二項ノ規定ニ依リ請求者ノ負擔スヘキ費用ノ擔保トシテ施設費見積額ニ相當スル金額ヲ其ノ施設著手前ニ供託スヘキコトヲ請求スルコトヲ得
第十八條 瓦斯事業法第八條第一項ノ規定ニ依リ請求セラレタル施設ニ著手シタルトキ及之ヲ完了シタルトキハ運轉ナク其ノ

旨ヲ請求者ニ通知スヘシ
瓦斯事業法第八條第一項ノ規定ニ依リ請求ヲ爲シタル者其ノ土地ノ使用方法ノ變更ニ著手シタルトキ及之ヲ完了シタルトキハ運轉ナク其ノ旨ヲ瓦斯事業者ニ通知スヘシ
第十九條 瓦斯事業法第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル申請書(正副二通)ヲ地方長官ニ提出スヘシ
一 申請人及相手方ノ氏名又ハ名稱及住所
二 申請ノ目的及理由
地方長官申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ
指定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リ裁定ヲ爲スコトヲ得副本ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ
第二十條 裁定書ニハ理由ヲ附シ地方長官之ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ
第二十一條 瓦斯事業法第十二條第四項及第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス
第二十二條 瓦斯事業法第十二條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケヘキ瓦斯供給條件左ノ如シ
一 瓦斯引用ノ工事費ノ全部又ハ一部ヲ需用者ニ負擔セシムル場合ニ於テハ其ノ金額ニ瓦斯ノメートル其ノ他瓦斯ノ使用ニ必要ナル器具ノ貸貸料
第二十三條 瓦斯料金又ハ前條ノ瓦斯供給條件

ノ設定又ハ變更ノ認可申請書ニハ其ノ設定又ハ變更ノ計算ノ基礎ヲ明ニスヘキ書類ヲ添付スヘシ

第二十四條 瓦斯ノ成分ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 一 硫化水素含有ノ反應ヲ呈セサルコト
 二 硫黄含有量ハ十立方メートル中五グラム以下ナルコト
 三 「アムモニア」含有量ハ十立方メートル中二グラム以下ナルコト
 第二十五條 無臭ノ瓦斯ニハ其ノ漏洩ヲ覺知シ易カラシムル爲メ臭氣ヲ附スヘシ

第二十六條 瓦斯ノ壓力及熱量ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ公示スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ壓力及熱量ハ需用者ノ瓦斯「メートル」ノ出口ヲ標準トシテ之ヲ表示スヘシ

第二十七條 天災、工事其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前條ノ規定ニ依リ公示シタル壓力又ハ熱量ヲ維持スルコト能ハサルトキハ瓦斯事業者ハ遲滞ナク其ノ事由、區域、期間及其ノ變更スル瓦斯ノ壓力又ハ熱量ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ壓力又ハ熱量ヲ維持スルコト能ハサルコトヲ豫知シ得ルトキハ瓦斯事業者ハ豫メ之ヲ關係需用者ニ周知セシムヘシ

第二十八條 瓦斯事業者ハ一週一回以上成分ノ試験ヲ、一日一回以上壓力及熱量ノ測定ヲ行フヘシ

前項ノ壓力及熱量ノ測定スヘキ場所ハ商工大臣

臣之ヲ定ム

第二十九條 左ノ事項ハ商工大臣之ヲ告示ス
 一 成分試験ノ方法及裝置ノ型式
 二 壓力測定ノ方法及裝置ノ型式
 三 熱量測定ノ方法及裝置ノ型式

第三十條 水性瓦斯其ノ他間歇的瓦斯製造裝置ニハ「レリーフホール」其ノ他適當ナル緩衝裝置ヲ施設スヘシ

第三十一條 各瓦斯製造所ノ發生精製裝置ヨリ直接瓦斯ヲ送入スル瓦斯溜「レリーフホール」ヲ除ク「レ」ヲ總容量ハ其ノ一日ノ製造能力ノ二分ノ一以上タルヘシ

第三十二條 瓦斯溜ニハ瓦斯放出裝置ヲ施設スヘシ

第三十三條 瓦斯發生爐又ハ瓦斯溜ヲ施設セムトスルトキハ其ノ外側ヨリ左ノ距離ヲ有セシムヘシ
 一 宮城、離宮、御用邸又ハ神宮ハ四百メートル以上
 二 皇陵、社寺、公園、學校、病院、劇場其ノ他多衆ヲ收容スヘキ建造物ハ百メートル以上

瓦斯發生爐又ハ瓦斯溜ハ其ノ外側ヨリ前項ニ掲クル建築物及人家ハ十メートル以上ノ距離ヲ保有スヘシ

商工大臣ハ所在地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ前二項ニ定ムル距離ノ短縮ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十四條 瓦斯製造所ニハ豫備排送裝置ヲ施設スヘシ

第三十五條 導管ニハ適當ナル區劃ニ對シ瓦斯ノ供給ヲ遮斷スル爲メ必要ナル裝置ヲ施設スヘシ

瓦斯事業者ハ瓦斯供給中火災其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險アリト認ムルトキハ其ノ供給ヲ遮斷スヘシ

第三十六條 一日五萬立方メートル以上ノ製造能力ヲ有スル瓦斯製造所ニ依リ瓦斯ノ供給ヲ受クル區域内ニ在リテハ内徑百ミリメートル以上、其ノ他ノ場合ニ在リテハ内徑五十ミリメートル以上ノ低壓導管「レ」ヲ施設シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ其ノ配置圖「レ」ヲ添ヘ三月毎ニ取纏メ之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第三十七條 商工大臣ハ瓦斯ノ供給ニ支障ヲ來ササル爲メ又ハ災害ノ豫防ヲ除却ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ瓦斯事業者ニ對シ瓦斯溜其ノ他瓦斯工作物ニ關シ其ノ施設、變更其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトアルヘシ

地方長官ハ危險急迫ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス保安上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 瓦斯事業ノ廢止又ハ一月以上ノ停止ノ許可ハ其ノ事由、區域及休止ノ期間ヲ具シテ商工大臣ニ申請スヘシ

瓦斯事業ノ一月未滿ノ休止ノ許可ハ其ノ事由、區域及期間ヲ具シテ地方長官ニ申請スヘシ

前二項ノ許可ヲ受ケタルトキハ瓦斯事業者ハ豫メ之ヲ關係需用者ニ周知セシムヘシ

天災、工事其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ瓦斯ヲ供給スルコト能ハサル場合ニ關シテハ第二十七條ノ規定ヲ準用ス

第三十九條 瓦斯事業譲渡ノ許可申請書ハ左ノ書類ヲ添付シ當事者連署ノ上之ヲ提出スヘシ
 一 譲渡契約書ノ謄本
 二 譲渡人又ハ譲受人カ會社ナル場合ニ於テハ譲渡ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ譲渡ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本
 三 譲受人カ會社發起人ナル場合ニ於テハ定款ノ謄本
 四 譲受人カ瓦斯事業者ニ非サル會社ナル場合ニ於テハ定款及會社登記簿ノ謄本、財産目録並貸借對照表
 五 譲受人カ組合ナル場合ニ於テハ第二號ニ掲クル書類ノ外其ノ契約書ノ謄本、財産目録及貸借對照表
 六 譲渡人又ハ譲受人カ公共團體ナル場合ニ於テハ譲渡ニ關スル其ノ議會ノ議決書ノ謄本

第四十條 瓦斯事業ノ譲渡終了シタルトキハ遲滞ナク當事者連署ノ上之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第四十一條 瓦斯事業ヲ營ム會社ヲ合併ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四十二條 瓦斯事業ヲ營ム會社ノ解散ノ許可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且解散ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添付スヘシ

第四十三條 瓦斯事業法第十七條第一項ノ規定ニ依リ瓦斯事業買收ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
 一 買收目的ノ範圍ニ關スル調査書
 二 買收價格ノ算出及買收代金ノ支拂ニ關スル説明書
 三 買收ニ關スル市町村會ノ議決書ノ謄本
 四 買收後ニ於ケル事業計畫書及收支豫算書

第四十四條 瓦斯製造所ニハ其ノ製造能力一日五千立方メートル以上ノモノニ在リテハ甲種免狀ヲ有スル者ヲ、五千立方メートル未滿ノモノ及瓦斯供給所ニ在リテハ甲種免狀又ハ乙種免狀ヲ有スル者ヲ主任技術者トシテ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

第四十五條 甲種免狀又ハ乙種免狀ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ就キ本人ノ申請ニ依リ商工大臣鈐印ノ上之ヲ交付ス
 一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ卒業者ニシテ在學中瓦斯事業ノ技術ニ關スル學科ヲ修得シ且一年以上其ノ實務ニ從事シタル者
 二 瓦斯事業ノ技術ニ關シ前號ニ掲クル者ト同等以上ノ學識ヲ有シ且一年以上其ノ實務ニ從事シタル者

乙種免狀
 一 工業學校「レ」卒業者ニシテ在學中瓦斯事業ノ技術ニ關スル學科ヲ修得シ且一年以上其ノ實務ニ從事シタル者
 二 瓦斯事業ノ技術ニ關シ前號ニ掲クル者ト同等以上ノ學識ヲ有シ且一年以上其ノ實務ニ從事シタル者

第四十六條 瓦斯事業者主任技術者ヲ選任シタルトキハ履歷書ヲ添ヘ商工大臣ニ届出ツヘシ

第四十七條 主任技術者缺ケタルトキハ瓦斯事業者ハ遲滞ナク其ノ後任者ヲ選任スヘシ

第四十八條 商工大臣ハ主任技術者カ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲アリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトアルヘシ

第四十九條 瓦斯事業者供給區域又ハ高壓導管ヲ通スル瓦斯ノ壓力ヲ變更セムトスルトキハ商工大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

第五十條 瓦斯事業者ハ公共團體タル瓦斯事業者ヲ除ク「レ」ハ毎事業年度經過後遲滞ナク財産目録、貸借對照表、營業報告書及損益計算書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第五十一條 瓦斯事業者ハ瓦斯供給規程ヲ定ム之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十二條 瓦斯事業者ハ業務ノ狀況ニ關シ報告書「第三號様式」ヲ作製シ之ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

出スヘシ
 第五十三條 左ノ場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ遅滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ
 一 會社成立シタルトキ
 二 會社ノ取締役、監査役ヲ選任シ又ハ代表社員ヲ定メタルトキ
 三 會社ノ定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ
 四 主たる事務所以外ニ營業所又ハ事務所ヲ設置シ又ハ變更シタルトキ
 五 第二條第一號乃至第四號ニ規定スル事項ヲ變更シタルトキ
 六 他ヨリ瓦斯ノ供給ヲ受ケル契約ヲ爲シタルトキ又ハ之ヲ變更若ハ解消シタルトキ
 七 瓦斯事業以外ノ事業ヲ兼營スルニ至リタルトキ又ハ瓦斯事業以外ノ事業ノ兼營ヲ廢止スルニ至リタルトキ
 八 公共團體ト事業經營ニ關スル決定ヲ爲シタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ
 第五十四條 瓦斯事業法、瓦斯事業法施行令又ハ本則ノ規定ニ依リ商工大臣又ハ内務大臣及商工大臣ニ提出スル書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ但シ二府縣以上ニ關スル事項ニ付テハ主トシテ關係ヲ有スル地方管轄スル地方長官ヲ經由シ別ニ其ノ副本ヲ關係地方長官ニ提出スヘシ
 第五十五條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ第十一條、第十三條、第十九條及第二十條ヲ除クノ外審視總監トス但シ第五十四

條ニ在リテハ瓦斯事業法第六條第二項、第十條第四項及第十七條並瓦斯事業法施行令第十二條第二項ノ規定ニ依ル許可、認可、裁定其ノ他ノ處分ノ申請ニ關シテハ東京府知事、瓦斯事業法第三條、第十五條及第十六條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ關シテハ東京府知事及審視總監トス
 第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 一 第二十四條、第二十五條、第二十八條第一項、第三十五條第二項又ハ第五十一條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第三十七條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者
 附則
 第五十七條 本則ハ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第五十八條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ許可ヲ受ケ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ第二十四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 第五十九條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ六月以内ニ第二十六條ノ認可ヲ申請スヘシ
 第六十條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ニ付テハ同法施行ノ日ヨリ六月間ハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ適用セス
 第六十一條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯工作物ニ付テハ同法施行ノ日ヨリ五年内ニ

於テ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル期間ハ第三十條、第三十一條及第三十三條第二項ノ規定ヲ、同法施行ノ日ヨリ六月間ハ第三十二條、第三十四條及第三十五條第一項ノ規定ヲ適用セス
 第六十二條 第五十八條及前條ノ規定ニ依ル許可申請書ハ瓦斯事業法施行後一月内ニ之ヲ商工大臣ニ提出スヘシ
 第六十三條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ニ付テハ同法施行ノ日ヨリ二年間第四十四條ノ規定ヲ適用セス
 第六十四條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ瓦斯事業法施行後遅滞ナク左ノ事項ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ
 一 第二條第一號乃至第四號及第七號ニ掲ケル事項
 二 第五條ニ掲ケル事項
 三 瓦斯料金及第二十二條ノ瓦斯供給條件
 四 會社ノ取締役及監査役ノ氏名
 五 會社ノ定款ノ謄本
 六 主たる事務所以外ノ營業所又ハ事務所ノ所在地
 七 公共團體ト間ニ存スル事業經營ニ關スル決定
 八 瓦斯供給規程
 第六十五條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ第一條第五號、第二條第五號、第六條第二號乃至第五號及第三十六條ニ掲ケル書類及圖面ヲ同法施行後遅滞ナク商工大臣ニ提出スヘシ
 (様式略ス)

●外國人土地法

(大正十四年四月一日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ得タル外國人土地法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 外國人土地法
 第一條 帝國臣民又ハ帝國法人ニ對シ土地ニ關スル權利ノ享有ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スル國ニ屬スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ勅令ヲ以テ帝國ニ於ケル土地ニ關スル權利ノ享有ニ付同一若ハ類似ノ禁止ヲ爲シ又ハ同一若ハ類似ノ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得
 第二條 帝國法人又ハ外國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半數以上若ハ議決權ノ過半數カ前條ノ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ外國人又ハ外國法人ト同一ノ國ニ屬スルモノト看做シ前條ノ規定ヲ適用ス
 第三條 外國ノ一部ニシテ土地ニ關シ特別ノ立法權ヲ有スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ國ト看做ス
 第四條 國防上必要ナル地區ニ於テハ勅令ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ土地ニ關スル權利ノ取得ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得

前項ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス
 第五條 帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半數以上若ハ議決權ノ過半數カ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ前條ノ規定ヲ適用ス
 第六條 土地ニ關スル權利ヲ有スル者カ本法ニ依リ其ノ權利ノ享有ニ付同一若ハ類似ノ禁止ヲ爲シ又ハ同一若ハ類似ノ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依ル權利ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テ其ノ權利ノ處分ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 前二項ノ規定ハ土地ニ關スル權利ヲ有スル者ノ相續人其ノ他ノ包括承繼人カ本法ニ依リ其ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サル場合ニ之ヲ準用ス但シ第一項ニ規定スル期間ハ之ヲ三年トス
 第一項及前項ニ規定スル期間ハ通シテ三年ヲ超ユルコトヲ得ス
 附則
 第七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 (大正十五年勅令第三百三十二號ヲ以テ同年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス)
 第八條 本法ノ施行ニ伴フ不動産登記法ニ關スル特別ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第九條 明治六年第十八號布告及明治四十三年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

第十條 明治三十二年法律第六十七號中「土地ノ抵當權者ナル外國人カ」ヲ「抵當權者カ抵當權ノ目的タル權利ヲ享有スルコトヲ得サル場合ニ於テ」ニ、「抵當不動產」ヲ「抵當權ノ目的タル權利」ニ改ム
 第十一條 民法第九百九十條中「日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合」ヲ「國籍ノ喪失ニ因リテ其ノ有スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合」ニ改メ「日本人」ニ「朝鮮」

外國人土地法施行令

(大正十五年十一月三日)

朕外國人土地法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國人土地法施行令

第一條 外國人土地法第四條第二項ノ規定ニ依リ別表ニ掲グル地域ヲ國防上必要ナル地區ニ指定ス

第二條 外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ハ別表ニ掲グル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得セントスルトキハ地方長官(樺太ニ在リテハ樺太廳長官)ヲ經由シテ陸軍大臣及海軍大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條 帝國臣民又ハ帝國法人ガ別表ニ掲グル地域ニ土地所有權、地上權又ハ永小作權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ帝國臣民ガ外國人ト爲リ又ハ帝國法人ガ外國人土地法第五條ニ規定スル法人ト爲リタルトキハ六月内ノ前條ノ規定ニ準ジ許可ヲ申請スベシ

第四條 前條第一項ノ規定ハ外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ガ別表ニ掲グル地域ニ於テ土地所有權、地上權又ハ永小作權ニ付相續其ノ他ノ包括承繼ヲ爲シタルトキニ之ヲ準用ス

第五條 外國人土地法第五條第二項ノ規定ニ依リ前項ノ場合ニ於テ外國人土地法第六條第三項ノ期間ノ計算ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 外國人土地法第五條第二項ノ規定ニ依リ資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ニ付テハ株式會社又ハ株式合資會社ノ無記名式ノ株券ハ外國人ニ屬スルモノト看做ス

第七條 外國人土地法第六條ノ規定ニ依リ土地所有權、地上權又ハ永小作權ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テハ其ノ權利ハ競賣法ニ依リ之ヲ競賣ニ付ス

第八條 競賣ハ本人若ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

- 京都府 志賀郷村、西八田村(七百石、上八田、中筋)、東八田村、口上林村(十根)、中上林村、奥上林村

- 津名郡 上灘村、由良町、洲本町
- 三原郡 加茂村(加茂)、大野村、廣田村(中條)、松帆村、淡村、津井村、阿那賀村、伊加利村、志知村、八木村、市村、神代村、賀集村、福良町、北阿萬村、灘村、阿萬村、沼島村

- 東彼杵郡 川野村、下波佐見村、上波佐見村、宮村、廣田村、折尾瀬村、早岐町、江上村、崎針尾村、日字村、佐世村、主村、崎針尾村、小ヶ倉村、土井首村、深堀村、香燒村、小楠村、伊玉島村、蚊燒村、式見村、三重村、時津村、長興村、西浦上村、日見村、川原村、高濱村、矢上村、茂木町、爲石村、高島村、黒瀬村、崎戸村、江島村、平島村、松島村、面高村、瀬川村、大串村、七釜村、野母村、樺島村、鵜岬村

青森縣	下北郡 横濱村 上北郡 平館村、一本木村、今別村、三院村 東津輕郡 脇元村、小泊村 北津輕郡 脇元村、小泊村 島根縣	知夫郡 奥名田村(奥坂本、納田終) 海士郡 高濱町、内浦村、青郷村、佐分利村、和田村 周吉郡 元字品町、字品町、東新開町、皆賀町、段原町 廣島縣	安藝郡 海田市町、警固屋町、香戸町、吉浦町、矢野町、熊野町、奥海田村、仁保村、本庄村、大屋村、江田島村、燒山村、坂村、渡子島村、倉橋島村、下浦刈島村 佐伯郡 廣島町、五日市町(津久根島)、飛渡瀬村、深江村、大柿村、沖村、三高村、鹿川村、中村、高田村、小方村、阿多田島、猪ノ子島、白石、甲島)
山口縣	賀茂郡 阿賀町、仁方町、川尻町、郷原村、廣村 下關市 但シ阿彌陀寺町、外濱町、中之町、赤間町、稻荷町、裏町、奥小路町、田中町、西之端町、唐戸町、東南部町、西南部町、觀音崎町、岬之町及入江町ヲ除ク 都濃郡 久保村、下松町、末武南村、末武北村、米川村、久米村、太華村、徳山町、加見村、富岡村、富田町、福川町、夜市村、大津島村、戸田村 佐波郡 彦島町、安岡町、長府町、内日村(内日上)、清末村、王司村、勝山村、川中村、吉見村(吉見下、永田郷)、豐西村、神玉村、角島村、神田村 豐浦郡 仙崎町、通村 大津郡 大島村、見島村 阿武郡 油田村、和田村、日良居村(浮島)由字町(甲島)、麻里布村(柱島) 和歌山縣 和歌山市 海草郡 加太町、西脇野村、木本村、松江村、貴志村、野崎村、湊村、楠見村、有功村、宮村、四箇郷村、中之島村、岡町、宮前村、雜賀村、和歌浦町、雜賀崎村	德島縣	
那賀郡	立江町、坂野村、今津村、羽ノ浦町、平島村、中野島村、富岡町、賣田村、見籠林村、福町、福井村、椿村、桑野村、長生村、新野町 板野郡 撫養町、里浦村、鳴門村、瀬戸村 北宇和郡 高近村、岩松町、下灘村、北灘村、下波村、蔦淵村、戸島村、日振島村、遊子村、三浦村、九島村 西宇和郡 三崎村、神松名村 温泉郡 西中島村、神和村(津和地、元怒和、上怒和) 南宇和郡 内海村、御莊町、城邊町、東外海村、西外海村	福岡縣	若松市 但シ大字門司字海岸通り九ノ二、字濱町一四ノ一、字馬場三二二〇ノ一、三一〇ノ四、三二二四ノ三、字竹ノエ三〇九五ノ二、字久保田一九〇四、字切通一八九七、一八九三、字五反田一七三八ノ二、字坂ノ本一六九二ノ四、字クレイ一三二ノ一、字ホウサイイダ竹ノ下一〇九八ノ一、字橋通一四、ヌノ一ノ外側ヲ連ナル線ヨリ海ニ至ル

企救郡 白川村、新田町 京都郡 頓野村、木屋瀬町、植木町、劍村(小牧)、古月村(上月月) 京賀郡 柳村(地島)、大島村 宗保郡 新宮村(相島)、志賀島村 糟屋郡 殘島村 早良郡 北崎村(玄界島、小呂島) 糸島郡 北崎村(玄界島、小呂島) 大分縣	北海郡 佐賀關町、坂ノ市町、佐志生村、下江村(下ノ江、田井)、下北津留村(藤河内)、上北津留村(嶽谷)、大在村(竹下、城原)、小佐井村、神崎村、一尺屋村、日代村、四浦村、保戸島村 南海郡 東上浦村、大入島村、西中浦村、中浦村、東中浦村、米水津村 佐賀縣 唐津町、鏡村、濱崎町、久里村、鬼塚村、唐津村、入野村、有浦村、佐賀村、淡村、名護屋村、呼子村、打上村、佐志村 西松浦郡 伊萬里町、牧島村、黒川村、有田村、曲川村、大山村、二里村、東山代村、西山代村 鹿兒島縣 里村、上籠村、下籠村、蘭幸田村 薩摩郡 里村、上籠村、下籠村、蘭幸田村 熊毛郡	大島郡 笠砂村(草垣島、宇治列島) 川邊郡 但シ幸町、鹽淵町、壽町、地藏町、臺場町、若松町、大町、富岡町、曙町、末廣町、汐留町、仲町、香羽町、仲濱町、鍛冶町、東濱町、豊川町、帆影町、高砂町、辨天町、旅籠町、船場町、西川町、小舟町、海岸町、西濱町、天神町、會所町、惠比須町、大繩町、大黒町、駒止町、新濱町、鶴岡町及眞砂町ヲ除ク 室蘭市 湯川村、錢龜澤村、戸井村、尻岸内村、龜田村、七飯村、大野村 上磯郡 上磯町、茂別村 松前郡 幌別郡 有珠郡 釧路郡 厚岸郡 根室郡 宗谷郡 利尻郡 禮文郡 得撫郡 新知郡	占守郡 國後郡 色丹郡 紗那郡 擇捉郡 樺太 本斗郡 留多加郡 大泊郡 長濱郡 散江郡 敷香郡 名好郡 眞岡郡 一 本表ノ地域ハ行政区劃ノ變更ニ因リ本表ニ掲グル地域ヲ包含スルニ至レ市、町、村又ハ之ニ準ズルモノニ及ブモノトス大字、字、島又ハ番地ノ變更アリタルトキ亦同シ 二 本表中町、村名ノ次ニ括弧ヲ以テ記載セルハ大字、字又ハ島ヲ示ス
---	--	--	---

外國人土地法施行令ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル件

(大正十五年十一月十一日)

外國人土地法施行令第二條乃至第四條ノ規定ニ依ル許可申請ニ關スル件左ノ通定ム
第一條 外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ外國人土地法施行令第二條ニ依リ陸軍大臣及海軍大臣ノ許可ヲ申請セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル書面四通ヲ當該土地ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(樺太ニ在リテハ樺太廳長官)ヲ經由シ提出スベシ
一 取得セントスル權利ノ種類(地上權又ハ永小作權ニ在リテハ其ノ存續期間共)
二 權利取得ノ目的
三 土地所在ノ道府縣(樺太、那、市、區、町、村、字及土地ノ番號)
四 地目及段別又ハ坪數
五 申請人ノ氏名、國籍、住所又ハ居所(日本ノ住所又ハ本國ノ住所)及職業(法人ニ在リテハ其ノ名稱、目的、事務所及代表者ノ氏名、住所又ハ居所)
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スベシ
一 土地所在ノ位置概見圖(一般圖及細部

圖但シ地貌ヲ表示セザルモノ)
二 外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人ニ在リテハ其ノ登記ノ謄本
三 土地所有權取得ノ申請ニ在リテハ讓渡人、地上權又ハ永小作權ノ申請ニ在リテハ所有權者及當該權利ノ讓渡人ノ承諾書
四 申請人及前項ノ承諾ヲ爲ス者外國人ナルトキハ前項第五條ニ規定スル事項ニ付日本ニ在ル領事又ハ本國管轄官廳ノ認證
前項第二號ノ謄本及第三號ノ承諾書ハ各一通之ヲ提出シ同第四號ノ認證ハ申請書一通ニ付之ヲ受クベシ
第二條 前條ノ規定ハ帝國臣民カ外國人ト爲リ又ハ帝國法人カ外國人土地法第五條ニ規定スル法人ト爲リタルトキ外國人土地法施行令第三條ニ依リ許可ヲ申請スル場合並外國人、外國法人又ハ外國人土地法第五條ニ規定スル帝國法人カ同施行令第四條ニ依リ許可ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件

(明治三十二年三月十日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ是ル捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得
第二條 (大正十五年法律第七號) 附則
第三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(明治三十二年勅令第三百二十七號ヲ以テ同年七月十七日ヨリ施行ス)

外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續

(明治三十三年七月八日)

非訟事件手續法第二百九條ノ二ニ依リ外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續左ノ通定ム
外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續
第一條 條約ノ規定ニ依リ外國人ノ死亡ノ通知ヲ爲シ、其通知ヲ受ケ又ハ外國人ノ遺產ノ保存處分ニ干與スヘキ地方ノ當該官廳ハ死亡地ヲ管轄スル區裁判所トス
外國人カ日本ノ版圖外ニ於テ死亡シタルトキハ前項ノ當該官廳ハ遺產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所トス
第二條 外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得
第三條 警察官ハ外國人ノ死亡ノ事實ヲ知りタルトキハ直ニ死亡者ノ國籍、住所又ハ居所、氏名、年齢及ヒ死亡ノ場所並ニ年月日ヲ第一條第一項ノ區裁判所ニ報告スヘシ
戶籍吏ハ外國人ノ死亡ノ登記ヲ爲シタルトキハ直ニ其謄本ヲ前項ノ區裁判所ニ送付スヘシ
第四條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人ノ遺產ノ封印又ハ其開封ニ立會フヘキ場合ニ於テハ管轄區裁判所ノ判事及ヒ書記之ニ立會フヘシ
第五條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人ノ遺產日録ヲ調製シ領事官ニ之ヲ送付ス

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件

(明治三十一年七月十一日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治六年第三百三號布告改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治六年第三百三號布告左ノ通改正ス
第一條 日本人カ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スニハ內務大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
第二條 內務大臣ハ外國人カ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ前條ノ許可ヲ與フルコトヲ得ス
一 引續キ一年以上日本ノ住所又ハ居所ヲ有スルコト
二 品行端正ナルコト

●外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ノ出願手續ニ關スル件

明治三十一年法律第二十一號ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ハ本籍地又ハ寄留地地方官ニ經由シテ内務大臣ニ願出ツヘシ

●外國人タル行旅病人、行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱ニ關スル特例

行旅病人及行旅死亡人取扱法第十七條ニ依リ外國人タル行旅病人、行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱ニ關スル特例ノ件左ノ通定ム

有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサルトキハ市町村長ハ其ノ計算書ヲ製シ地方官ニ提出ス

●外國人入國ニ關スル件

外國人入國ニ關スル件左ノ通定ム 第一條 本邦ニ渡來スル外國人ニシテ左記各號ノ一ニ該當スト認ムル者ハ地方官

●外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法

帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ヲ設クシ之ヲ公布セシム 第一條 外國裁判所ノ囑託ニ因リ民事及刑事ノ訴訟事件ニ關スル書類ノ送達及證據

外國保險會社ニ關スル件

改正 大正元年第五七號 (明治三十三年九月二十七日) (勅令第三百八十號)

五 囑託裁判所屬國力受託事項施行ノ爲要スル費用ノ擔價ヲ保證シタルコト

六 囑託裁判所屬國力同一又ハ類似ノ事項ニ付日本ノ裁判所ノ囑託ニ因リ法律上ノ補助ヲ爲シ得ヘキ旨ノ保證ヲ爲シタルコト

第二條 受託事項カ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受託裁判所ハ囑託ヲ管轄裁判所ニ移送スヘシ

第三條 受託事項ハ日本ノ法律ニ依リ之ヲ施行スヘシ (明治四十五年法律)

第四條 (明治四十五年法律)

朕親密顧問ノ諮詢ヲ經テ外國保險會社ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國人又ハ外國會社ハ日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設ケ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ保險事業ヲ營ムコトヲ得ス (大正元年第五七號勅令ニ依リテ)

第一條ノ二 外國會社カ日本ニ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ムトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムルコトヲ要ス

商法第六十二條ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第二條 外國會社ハ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

前條第一項ノ代表者ニ付キ前項ノ届出アリタルトキハ主務官廳ハ其氏名、住所ヲ公告スルコトヲ要ス (同上ノ項ニ依リテ)

第二條ノ二 外國會社ノ代表者ハ退任ノ後ト雖之ニ代ハルヘキ代表者ノ氏名、住所ニ付キ商法第二百五十五條ノ登記及ヒ公告又ハ前條第二項ノ公告アル迄仍代表者ノ權利義務ヲ有ス (同上ノ項ニ依リテ)

第三條 外國會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

二 日本ニ於ケル事業ノ方法書

三 普通保險約款

四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

五 最終ノ財産目録、貸借對照表及ヒ損益計算書

六 財産ノ利用方法ヲ記載シタル書類 (同上ノ項ニ依リテ)

前項第一號乃至第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル書類ノ變更ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第三條ノ二 外國會社カ解散シ又ハ日本ニ於ケル事業ヲ廢止シタルトキハ理滯ナク之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス (大正元年第五七號勅令ニ依リテ)

第四條 外國會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ其日本ニ於ケル事業ノ停止若クハ代表者ノ改任ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第五條 外國會社ハ生命保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ十五萬圓、損害保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ十萬圓ノ金額ヲ供託スルニ非サレハ其事業ヲ開始スルコトヲ得ス (同上ノ項ニ依リテ)

外國會社ハ生命保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ各事業年度ノ終ニ於テ計算シタル責任準備金額ノ十分ノ六ニ相當スル金額、損害保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ各事業年度ニ於テ收入シタル保險料ヨリ日本ニ於テ支拂ヒタル再保險料ヲ控除シタル殘額ノ十分ノ五ニ相當スル金額カ會社ノ既ニ供託シタル金額ヲ超

ユルトキハ差額ヲ次ノ事業年度開始後六箇月ニ供託スルコトヲ要ス其金額カ既ニ供託シタル金額ニ達セザルトキハ供託金カ第一項ノ金額ヲ下ラサル限度ニ於テ差額ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

外國會社ハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ前二項ノ供託金ニ代フルコトヲ得

第六條 日本ニ於ケル保險契約者、被保險者、保險金額ヲ受取ルヘキ者又ハ外國相互會社ノ社員ハ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス

日本ニ於ケル一般ノ債權者ハ外國ニ於ケル保險契約者、被保險者、保險金額ヲ受取ルヘキ者、外國相互會社ノ社員及ヒ一般ノ債權者ニ對シ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス (大正元年第五七號勅令ニ依リテ)

第七條 外國相互會社ノ日本ニ於ケル一般ノ債權者ハ日本ニ於ケル社員並ニ其爲シタル契約ニ因ル被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ對シ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス (同上ノ項ニ依リテ)

第七條ノ二 外國會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎トシテ日本ニ於ケル保險契約ノ全部ヲ包括シテ日本ニ於テ事業ヲ營ム他ノ保險會社ニ移轉スルコトヲ得 (大正元年第五七號勅令ニ依リテ)

保險業法第二十條ノ二第二項、第三項、第二十條ノ三乃至第二十條ノ五、第二十條ノ八及ヒ第二十條ノ九ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第二十條ノ五中株主總會ノ決議アリタル時トアルハ移轉契約書作成ノ時、第二十條ノ九第二項中第二十條ノ二第三項ノ決議ノ後

トアルハ移轉契約書作成ノ後トス

前項ニ掲ケタル規定中總會ノ決議及ヒ其決議錄ニ關スル規定ハ外國會社ニ付テハ之ヲ準用セス

第七條ノ三 外國會社カ日本ニ於ケル保險契約ノ全部ノ移轉ヲ爲シタルトキハ其事業ヲ廢止シタルモノト看做ス (同上ノ項ニ依リテ)

第八條 外國會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其日本ニ於ケル事業ノ報告書ヲ作り理滯ナク之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス (同上ノ項ニ依リテ)

外國會社ハ前項ノ時期ニ於テ日本ニ於ケル保險契約ニ付キ其種類ニ從ヒ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス (同上ノ項ニ依リテ)

第九條 外國會社ノ本國ニ於テ作リタル財産目録、貸借對照表、事業報告書及ヒ損益計算書ハ理滯ナク之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第十條 外國會社ノ代表者ハ定款、日本ニ於ケル社員ノ名簿及ヒ前二條ニ掲ケタル書類、帳簿ヲ日本ニ於ケル事業ノ本據ニ備フルコトヲ要ス (同上ノ項ニ依リテ)

日本ニ於ケル保險契約者、被保險者、保險金額ヲ受取ルヘキ者又ハ一般ノ債權者ハ前二條ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ其原本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル處ニ依リ其原本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス (同上ノ項ニ依リテ)

第十條ノ二 外國會社ノ交付スル保險證券ニハ保險約款ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ

添附スルコトヲ要ス (大正元年第五七號勅令ニ依リテ)

前項ノ保險證券及ヒ保險約款ハ開股ノ請求ナキトキハ日本語ヲ以テ之ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ運送保險、海上保險又ハ再保險ノ契約ニハ之ヲ適用セス

第十條ノ三 外國會社カ其事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ殘務ノ取扱ニ付キ代表者ヲ選任又ハ改任スルコトヲ得 (同上ノ項ニ依リテ)

第一條ノ二第二項及ヒ保險業法第十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第十條ノ四 外國會社カ其事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ日本ニ於ケル保險契約者又ハ社員ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得 (同上ノ項ニ依リテ)

前項ノ解除アリタルトキハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經過セザル期間ニ對シテハ保險料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第十條ノ五 外國會社カ其事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ理滯ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス (同上ノ項ニ依リテ)

第十一條 外國會社カ其事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リテ優先權ヲ有スル者ニ擔保ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供スルニ非サレハ供託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 主務官廳カ日本ニ支店又ハ事務所ヲ設ケタル外國會社ノ免許ヲ取消シタルトキハ其處分確定ノ後遲滞ナク其旨ヲ支店又ハ事務所ノ所在地ノ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第十三條 主務官廳ノ通知ヲ受ケタルトキハ支店又ハ事務所ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第十四條 主務官廳ノ免許ヲ受ケスシテ保險事業ヲ營ムモノハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第十五條 主務官廳ノ免許ヲ受ケサル外國人又ハ外國會社ノ爲ニ保險契約者若クハ社員ヲ募集シ又ハ募集セシメタル者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第十六條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第十七條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第十八條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第十九條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十二條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十五條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十六條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十七條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第二十九條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第三十條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第三十一條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第三十二條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第三十三條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第三十五條 外國人又ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但共其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且之ニ左ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

一 主たる事務所ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者タル資格ヲ證スル書面

三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

四 日本ニ於ケル社員ノ名簿

五 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本前項第一號乃至第三號ノ書面ハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二十條 外國相互會社ノ代表者カ支配人ノ選任ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其日本ニ於ケル事務所設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ且之ニ支配人ノ選任及ヒ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルキハ其代表ニ關スル規定ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條 非訟事件手續法第三百九條、第四百一十一條乃至第四百九條、第五百十條、第五百五十一條乃至第五百九條、第六百四十四條乃至第六百六十四條、第六百七十三條第一項、第六百七十四條第二項、第六百七十三條及第六百七十四條ノ規定ハ外國相互會社ニ之ヲ準用ス

第二十二條 第一條ノ二乃至第六條、第七條ノ二乃至第十一條、第十六條及ヒ第十六條ノ二ノ規定ハ外國人ニ之ヲ準用ス

附則

第二十三條 本令ハ明治三十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 本令施行前ニ日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設ケタル外國人又ハ外國會社ハ其施行ノ日ヨリ六箇月内ニ其日本ニ於ケル事業ノ本據ヲ主務官廳ニ届出シタルコトヲ要ス

第二十五條 第二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十六條第二項、第十七條、第二十條、第二十一條及ヒ非訟事件手續法第七十三條第一項、第七十四條第二項ノ規定ハ本令施行前ニ日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設ケタル外國人又ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

附則 (大正元年勅令第五十七號附則)

第一條 本令ハ明治四十五年法律第十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外從前ノ規定ヲ適用ス

第三條 本令施行前ニ免許ヲ受ケタル外國會社ニシテ命令ヲ以テ第三條第一項第二號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキコトヲ規定スル事項及ヒ同條第一項第六號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキ事項ニ付キ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行後一年内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條 本令施行前ニ免許ヲ申請シタル外國人又ハ外國會社ハ命令ヲ以テ第三條第一項第二號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキコトヲ規定

スル事項及ヒ第三條第一項第六號ニ掲ケタル書類ヲ補充スルニ非サレハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 外國會社カ從前ノ規定ニ依リ供託シタル金額ハ本令ニ依リ供託シタルモノト看做ス

第六條 外國會社カ本令ノ施行ニ依リ最初ニ供託スヘキ金額ニ付キ供託ノ期限、方法其他必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得

第七條 前項ノ指定ニ依リ未タ供託スルコトヲ要セザル金額ハ第五條第二項ノ差額ノ算出ニ付テハ之ヲ供託シタルモノト看做ス

第八條 本令施行前ニ免許ヲ受ケタル外國會社ハ日本ニ於テ用ウル保險證券ノ格式及ヒ普通保險約款ニシテ未タ認可ヲ受ケサルモノニ付キ本令施行後一年内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第九條 本令施行前ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル該會社ニ付キ之ヲ適用セス

外國保險會社ニ關スル件

明治三十三年農商務省令第十九號外國保險會社ニ關スル件左ノ改正ス

第六條 保險業法第二十條ノ四ノ規定ニ依リ保險契約移轉ノ認可ヲ受ケムトスル會社ハ移轉契約書作成ノ後雙方連署シテ遲滞ナク其ノ假認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 保險業法施行規則第三十六條乃至第三十九條ノ規定ハ外國會社カ保險契約ノ移轉ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル件

ヘキ書面ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於ケル銀行事業ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件

(明治三十三年九月十五日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件

(明治三十三年九月十五日)

改正 明治四二年第三〇四號、大正九年第一五六號

朕外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運送業ヲ營ム爲帝國内ニ於テ帝國臣民ノ設立スル株式會社ニ關シテハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外商法及附屬法令ノ規定ヲ適用ス
第二條 會社ノ發起人ハ株金第一回拂込前定款、工事方法書、線路實測圖及工費豫算書ヲ具シ鐵道大臣ニ會社設立ノ免許ヲ申請スヘシ

第七條 會社ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ社債ヲ發行スルコトヲ得ス
第八條 會社ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ工費豫算及工事方法ヲ變更スルコトヲ得ス
第九條 會社ハ鐵道大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併又ハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得ス
第十條 會社カ本令ノ規定又ハ免許若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキハ鐵道大臣ハ役員ノ改選ヲ命シ又ハ免許若ハ認可ヲ取消スコトヲ得

外國ニ於テ流通スル貨幣 紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル件

(明治三十八年三月二十日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ重懲役又ハ輕懲役ニ處ス
第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ重懲罰ニ處ス
第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ重懲罰又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六條 前條ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ
第七條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス
附則 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十七年勅令第七十七號ハ之ヲ廢止ス

外國領海水產組合法

(明治三十五年三月二十八日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國領海水產組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國領海水產組合法

第一條 條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ヲ業トスル帝國臣民ハ本法ニ依リ水産組合ヲ設置スルコトヲ得
第二條 組合ノ區域ハ利害關係アル營業區域又ハ住所區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ
第三條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ區域内ニ於ケル同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス
第四條 組合ノ區域内ニ於テ組合員同一ノ營業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ外務農商務兩大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認めル者ハ此ノ限ニ在ラス
第五條 (明治三十二年法律第百七號ヲ以テ改正) 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス(同上ヲ以テ改正)
第六條 前條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百零六條乃至第二百零八條ノ規定ヲ準用ス
第八條 組合及組合聯合會ニ關シテハ本法ニ規

定アルモノノ外重要物産同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ外務農商務兩大臣之ヲ行フ
附則
第九條 本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十條 本法施行以前ニ於テ條約又ハ許可ニ依リ外國領海ニ於ケル水産動物ノ採捕其ノ製造又ハ販賣ノ業ニ關シ外務農商務兩大臣ノ認可ヲ經テ設置シタル組合又ハ組合聯合會ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ抵觸セサルモノハ第三條ニ依リ設置シタルモノト看做ス

外國領海水產組合法施行規則

(大正五年六月三十日)

外國領海水產組合法施行規則左ノ通改正ス
第一條 外國領海水產組合法ニ依リ設置スル水産組合又ハ水産組合聯合會ノ名稱ニハ外國領海ノ名稱及水産組合又ハ水産組合聯合會ナル文字ヲ用ユヘシ
第二條 住所區域ニ依リ組合ノ區域ハ道、府、縣ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三條 組合又ハ聯合會ニ總會ヲ置ク但シ組合ノ定款ノ定ムル所ニ依リ組合會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得
第四條 組合又ハ聯合會ハ總會、組合員ノ營業ノ種類、會議及會計ニ關スル定款ノ變更ハ組合會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ得
第五條 組合又ハ聯合會ハ總會、組合會及評議員會ノ決議錄ノ謄本ヲ作成ノ都度運送シテ外務、農商務兩大臣ニ差出スヘシ
第六條 組合又ハ聯合會ノ經費ノ豫算及徵收法ノ認可申請ハ事業年度二週間前ニ、經費ノ決算及業務成績ノ報告ハ事業年度後一年内ニ之ヲ爲スヘシ

外國船舶検査規則

(明治三十三年十二月二十八日)

ノ營業ノ種類、組合ノ區域及聯合會ヲ組織スル組合ノ名稱ヲ公告スヘシ
外務、農商務兩大臣ハ前項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事項、組合又ハ聯合會解散シタルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ
第七條 組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第三條乃至第十四條、第十五條第二項第三項、第十六條乃至第二十一條、第二十二條第二項乃至第五項、第二十三條乃至第三十二條、第三十四條乃至第四十四條及第四十九條ノ規定ヲ準用ス但シ農商務大臣若ハ地方長官ニ於テ又ハ農商務大臣若ハ地方長官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ外務、農商務兩大臣ニ於テ又ハ外務、農商務兩大臣ニ對シテ之ヲ爲スモノトス
附則
第八條 本則ハ大正五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第九條 組合又ハ聯合會ニ付テハ重要物産同業組合法施行規則第五十四條ノ規定ヲ準用ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ外國船舶検査規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
外國船舶検査規則
第一條 船舶検査法第十七條第三號ニ掲ケタル外國船舶ノ検査ハ日本ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客五十人以上ヲ搭載シテ近海航路外ノ港又ハ通信大臣ノ定ムル地方ニ運送セムトスルモノニ限リ之ヲ行フ(明治三十二年法律第百七號ヲ以テ改正)
第二條 船舶検査法第十七條第一號及第二號ニ掲ケタル外國船舶ノ検査ハ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキ、船舶ノ航行期間満了ノトキ又ハ航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ
第三條 第一條ニ掲ケタル外國船舶ノ検査ハ船舶カ日本ノ最後ノ港ヲ發航セムトスルトキ之ヲ行フ
第四條 船舶検査法第一條、第四條乃至第九條、第十二條及第十八條ノ規定ハ船舶検査法第十七條第一號及第二號ニ掲ケタル外國船舶ノ検査ニ之ヲ準用ス
第五條 船舶検査法第五條、第六條、第八條、第九條及第十二條ノ規定ハ船舶検査法第十七

條第三號ニ掲ケタル外國船舶ノ検査ニ之ヲ準用ス
第六條 外國船舶ノ積量ハ其ノ所屬國政府ノ交付シタル船舶積證書又ハ船舶検査證書ニ記載シタル積量ニ依ル若シ船舶積證書又ハ船舶検査證書ヲ受ケザルトキハ船舶積量測定規則ニ依リ之ヲ測定ス
第七條 通信大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受ケザル船舶ノ航行ノ用ニ供シ、船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間若ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ監視ヲ拒ミ又ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サス又ハ移住民若ハ三等旅客ニ對スル設備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 所爲ヲ以テ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受ケタル者ノ罰亦前項ニ同シ
第九條 船舶検査證書若ハ假證書ニ旅客定員ノ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ該證書ニ記載シタル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用井ス
第十一條 前條第二項ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員、取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス
第十二條 前條第一項及第三項ノ罰則ハ船長ニ代リテ其

外國船隻乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

第九條 本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十條 本令施行ノ際日本臣民ニ於テ借入中ノ外國船隻ニシテ明治三十年五月通信省令第六號船隻検査法施行細則ノ規定ニ依リテ受有スル船隻検査證書、假證書、同航認可證書及別種旅客室検査證書ハ本令ノ爲メ其ノ效力ヲ妨ケラズルコトナシ
第十一條 本法施行前ヨリ日本ノ湖川港内ノミテ航行スル外國船隻ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ漸次検査ヲ受クル迄ハ船隻検査證書ヲ受有セシテ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

外國船隻乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

第一條 外國船隻乗組員ノ逮捕留置ニ關シテ是レ各國外ノ通商航海條約又ハ領事職務條約ニ依リテ爲スヘキ援助ハ當該領事官ノ請求ニ依リテ之ヲ行フ
第二條 左ノ場合ニ於テハ檢事ハ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ニ應ズルコトヲ得ス
第一 逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國臣民ナルトキ
第二 逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國ニ於テ重罪ニ關シテハ該國ノ刑ニ依リテ之ヲ追放スヘキ者トナルトキ
第三 第八條ニ依リテ放免シタル船隻乗組員ニ對シテ同一ノ事件ニ付請求アリタルトキ
第四 領事官カ援助ノ請求書ニ船隻乗組員及船隻乗組員名簿ノ正當ナル拔萃又ハ乗組員タルコトヲ證明スルニ足ルヘキ公文書ヲ添付セザリシトキ
第五 領事官カ援助ニ關スル費用ノ支辨ヲ保

外國旅券規則

外國旅券規則左ノ通相定ム
第一條 外國へ旅行スル者ニ付テハ旅券ハ外務大臣之ヲ發給シ外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官及貿易事務官ヲシテ之ヲ發給セシム
第二條 旅券ノ下付ヲ請フ者ハ書面ニ左ノ事項ヲ記載シ之ニ戸籍簿本又ハ其ノ氏名、本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書ヲ添附シ内國ニ於テハ本籍地又ハ所在地ノ地方上級行政廳ニ於テハ(附屬)關東州ニ於テハ關東都督府、外國ニ於テハ在外公館ニ出願スヘシ但シ關東州ニ於テハ關東都督、外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ認定ニ依リテ戸籍簿本又ハ其ノ他ノ文書ヲ添附テ省略セシムルコトヲ得
一 氏名(片假名ヲ以テテ)
二 本籍地(本籍地トシテ所在地トシテ)
三 身分(本籍地ニ在リテハ本籍地ノ身分、所在地ニ在リテハ所在地ノ身分)
四 年齢(何年何月何日)
五 職業
六 旅行地名
七 旅行ノ目的

外國旅券規則

旅券ノ下付ヲ請フ者長崎縣下對馬國ニ本籍地若ハ所在地有スルトキハ對馬島廳ニ出願スルコトヲ得(大正五年外務省令)
本條ノ願書ニハ最近ノ撮影ニ係ル本人ノ寫眞二葉(手札形、半身、無蓋紙)ヲ添附スヘシ但シ父又ハ母ノ旅券ニ併記スル五歳未満ノ子ニ付テハ此限ニ在ラス(大正六年外務省令)
第三條 朝鮮、臺灣、樺太及南洋羣島ニ於ケル旅券ノ下付ハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官及南洋廳長官ノ定ムル所ニ依ル(大正十一年外務省令)
第四條 (明治四十二年外務省令)
第五條 (明治四十七年外務省令)
第六條 官命ニ依リ外國ニ旅行スル者ハ内國及關東州ニ於テハ其ノ所管官廳ヲ經由シテ外務省ニ、外國ニ於テハ在外公館ニ旅券ノ下付ヲ出願スルコトヲ得但シ第二條第一項第一號、第六號及第七號ノ事項ヲ開申スヘシ家族又ハ從者ヲ同行スルトキハ同行者ニ係ル第二條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ併セテ開申スヘシ
官命ニ依リ外國ニ在ル者其ノ所在地ニ家族又ハ從者ヲ呼寄セムトスルトキハ其ノ旅券下付ノ出願ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得
第七條 旅券ノ規定ハ本條ノ出願ニ之ヲ準用ス

外國旅券規則

條ノ出願ヲ爲ストキハ移民取扱人又ハ保證人ノ連署ヲ要ス
第八條 第二條ノ規定ニ依リ内國及關東州ニ於テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ハ旅券一部ニ付金五圓ニ相當スル收入印紙ヲ領收證ニ貼付スヘシ(大正十四年外務省令)
在外公館ヨリ下付ヲ受ケタル旅券ノ手数料ニ關シテハ大正九年外務省令第五號ニ依ル
第九條 旅券ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ券面ニ署名シメ本人之ニ實印ヲ捺捺スヘシ
旅券面ニ查證アルコトヲ必要トスル國ニ旅行スル者ハ其ノ定ムル所ニ依リ查證ヲ受ケヘシ
第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅券ノ下付ヲ受ケルコトヲ得ス(明治四十二年外務省令)
一 戒命令中ノ者
二 清國又ハ韓國在留禁止命令中ノ者
第十一條 第二條ノ規定ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル後六箇月以内ニ出發セサル者ハ旅券ヲ返納スヘシ
第十二條 旅行中若シ歸國若シタルトキハ旅券ヲ返納スヘシ
旅券ノ下付ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ遺族ヨリ之ヲ返納スヘシ
第十三條 商業漁業其ノ他職業ノ爲メ特定ノ地ニ數次往復スル者ハ歸國若シ歸著毎ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日ヨリ三箇年ヲ過キテ歸國若シ歸著スルトキ又ハ歸國後何時ニテモ本人所在地ヲ管轄スル地方

上級行政廳ヨリ命令アリタルトキハ之ヲ返納スヘシ(大正二年外務省令第二號大正)
第十四條 旅行十年ニ及ビ歸國セザル者ハ旅券ヲ領收シタルトキヨリ十年以内ニ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ查證ヲ受クヘシ其ノ後十年ニ及フ毎ニ亦同シ
第十五條 旅券ノ下付ヲ受ケタル者第十條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第二條第一項第一號乃至第三號、第六號及第七號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ旅券ヲ返納スヘシ
第十六條 旅券ヲ紛失シタルトキハ直ニ届出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ
第十七條 本令ノ規定ニ依リ旅券ヲ返納又ハ其ノ紛失若ハ發見ノ届出ヲ受タヘキ官廳ハ内國ニ於テハ地方上級行政廳、警視廳、函館支廳及對馬島廳、關東州ニ於テハ關東都府府、外國ニ於テハ在外公館トス
第十八條 本令ニ於テハ在外公館ト稱スルハ帝國大使館、公使館、總領事館、領事館、總領事館分館、領事館分館及貿易事務館ヲ謂フ
第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ百圓以内ノ罰金若ハ科料又ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス(明治三十二年外務省令第三號)
一 第二條第一項各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第十條各號ノ一ニ該當スル者其ノ事實ヲ申告セズ其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者及之ヲ幫助シタル者

一 他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幫助シタル者
一 旅券ニ貼付シタル寫眞ヲ取換ヘ該旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメタル者(大正六年外務省令第一號)
一 本令ニ依リ旅券ヲ返納スヘキ場合ニ之ヲ返納セシメテ使用シ又ハ事實ヲ偽リテ旅券紛失ノ旨ヲ届出テタル者(明治三十二年外務省令第三號)
附則
第二十條 舊規則ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ニ對スル第十一條ノ期間ハ該旅券面ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第二十一條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十三年外務省令第二號外國旅券規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

官吏服務紀律

(明治二十七年七月三十日)
(明治三十九年九月九日)

官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム
第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉恥ヲ重シ食汚ノ所爲アルヘカラス
第四條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セズ謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ
第五條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
第六條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

官吏服務紀律

官吏服務紀律

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハズ總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス
第九條 官吏ハ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章勳牌給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス
第十條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其獎勵ヲ受クルコトヲ得ス
一 官廳ノ工事ヲ受テ者
一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業家
一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者
第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハズ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハズ商業ヲ營ムコトヲ得ス
第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス
第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス
第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應ゼサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ
第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ

官吏服務紀律

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ得ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セザル者亦過失タルコトヲ免レス
第十七條 本紀律ハ高等官列任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

於樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官廳内官有工場及艦船等ニ於ケル變死者檢視手續

明治十二年三月十二號達左ノ通改正候條此旨相違候事

官廳内官有工場及艦船等ニ於ケル變死者檢視手續

官廳内官有工場及艦船等ニ於ケル變死者檢視手續

官廳内官有工場及艦船等ニ於ケル變死者檢視手續

官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、拜觀、寄附金、講社、神札等ニ關スル件

官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、拜觀、寄附金、講社、神札等ニ關スル件

大正三年三月三十一日

官國幣社以下神社ノ祭神、神社名、社格、明細帳、境内、創立、移轉、廢合、參拜、拜觀、寄附金、講社、神札等ニ關スル件

府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スル件

府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スル件

府縣社以下ノ神社ニ在リテハ地方長官ニ具申スル件

地方長官ニ具申スル件

地方長官ニ具申スル件

地方長官ニ具申スル件

管轄地方廳名ノ制札ヲ建設スルコトヲ得
 制札ニ記載スヘキ禁止事項ノ概目左ノ如シ
 一 車馬ヲ乗入ルコト
 一 魚鳥ヲ捕ルコト
 一 竹木ヲ伐ルコト
 第十六條 境内地ノ木竹ニシテ由緒アルモノ及風致ニ必要ナルモノハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス
 第十七條 境内地ニ於テ枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セムトスルキハ地方長官ノ許可ヲ受ケテシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテハ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ノ許可ヲ受ケルモノトス
 第十八條 官國幣社ノ本殿及其ノ周圍ノ垣、幣殿、拜殿、鳥居、神饌所、社務所又ハ府縣社以下ノ神社ノ本殿、幣殿、拜殿、鳥居ノ造修用材ニ必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケテ境内地ノ木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ神社ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク外樹木ニ付テハ左ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス
 一 目通五尺以上一丈未満ノ樹木ノ一割
 一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ノ二割
 前項ニ該當セザル建築物ト雖古社寺保存法ニ依リ特別保護建築物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建築物及特別ノ由緒ヲ有スル建築物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第十九條 前條ノ建築物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ム得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ受ケテ之ヲ伐採スルコトヲ得
 第二十條 民有地境内地ノ木竹ニシテ地主ノ所有タル確證アルモノハ地主ヨリ神社ニ要求シ神社ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキニ限リ之ヲ伐採スルコトヲ得
 第二十一條 境内地ノ林藪經營上必要ナル間伐ヲ爲サムトスルキハ豫メ地方長官ニ届出ツ
 第二十二條 境内地ノ林藪ニシテ五町歩以上ニ渉ルモノニ付テハ特ニ保護並ニ施業ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受ケテシ但シ五町歩以下ノモノト雖地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得
 第二十三條 監督官廳ニ於テ境内地ノ林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
 第二十四條 境内地ニ於テ土石、切芝又ハ樹根ノ採取ヲ爲サムトスルキハ豫メ地方長官ニ届出ツヘシ但シ北海道廳支廳並ニ府縣支廳ノ管内及市ノ區域ニ在ル郷社以下ノ神社ニ在リテ北海道廳支廳長、府縣支廳長又ハ市長ニ届出ツルモノトス
 行政廳前項ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ由緒又ハ風致上必要ト認ムルトキハ其ノ採取ヲ禁止スルコトヲ得
 第二十五條 境内地ニ接續スル土地ニ火入ヲ爲

サムトスル者ハ境内ニ對スル防火ノ設備ヲ爲シ警察官署ノ許可ヲ受ケテシ
 警察官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
 第二十六條 境内地ニハ國家ニ功勞アルモノ又ハ顯揚スベキ事蹟アルモノニ非サレハ其ノ碑表又ハ形像ヲ建設スル事得ズ
 前項ノ碑表又ハ形像ハ建設スル時同時ニ無條件ニ神社ノ所有ニ移スモノニ非サレハ神社ハ其ノ建設ヲ承認スル事得ズ
 前二項ノ規定ハ碑表又ハ形像建設取締ニ關スル他ノ規程ノ適用ヲ妨ケズ
 第二十七條 境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除ク外其ノ神社以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 一 一時限リヲ使用
 一 參拜者休息所等其ノ使用一年以内ニ止マルモノ
 一 公益ノ爲ニスル使用ニシテ境内地ノ目的ヲ損セザルモノ
 前項ノ使用ヲ爲サムトスル者ハ神社ノ承認ヲ得地方長官ノ許可ヲ受ケテシ但シ一時限リ使用ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルヲ要セス
 第二十八條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ境内地ノ使用ヲ禁止スルヲ得シ又ハ建築物ノ改築撤却其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
 一 制規ノ手續ヲ經サルトキ
 一 該當スル

一 期限ヲ經過シタルトキ
 一 神社ノ爲メ必要アリト認メタルトキ
 一 公益上必要アリト認メタルトキ
 一 法令若ハ許可ノ條件ニ違背シタルトキ
 第二十九條 境内地ニ近接シ風致上必要ナル社有林ニ付テハ地方長官ニ於テ其ノ區域ヲ指定シ境内地ニ關スル規定ヲ準用スルコトヲ得
 第三十條 本章ノ規定ハ建築物アル邊界所ニ之ヲ準用ス
 第三章 創立、移轉、廢合
 第三十一條 祭神ノ事蹟顯著ニシテ土地ノ情況又ハ緣故等特別ノ事由アルニ非サレハ神社ヲ創立スルコトヲ得ス
 第三十二條 神社ヲ創立セムトスルキハ氏子又ハ崇敬者トナルヘキ者五十人以上ノ連署ヲ以テ創立ノ事由ヲ具シ左記事項ニ關スル證書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受ケテシ
 一 祭神及神社名
 二 由緒
 三 社殿
 四 鎮座地及境内地
 五 建設費及其ノ處辨方法
 六 維持方法
 第三十三條 神社創立ノ許可ヲ受ケタル者其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ社殿ヲ建設セザルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケテ年限ヲ延長スルコトヲ得

建設ヲ竣リタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ
 第三十四條 前三條ノ規定ハ神社ノ再興、復舊及建築物アル邊界所ノ建設並私祭神祠ヲ神社ト爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第三十五條 官國幣社ニ於テ其ノ攝末社ノ指定又ハ廢止ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ具申スヘシ
 第三十六條 神社ヲ移轉セムトスルキハ其ノ移轉先ノ社地及建築物ノ圖面ヲ添ヘ地方長官ノ許可ヲ受ケテシ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ二年以内ニ移轉ヲ了ラサルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケテ年限ヲ延長スルコトヲ得
 移轉ヲ了リタルトキハ神社ニ於テ明細書ヲ調製シ地方長官ニ提出スヘシ
 第三十七條 神社及建築物アル邊界所ヲ廢止シ又ハ合併セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケテシ廢止又ハ合併ヲ了リタルトキハ地方長官ニ届出ツヘシ
 第三十八條 道府縣ニ涉リ神社ヲ移轉シ又ハ合併セムトスルトキハ關係地方長官ノ許可ヲ受ケテシ
 第三十九條 地方長官ニ於テ前三條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ官國幣社、延喜式内社、國史所載社、特別由緒アル神社ニ付テハ内務大臣ニ稟請スヘシ
 第四十條 社殿亡失シタル後五年以内ニ再建セ

サル神社ハ廢止シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ハ年限ヲ延長スルコトヲ得
 第四章 參拜、拜觀、寄附金、講社、神札
 第四十一條 神社ハ何等ノ名義ニ拘ラス參拜ノ爲メ料金を徴收スルコトヲ得ス
 第四十二條 神社ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ建築物、寶物等ヲ拜觀セシムル爲メ料金を徴收スルコトヲ得ス
 第四十三條 神社又ハ神社ノ爲メニスル者ニ於テ寄附金ノ募集ヲ爲サムトスルトキハ其ノ目的、方法、金額、區域、期間及募集員ノ身元ヲ具シ神社所在地地方長官ノ許可ヲ受ケタル上更ニ募集地地方長官ノ許可ヲ受ケテシ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 神社ノ爲メニ寄附金募集ヲ爲サムトスル者ハ豫メ神社ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス
 寄附金ノ募集ニ關シ神社ノ尊嚴ヲ損シ其ノ他不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ地方長官ノ承認ヲ受ケテハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
 第四十四條 神社ニ於テ其ノ附屬ノ講社其ノ他ノ團體ヲ組織セムトスルトキハ其ノ目的、方法等ヲ記載シタル規約書ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受ケテシ
 第四十五條 神社ニ於テ神札授與ノ爲出張所ヲ設ケタルトキハ出張所所在地地方長官ニ届出ツヘシ
 第五章 罰則

第四十六條 第二十五條第一項ノ許可ヲ受ケス又ハ同條第二項ニ依ル命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

第四十八條 本令施行前調製シタル明細帳ハ第七條ニ依リ調製シタルモノト看做ス

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス從前ノ規定ニ依ル境内地ノ土石、切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲サントスル許可ノ申請ニシテ本法施行ノ際仍其ノ許可ヲ得サルモノニ付テハ之ヲ本令ニ依ル届出ト看做ス

第一條 本法ニ於テ花柳病ト稱スルハ梅毒、淋病及軟性下疳ヲ謂フ

●花柳病豫防法

(昭和二年四月五日法律第十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル花柳病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

花柳病豫防法

第一條 本法ニ於テ花柳病ト稱スルハ梅毒、淋病及軟性下疳ヲ謂フ
第二條 主務大臣ハ業應上花柳病傳播ノ虞アル者ヲ診察セシムル爲市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シ診察所ノ設置ヲ命ズルコトヲ得
第三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ前條ノ規定ニ依リ診察所ヲ設置スル市其ノ他ノ公共團體ニ對シ其ノ診察所ニ關シ市其ノ他ノ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス
第四條 主務大臣ハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立ノ診察所ヲ其ノ承諾ヲ得テ第二條第一項ノ規定ニ依リ設置スル診察所ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條第二項及前條ノ規定ヲ準用ス
第五條 傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レルコトヲ知リテ賣淫ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

花柳病豫防法

知ルベクシテ賣淫ノ謀合又ハ容止ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ場合ニ於テ傳染防止ニ付相當ノ方法ヲ講ジタル者ハ其ノ刑ヲ減輕ス
第六條 醫師傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レル者ヲ診察シタルトキハ傳染ノ危険及傳染防止ノ方法ヲ指示スベシ
第七條 花柳病ニ關スル賣藥ハ其ノ容器又ハ被包ニ其ノ成分及分量、成分不明ナルモノハ其ノ本質及製造法ノ要旨ヲ記載スルニ非ザレバ之ヲ發賣スルコトヲ得ズ
第八條 前條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ發賣ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第九條 前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム
花柳病ニ關スル賣藥ニシテ本法公布前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ當分ノ間第七條ノ規定ヲ適用セズ

第九條 前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム
花柳病ニ關スル賣藥ニシテ本法公布前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ當分ノ間第七條ノ規定ヲ適用セズ

第十條 前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム
花柳病ニ關スル賣藥ニシテ本法公布前ヨリ發賣シ來レルモノニ關シテハ當分ノ間第七條ノ規定ヲ適用セズ

皇室典範

(明治二十二年二月十一日)

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗奉國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範ヲ制定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス
第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ
第三條 皇長子ニ在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス
第四條 皇太子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニシ皇太子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル
第五條 皇太子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ
第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ
第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ
第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ前ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク
第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ
第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ
第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス
第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス
第十五條 儲副タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲副タル皇孫ヲ皇太子トス
第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス
第十七條 天皇皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス
第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス
第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク
第二十條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス
第一 親王及王
第二 皇后
第三 皇太后
第四 太皇太后
第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス
第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ
第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ疾患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅
第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セザリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得
第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得

第七章 皇族
第三十條 皇族ト稱スルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃内親王妃女王王妃女王ヲ謂フ
第三十一條 皇子ヨリ皇孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王子女ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス
第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス
第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス
第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス
第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第九章 皇族會議

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル
第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅旨ニ由ル
第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅旨ハ宮内大臣之ニ關シテ
第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス
第四十三條 皇族國籍ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ
第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王妃女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料
第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス
第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅旨ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費
第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム
第四十八條 皇室經費ノ豫算決算檢査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒
第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス
第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訴訟ニ出ルヲ要セ

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス
第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ
第五十三條 皇族遺産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ
第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議
第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム
第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム
第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル
第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇太子皇孫子又ハ他ノ繼承タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ
第五十九條 親王内親王王妃女王ノ品位ハ之ヲ廢ス
第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル規程ハ總テ之ヲ廢ス
第六十一條 皇族ノ財產歲費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 人民ノ皇族ニ對スル民事訴訟ノ第一

審及第二審ハ東京控訴院ノ管轄ニ屬ス但シ第一

審ノ訴訟手續ハ地方裁判所ノ第一審手續ニ

關スル規定ニ依ル

第十六條 當事者タル皇族ノ訊問ハ其ノ所在ニ

就キ之ヲ爲スヘシ

第十七條 第十四條及第十五條ノ規定ハ宮内大

臣民事訴訟ノ當事者タル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 刑事訴訟

第一節 司法裁判所ノ裁判權ニ屬スル

第十八條 皇族ニ對スル刑事訴訟ハ軍法會議ノ

裁判權ニ屬スルモノヲ除ク外大審院ノ管轄

ニ屬ス

第十九條 大審院ニ於テハ大審院長及助任判事

ヲ以テ組織シタル部ニ於テ審判ヲ爲ス

第二十條 捜査ハ檢事總長ノ指揮ニ依ル

第二十一條 檢事總長豫審ヲ請求シタルトキハ

大審院長ハ其ノ院ノ判事ニ豫審ヲ命ズ但シ事

宜ニ依リ他ノ裁判所ノ判事ヲシテ豫審ヲ爲サ

シムルコトヲ得

第二十二條 公判ニハ檢事總長立會フヘシ

第二十三條 皇族ニ對スル刑事訴訟ノ手續ハ總

テ刑事訴訟法第四編ノ規定ニ依ル

第二十四條 皇族ニ對スル刑事訴訟ニ付テハ本

令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外一般ノ法令

ニ依ル

皇族ニ對スル刑ノ執行手續ハ司法大臣勅裁ヲ

經テ之ヲ定ム

第二節 軍法會議ノ裁判權ニ屬スル刑

第二十五條 陸軍軍法會議法海軍軍法會議法及

附屬法令ノ規定ハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ

除ク外皇族ニ之ヲ適用ス

皇族ニ對スル刑ノ執行手續ハ陸軍大臣又ハ海

軍大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二十六條 皇族ノ犯罪ハ高等軍法會議ニ於テ

之ヲ審判ス

高等軍法會議ノ裁判官ハ大將タル判士三人及

法官二人ヲ以テ之ニ充ツ

第二十七條 捜査ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指

揮ニ依ル

第三章 補則

第二十八條 皇族ニ對スル書類ノ送達ハ裁判長

官内大臣ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第二十九條 皇族證人ナルトキハ其ノ所在ニ就

キ訊問ヲ爲スヘシ

第三十條 本令ノ適用ニ關シ親族關係ハ皇室親

族令ノ定ムル所ニ依ル但シ血族ハ六親等内ニ

限リ之ヲ親族トス

第三十一條 押收捜索其ノ他ノ強制處分ハ皇族

ニ付テハ勅許ヲ得且宮内高等官ノ立會アルニ

非サルハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 人民相互ノ民事訴訟及人民ニ對ス

ル刑事訴訟ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合

ヲ除ク外一般ノ法令ハ皇族ニモ亦之ヲ適用

ス

活動寫眞「フィルム」檢閱規則

(大正十四年五月二十六日)

第六條 檢閱官廳ハ其ノ規定ニ依リ檢閱ノ申

スルコトヲ得

第七條 檢閱官廳ハ「フィルム」ノ檢閱ニ付左ノ

手續ヲ徵收ス

第八條 檢閱官廳ハ「フィルム」ノ檢閱ニ付左ノ

手續ヲ徵收ス

第九條 檢閱官廳ハ其ノ規定ニ依リ檢閱ノ申

スルコトヲ得

第十條 「フィルム」ノ檢閱ヲ毀損シタルトキハ

事由ヲ具シ更ニ「フィルム」ヲ其ノ檢閱官廳ニ

提出シ檢印ノ押捺ヲ申請シ説明臺本ヲ亡失若

ハ毀損シ又ハ其ノ檢印ヲ毀損シタルトキハ事

由ヲ具シ更ニ其ノ説明臺本一部ヲ當該「フィ

ルム」ノ檢閱官廳ニ提出シ第三條ノ規定ニ依

ル記入又ハ檢印ノ押捺ヲ申請スルコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以

テハ三メイトル又ハ其ノ端數毎ニ五錢但

シ「フィルム」ノ檢閱後三月内ニ同一申請

者ヨリ檢閱ヲ申請スル當該「フィルム」ノ

複製及有效期間經過後六月内ニ檢閱ヲ申

請スル當該「フィルム」ニ付テハ三メイト

ル又ハ其ノ端數毎ニ二錢

地方長官、警察署長又ハ警察分署長ノ檢

閱スル「フィルム」ニ付テハ三メイトル又

ハ其ノ端數毎ニ一錢

活動寫眞「フィルム」檢閱規則

第六條 檢閱官廳ハ其ノ規定ニ依リ檢閱ノ申

スルコトヲ得

第七條 檢閱官廳ハ「フィルム」ノ檢閱ニ付左ノ

手續ヲ徵收ス

第八條 檢閱官廳ハ「フィルム」ノ檢閱ニ付左ノ

手續ヲ徵收ス

第九條 檢閱官廳ハ其ノ規定ニ依リ檢閱ノ申

スルコトヲ得

第十條 「フィルム」ノ檢閱ヲ毀損シタルトキハ

事由ヲ具シ更ニ「フィルム」ヲ其ノ檢閱官廳ニ

提出シ檢印ノ押捺ヲ申請シ説明臺本ヲ亡失若

ハ毀損シ又ハ其ノ檢印ヲ毀損シタルトキハ事

由ヲ具シ更ニ其ノ説明臺本一部ヲ當該「フィ

ルム」ノ檢閱官廳ニ提出シ第三條ノ規定ニ依

ル記入又ハ檢印ノ押捺ヲ申請スルコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以

テハ三メイトル又ハ其ノ端數毎ニ五錢但

シ「フィルム」ノ檢閱後三月内ニ同一申請

者ヨリ檢閱ヲ申請スル當該「フィルム」ノ

複製及有效期間經過後六月内ニ檢閱ヲ申

請スル當該「フィルム」ニ付テハ三メイト

ル又ハ其ノ端數毎ニ二錢

地方長官、警察署長又ハ警察分署長ノ檢

閱スル「フィルム」ニ付テハ三メイトル又

ハ其ノ端數毎ニ一錢

活動寫眞「フィルム」檢閱規則

下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 一 第一條ニ違反シタル者
 二 第二條第四項ノ證明書若ハ第十條ノ申請書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者
 三 第五條ノ制限又ハ第六條第一項ノ命令ニ違反シテ映寫シタル者
 第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
 一 第六條第二項ノ命令ニ違反シタル者
 二 第七條ニ違反シタル者
 三 第九條第一項ノ臨檢ヲ拒ミタル者
 四 第九條第三項ノ要求ニ應ゼザル者
 第十三條 未成年者又ハ禁酒者本令ニ違反シタルトキハ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第十四條 多衆ノ觀覽ニ供スル爲「フィルム」ヲ映寫スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者其ノ他ノ從事者ニシテ其ノ映寫ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
 第十五條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

附則

本令ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前府縣令ニ依リ檢閱ヲ經タル「フィルム」ハ本令施行後二年間ハ仍舊府縣令ニ依リ檢閱ヲ受クルコトヲ得(大正十五年內務省令第五十五號)

ルム」ハ本令施行後二年間ハ仍舊府縣令ニ依リ檢閱ヲ受クルコトヲ得(大正十五年內務省令第五十五號)
 本令施行前府縣令ニ依リ檢閱ヲ經タル「フィルム」及前項ノ規定ニ依リ府縣令ニ依リ檢閱ヲ經タル「フィルム」ニ付テハ本令施行後二年間ハ仍舊府縣令ノ規定ニ依ル但シ本令ニ依リ檢閱ヲ經タル「フィルム」ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上)
 本令施行前府縣令ニ依リ檢閱ヲ經タル「フィルム」ニ付檢閱ノ一部ヲ省略スルモ支障ナシト認めタルトキハ本令施行後二年間ハ内務大臣檢閱ノ一部ヲ省略シテ「フィルム」ニ檢印ヲ捺捺シ説明書本ニ其ノ旨ヲ記入スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル檢閱手数料ハ三メートル又ハ其ノ端數毎ニ一錢トス(同上)

軍人軍屬ノ遺言ノ確認ニ關スル件

(明治三十三年二月七日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法第七十九條及第八十一條ノ規定ニ依リ遺言ノ確認ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 民法第七十九條ノ規定ニ依リ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ
 一 陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衙團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言者ノ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若シ其ノ軍法會議ノ設置ナク若ハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ住所又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ
 二 海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衙團隊所在地又ハ其ノ附近ノ軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若シ遺言者ノ爲シタル者カ艦船乗込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ
 第三條 民法第八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ
 第三條 民事訴訟法裁判所職員ノ除斥人證鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十一條第十二條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第九條第二項ノ規定及

軍令ニ關スル件

(明治四十一年九月十二日)

朕軍令ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ施行ス
 第一條 陸海軍ノ統帥ニ關シ勅定ヲ經タル規程ハ之ヲ軍令トス
 第二條 軍令ニシテ公示ヲ要スルモノニハ上諭ヲ附シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ主任ノ陸軍大臣海軍大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス
 第三條 軍令ノ公示ハ官報ヲ以テス
 第四條 軍令ハ別段ノ施行時期ヲ定ムルモノノ外直ニ之ヲ施行ス

軍用電信法

(明治二十七年六月六日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用電信法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

軍用電信法

第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關ス
ル通信ヲ爲スモノトス

第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ
管理ス

第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス
一 固定軍用電信

二 遊動軍用電信

第四條 固定軍用電信ハ要塞、衛戍、軍港、要
港、海岸砲臺、監視哨所其ノ他局地ノ防禦ニ
必要ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メ之ヲ建
設スルモノトス

第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨
時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス

第六條 軍用電信ハ最寄私設ノ電信取扱所ニ連
接シ又私設電線ノ柱木ニ添架スルコトヲ得

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得
第八條 刑法第六十四條及明治十八年第八號
布告電信條例第五十八條乃至第六十三條及第
七十一條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

第九條 軍用電信ノ事務ニ從事スル者軍用電信
ニ關シ電信條例第五十八條乃至第六十三條ノ
罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

又通信ノ旨趣ヲ漏洩シタルトキハ四月以上四
年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

第十條 軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條及
第六十二條ノ罪ヲ犯サンコトヲ得

第六十二條ノ罪ヲ犯サンコトヲ得テ未ダ遂ケサル
者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

軍用自動車補助法

(大正七年三月二十五日)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用自動車補助法ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍用自動車補助法

第一條 政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ陸軍ノ軍用
ニ適スヘキ自動車ノ製造者又ハ所有者ニ對シ
補助金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ製造者又ハ所有者ノ其ノ自動車ニ關ス
ル業務ノ承繼人ハ之ヲ前項ノ製造者又ハ所有
者ト看做ス

第二條 補助金ヲ受クルコトヲ得ヘキ製造者又
ハ所有者ハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州
又ハ南滿洲鐵道附屬地ニ存在スル自動車製造
所又ハ自動車ヲ有スル帝國臣民又ハ帝國法令
ニ依リ設立シタル法人ニ限ル但シ社團法人ハ
株式會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議
決權ノ過半數力帝國臣民ニ屬スルモノ其ノ他
ノ社團法人ニ在リテハ其ノ社員力帝國臣民
ナルモノナルコトヲ要ス

前項ニ掲ケル者ノ外公共團體ニハ補助金ヲ下
付スルコトヲ得

製造者及製造所ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 補助金ヲ受クルコトヲ得ヘキ自動車ハ
主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ製造シタルモノ
ニシテ主トシテ貨物ノ運搬ヲ目的トシ四分ノ
三佛噸以上ノ積載量ヲ有スルモノ又ハ之ニ改

造シ得ヘキモノニ限ル(大正十年法律第二十
四條ノ規定ニ依リテ)

第四條 製造者ニハ其ノ製造ニ係ル自動車一輛
ニ付三千圓以内ノ製造補助金ヲ下付スルコト
ヲ得(前條ノ規定ニ依リテ)

製造者其ノ製造ニ係ル新ナル自動車ニシテ製
造補助金ヲ受ケタルモノヲ所有シテ使用シ又
ハ他人ヲシテ使用セシムル場合ニ於テハ自動
車一輛ニ付更ニ五百圓以内ノ増加補助金ヲ下
付スルコトヲ得

第五條 所有者ニハ製造補助金ヲ受ケタル新ナ
ル自動車ヲ其ノ製造者ヨリ購買シテ使用シ又
ハ他人ヲシテ使用セシムル場合ニ於テハ自動
車一輛ニ付千圓以内ノ購買補助金ヲ下付スルコ
トヲ得

第六條 増加補助金又ハ購買補助金ヲ受ケタル
自動車ヲ所有スル者之ヲ使用シ又ハ他人ヲシ
テ使用セシムル場合ニ於テハ其ノ期間ニ應ジ
テ自動車一輛ニ付一年六百圓以内ノ維持補助金
ヲ下付スルコトヲ得(前條ノ規定ニ依リテ)

維持補助金下付ノ期限ハ増加補助金又ハ購買
補助金下付指令ノ日ヨリ五年ヲ限リ製造補助
金下付指令ノ日ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得

維持補助金ハ毎年其ノ年分全額ヲ下付指令ノ
際自動車ヲ所有スル者ニ之ヲ下付ス

第七條 製造補助金ヲ受ケタル自動車ハ其ノ補
助金下付指令ノ日ヨリ左ノ各號ノ一ニ該當ス
ルニ至ル迄ノ間之ヲ保護自動車ト稱ス

一 自動車ノ所有者力第二條第一項ノ規定ニ

該當セサルニ至リタルトキ

二 第六條第二項ノ期限ヲ經過シタルトキ

三 第十二條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ
補助金ヲ受クルノ資格ヲ喪失セラレタル
トキ

第八條 主務大臣ハ軍用ノ爲何時ニモ保護自
動車ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用シタル場合ニ
於テハ自動車ノ所有者ニ補償金ヲ下付ス其ノ
金額ハ主務大臣ノ定ム

補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又ハ使用ノ
通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所
ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ自動車ノ收用又ハ使用ヲ停止セ
ス

第九條 保護自動車ノ所有者ハ主務大臣ノ定ム
ル場合ヲ除ク外保護自動車ノ構造又ハ能力
ヲ變更スルコトヲ得

第十條 保護自動車ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケタ
ル場合ヲ除ク外之ヲ第二條第一項ニ掲ケル
地域ノ外ニ輸出シ又ハ外國人ニ對シ讓渡シ、
貸付シ若ハ擔保ニ供スルコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ保護自動車ノ保護ヲ期ス
ル爲其ノ構造及能力ヲ検査シ所定ノ構造又ハ
能力ヲ有セスト認ムルトキハ其ノ所有者ニ對
シ期限ヲ指定シテ之ヲ修理ヲ命スルコトヲ
得

前項ノ外主務大臣ハ保護自動車ノ所有者ニ對

シ其ノ保護ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ
得

第十二條 主務大臣ハ前條第一項ノ規定ニ依リ
検査ニ依リ所定ノ構造又ハ能力ヲ有セスト認
メタル保護自動車ニ對シテハ修理ヲ命シタル
場合ヲ除ク外補助金ヲ受クルノ資格ヲ喪失
ス其ノ修理ヲ命シタル場合ニ於テ修理完成ノ
検査ニ合格セス又ハ指定期限迄ニ其ノ検査ヲ
受ケサルトキ亦同シ

主務大臣ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令
又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ違反シタル者ニ對
シテハ違反ノ事實アリタル時ヨリ當該自動車
ニ對シ補助金ヲ受クルノ資格ヲ喪失シ又ハ
停止スルコトヲ得

主務大臣ハ前條第一項ノ規定ニ依リ修理ヲ命
シタル自動車ニ對シテハ前條第一項ノ規定ニ
依リ検査ノ時ヨリ修理完成ノ検査ヲ受ケタル
モノニ在リテハ合格不合格決定ノ時迄、其ノ
検査ヲ受ケサルモノニ在リテハ指定期限迄補
助金ヲ受クルノ資格ヲ停止ス

第十三條 主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發
スル命令ニ違反スル犯罪ノ爲起訴セラレタル
者ニ對シテハ裁判確定ニ至ル迄ノ間補助金ノ
支給ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ第十五條乃至第十七條ノ
規定ニ依リ處罰セラレタル者又ハ第二條第一
項ニ該當セサルニ至リタル者ニ對シ當該自動
車ニ付既ニ下付シタル補助金ニ相當スル金額
ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトヲ得

前項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十五條 詐欺ノ所爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第九條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ自動車ノ検査ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ検査ニ關スル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條 製造者又ハ所有者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ製造者又ハ所有者ニ適用スヘキ罰則ハ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 製造者又ハ所有者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇、其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ

アルコトヲ要ス

第二十一條 前二項ニ準シ書面ヲ作り差出スヘシ

第二十二條 陸軍大臣ニ於テ前二條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ自動車件名書、自動車説明書及自動車製造設備説明書ヲ調査セシムヘシ

第二十三條 検査官吏ニ於テ自動車件名書、自動車説明書及自動車製造設備説明書ヲ調査ナラスト認ムルトキハ之カ訂正又ハ新規調製ヲ命ジ必要ト認ムルトキハ第二十三條ニ掲ケタル書類又ハ圖面ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十四條 陸軍大臣ハ検査官吏ノ報告ニ依リ自動車ノ資格檢定ヲ爲スニ適當ナリト認ムルトキハ製造出願者ヲシテ自動車件名書及自動車説明書ニ基キ見本トシテ自動車二輛ヲ指定ノ期日迄ニ製造セシム

第二十五條 陸軍大臣ハ前條ニ依リ製造中其ノ製造工場ニ臨檢スルコトヲ得

第二十六條 製造出願者ハ前條ニ依リ自動車ヲ作製シ竣工シタルトキハ引受時刻證明郵便ヲ以テ其ノ旨ヲ陸軍大臣ニ届出ヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ陸軍大臣ハ検査官吏ヲシテ當該自動車ニ就キ細部ノ検査及運行ノ検査ヲ行ハシムヘシ

前項検査ノ場所及日時ハ其ノ都度之ヲ通知ス

故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條 前二條ノ場合ニ在リテハ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ製造補助金ヲ受ケタルコトヲ得ル自動車ト同等以上ノ能力ヲ有スル新ナル外國製自動車ヲ所有シテ使用シ又ハ他人ヲシテ使用セシムル者ニハ當分ノ内自動車一輛ニ付千圓以内ノ補助金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ補助金ヲ受ケタル自動車ハ本法ノ製造補助金及購買補助金ヲ受ケタルモノト看做ス

前二項ノ規定ハ官立工場ニ於テ製造シタル自動車ニ付之ヲ準用ス

前項ノ検査ヲ資格檢定ト稱ス

第二十九條 陸軍大臣ハ検査官吏ノ報告ニ依リ第二十七條第一項ノ自動車カ軍用ニ適スルモノト認ムルトキハ其ノ自動車ニ對スル資格檢定證書ヲ地方長官ヲ經テ製造出願者ニ下付シ其ノ旨ヲ告示ス

第一項ニ依リ資格檢定證書ヲ受ケタル製造者ハ直ニ該自動車ノ細目名稱表一通ヲ陸軍大臣ニ差出スヘシ又同大臣ノ命令アルトキハ速ニ自動車全部ノ製作圖ヲ差出シ得ル如ク準備シアルヘシ

製造者ニシテ第一項ニ依リ資格檢定證書ヲ下付アリタル自動車ノ一部ヲ修正セムトスルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第二章ノ構造及能力ヲ變更セサルヲ要ス

製造者ニシテ第二項ノ期限満了後尙同一ノ構造及能力ヲ有スル自動車ヲ以テ製造補助金ヲ受ケムトスルトキハ更ニ其ノ旨ヲ陸軍大臣ニ届出ヘシ

陸軍大臣ハ前項ノ願書ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ資格檢定證書記載ノ有効期限ヲ改定シ其ノ旨ヲ告示ス

第三十條 第二十三條ノ製造者ニシテ前條ニ依リ檢定證書ヲ下付セラレタル自動車ト同一ノ構造及能力ヲ有スル自動車ヲ製造シ製造補助金ノ下付ヲ受ケムトスルトキハ年度毎ニ製造

軍用自動車補助法施行細則 (抄)

軍用自動車補助法施行細則左ノ如ク定ム

第三章 自動車ノ檢定、検査及補助金ノ下付

第二十三條 製造補助金ヲ受ケムトスル者ハ檢定資格檢定願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ提出ス

一 自動車件名書

二 自動車説明書

三 製造者ノ口籍簿本

第二十四條 會社ニ在リテハ其ノ代表者ハ前條第三號ニ代ヘ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出ス

一 會社ノ種類

二 社員又ハ株主ノ氏名

三 定款

四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名前項第三號ノ定款中ニハ株式會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半数カ帝國臣民ニ屬スヘキ旨、其ノ他ノ會社ニ在リテハ社員又ハ株主ハ帝國臣民ニ限ルノ旨ヲ表示シ

者ヨリ製造補助金下付願書ヲ其ノ前年度ノ十一月末日迄ニ陸軍大臣ニ差出スヘシ但シ其ノ出願輛數ハ五輛以上ナルコトヲ要ス

前項ノ願書アリタルトキハ陸軍大臣ハ必要ト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ其ノ製造工場ニ臨檢セシムヘシ

第一項ノ製造者ニシテ第二十九條ニ依リ資格檢定證書ヲ下付アリタル自動車ニ付製造補助金ノ下付ヲ受ケムトスルトキハ第一項ノ規定ヲ準用シ臨時願出ルコトヲ得

第三十條ノ二 第二十七條第二項及前條第二項ノ検査ヲ製造檢査ト稱ス

第三十一條 陸軍大臣ハ前條ニ依リ願出タル自動車ノ製造竣工シタルトキハ自動車製造者ハ引受時刻證明郵便ヲ以テ其ノ旨ヲ陸軍大臣ニ届出ヘシ

車ニ對シテハ検査官吏ノ報告ニ依リ前條ノ自動車カ軍用ニ適スト認メタルトキハ合格車ニ對シ製造補助金下付指令書ヲ地方長官ヲ經テ其ノ自動車製造者ニ下付ス(大正十年陸軍省令第二十號)自動車製造者ハ前項ニ依リ指令書ヲ下付アリタルトキハ製造補助金請求書ヲ陸軍大臣ニ差出ス

第三十四條 合格車ヲ決定スルニ當リ其ノ車輛數カ保護額定額ニ超過スルトキハ竣工届發送日時ノ先ナルモノニ從ヒ順次ニ之ヲ決定シ竣工届ノ發送日時同一ナルトキハ先ツ第三十條第三項ノ自動車ヲ採リ其ノ他ハ抽籤ニ依リ決定ス(大正十年陸軍省令第二十號)殘餘ノ合格車輛ハ保護自動車ノ決定ニ付通常次年度ニ於テ優先權ヲ保有スルモノトス但シ優先權保有資格者シテ多數ナルトキハ時宜ニ依リ其ノ數ニ制限ヲ加フルコトアルヘシ

優先權ヲ享有スル車輛ニ對シテハ陸軍大臣ハ其ノ旨ヲ告示シ次年度ノ始ニ於テ地方長官ヲ經テ製造補助金下付指令書ヲ下付ス

第三十五條 補助法第四條第二項ニ依リ補助金ヲ受ケムトスルトキハ其ノ製造者ハ地方長官ヲ經テ增加補助金下付願書ヲ陸軍大臣ニ差出ス

第三十六條 第三十三條ノ自動車ヲ製造者ヨリ購買シタルトキハ其ノ購買者ハ地方長官ヲ經テ購買補助金下付願書ヲ陸軍大臣ニ差出ス

自動車ノ購買者法人ナルトキハ第二十四條ノ

書類ヲ添付ス

第三十七條 陸軍大臣ハ前二條ノ願書ヲ適當ト認ムルトキハ其ノ自動車ニ對シ增加補助金下付指令書又ハ購買補助金下付指令書ヲ地方長官ヲ經テ其ノ自動車ノ所有者ニ下付ス

自動車ノ所有者ハ前項ニ依リ指令書ヲ下付アリタルトキハ增加補助金又ハ購買補助金請求書ヲ陸軍大臣ニ差出ス

第三十八條 前條ニ依リ增加補助金又ハ購買補助金ヲ受ケタル自動車ノ所有者ハ其ノ年度ノ維持補助金下付願書ヲ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ニ差出ス

第二年度以後ニ在リテハ其ノ年十二月末迄ニ前項ノ手續ヲ行フヘシ(大正十年陸軍省令第二十號)

第五十三條 第一項ニ規定スル所有權ノ移轉アリタルトキハ前所有者ノ提出シタル維持補助金下付願書ニ對シ其ノ名義變更届ヲ新所有者ハ舊所有者ヨリ連署ヲ以テ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ニ差出ス(大正十年陸軍省令第二十號)

第三十九條 陸軍大臣ハ補助法第十一條第一項ニ依リ購買補助金又ハ增加補助金下付ノ翌年ヨリ毎年一回検査官吏ヲシテ検査ヲ行ハシムヘシ(大正十年陸軍省令第二十號)

前項検査ノ場所及日時ハ毎年検査施行ノ約二ヶ月前ニ之ヲ告示ス

前項ノ検査ヲ維持検査ト稱ス

第三十九條ノ二 陸軍大臣ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ検査官吏ヲシテ保護自動車ノ検査ヲ行ハシムルコトアルヘシ(大正十年陸軍省令第二十號)

前項検査ノ場所及日時ハ其ノ都度之ヲ告示ス

前項ノ検査ヲ臨時検査ト稱ス

第三十九條ノ三 検査官吏ハ前二條ノ検査ヲ爲シタルトキハ其ノ成績ヲ陸軍大臣ニ報告ス(同上)

第四十條 前條ノ検査ニ合格シタル自動車ニ對シテハ検査官吏ハ第四十七條ノ保護自動車籍ニ其ノ旨ヲ記入ス

第四十一條 保護自動車ノ所有者ハ其ノ自動車ノ一部ヲ改造セムトスルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ受ケヘシ但シ第二章ノ構造及能力ヲ變更セサルヲ要ス

第四十二條 検査ニ要スル費用ハ検査ニ從事スル職員ノ爲ニ要スルモノヲ除クノ外總テ受檢者ノ負擔トス

第四十三條 陸軍大臣ハ第三十九條第一項又ハ第三十九條ノ二ノ第一項ノ検査ニ合格シタル自動車ニ對シ毎年三月維持補助金下付指令書ヲ地方長官ヲ經テ其ノ自動車ノ所有者ニ下付ス

補助法第七條ニ定ムル保護期間ノ最終年次ニ於ケル自動車ニ對シテハ陸軍大臣ハ其ノ期限滿了後地方長官ヲ經テ維持補助金下付指令書ヲ下付ス

第五十三條 第一項ニ規定スル所有權ノ移轉アリタル自動車ニ對スル當該年度ノ維持補助金下付指令書ハ新所有者ニ下付ス(大正十年陸軍省令第二十號)

前三項ニ依リ指令書ヲ下付アリタルトキハ自動車ノ所有者ハ維持補助金請求書ヲ陸軍大臣ニ差出ス

第四十四條 陸軍大臣ハ補助法第十二條及第十三條ニ依リ補助金ヲ受ケル資格ヲ廢除シ停止シ又ハ其ノ支給ヲ中止シタルトキハ自動車ノ所有者ニ對シ地方長官ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

第四十五條 保護自動車ヲ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其ノ所有者ハ二十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ニ届出ス

第四十六條 保護自動車ノ製造者又ハ所有者ニシテ補助法第二條ニ規定スル資格ヲ失ヒタルトキハ二十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ニ届出ス

第四十七條 保護自動車ハ之ヲ保護自動車籍ニ編入ス

保護自動車籍ニ編入シテ検査官吏ニ於テ二通過ヲ調製シ其ノ正本ヲ陸軍省ニ保管シ其ノ副本ヲ地方長官ヲ經テ自動車ノ所有者ニ下付ス

前項ノ副本ハ維持検査又ハ臨時検査ノ際検査官吏ニ差出ス(大正十年陸軍省令第二十號)

第四十八條 保護自動車ニハ検査官吏ニ於テ所要ノ検査記録ヲ刻シ陸軍大臣ハ保護標札ヲ地方長官ヲ經テ之ヲ所有者ニ下付シ自動車ニ附著セシム

自動車ノ所有者ハ保護自動車ノ前面及後面ノ見易キ部位ニ白色ノA章ヲ表示スルヲ要ス(大正十年陸軍省令第二十號)

第四十九條 保護標札ハ補助法第七條ニ定ムル保護期間自動車ヨリ除去スルヲ得ス

保護標札ヲ毀損又ハ失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ地方長官ヲ經テ再下付陸軍大臣ニ願出ス

第五十條 補助法第七條ニ依リ保護自動車タル資格ヲ失ヒタルトキハ自動車ノ所有者ハ速ニ保護自動車籍及保護標札ヲ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ニ返納ス

第五十一條 陸軍大臣ニ於テ補助法第八條ニ依リ自動車ヲ收用又ハ使用ヲ爲サムトスルトキハ自動車ヲ差出スヘキ期日及場所ヲ指定シ地方長官ヲ經テ自動車ノ所有者ニ命令ス

前項ノ命令ヲ受ケタル保護自動車ノ所有者ハ指定ノ日時ニ於テ指定ノ場所ニ自動車ヲ差出ス

收用又ハ使用ノ場合ニ於ケル補償金額ノ算定ハ附表第二ニ依ル

第五十二條 保護自動車ノ所有者ハ保護自動車居座標式ヲ備ヘ置クヘシ

前項ノ履歷ハ維持検査又ハ臨時検査ノ際検査官吏ニ差出ス(大正十年陸軍省令第二十號)

第五十三條 第三十六條ノ場合ヲ除クノ外保護自動車ノ所有者當該自動車ノ所有權ヲ移轉シ又ハ車輛ノ所在地及使用ノ目的ニ變更ヲ生シタルトキハ自動車ノ所有者ハ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經テ二十日以内ニ陸軍大臣ニ届出ヘシ但シ所有權ノ移轉ニ關スル居書ニハ舊所有者ノ

連署ヲ要ス所有權ノ移轉ヲ受ケヘキ法人ニ在リテハ第二十四條ノ書類ヲ添付ス(大正十年陸軍省令第二十號)

前項ノ規定ハ自動車ノ製造ニ關スル業務ノ受繼人ニ付之ヲ準用ス

第五十三條ノ二 保護自動車ノ所有者當該自動車ヲ補助法第二條第一項ニ掲ケル地域ノ外ニ於テ使用セムトスルトキハ其ノ目的、地域及使用期間ヲ具シ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ノ許可ヲ受ケヘシ(大正十年陸軍省令第二十號)

第五十四條 第二十三條ノ資格檢定出願者、第二十九條ノ資格檢査證書ヲ下付セラレタル者、自動車ノ所有者カ住所氏名、名稱ヲ變更シタルトキ又ハ第二十四條若ハ第三十六條第二項ノ法人ニシテ定款ヲ變更シタルトキハ二十日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ニ届出ス(大正十年陸軍省令第二十號)

第二十四條及第三十六條第二項ノ法人ニ在リテハ社員又ハ株主ノ氏名ヲ毎年六月及十二月ノ二回ニ地方長官ヲ經テ陸軍大臣ニ届出ヘシ(同上)

第五十五條 第四十五條、第四十六條、第五十三條若ハ前條ノ届出ヲ怠リタル者、第四十九條第一項若ハ第五十條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第五十二條ノ履歷ノ記載ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十六條 本令ハ補助法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ製造補助金下付願期日ハ大正七年

度ニ限リ大正八年三月十五日迄トス

（大正八年三月十五日迄トス）

第五十七條 補助法附則第二項ニ依リ自動車ヲ

輸入セムトスル者ハ第二十三條、第二十五條及第二十六條ノ規定ニ準シ見本自動車二輛ヲ添へ資格ノ檢定ヲ願出ツヘシ

其ノ檢定檢査ニ付テハ第二十八條及第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 第三十三條ニ依リ合格シタル自動車ノ數カ第八條ニ依リ告示シタル豫定輛數ニ滿テタルトキハ補助法附則第二項ニ依リ補助金ヲ下付ス其ノ金額ハ第七條ノ購買補助金ニ同シ

前項自動車ノ豫定輛數ハ臨時之ヲ告示ス前項自動車ノ檢査及補助金ノ下付ニ付テハ第三十二條第二項及第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第五十七條第二項ニ依リ資格檢定證書ノ下付アリタル自動車ハ前項ノ檢査ニ合格シタルモノト看做ス

第五十九條 第五十七條ニ依ル自動車ニシテ前條第四項ノ檢査ニ合格シタル輛數カ前條第三項ニ依リ告示シタル輛數ニ超過スルトキハ補助金下付願發送日時ノ先ナルモノニ從ヒ順次

保護自動車ヲ決定シ補助金下付願ノ發送日時同一ナルトキハ抽籤ニ依リ決定ス

第六十條 補助法附則第四項ノ自動車ニ付テハ第五十八條第一項乃至第四項及前條ノ規定ヲ準用ス

附則 大正八年陸軍省令第二十九號附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正七年度ノ資格檢定出願ニ係ル見本自動車ニシテ陸軍大臣ニ願出テ許可ヲ得タルモノニ限リ本令ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

（附表及様式略ス）

軍需工業動員法

（大正七年四月十七日法律第三十八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾軍需工業動員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 軍需工業動員法

第一條 本法ニ於テ軍需品ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 兵器、艦艇、航空機、彈藥並軍用器具機

械及物品

二 軍用ニ供シ得ヘキ船舶、海陸聯絡輸送設備、鐵道軌道及其ノ附屬設備其ノ他ノ輸送用物件

三 軍用ニ供シ得ヘキ燃料、被服及糧秣

四 軍用ニ供シ得ヘキ衛生材料及獸醫材料

五 軍用ニ供シ得ヘキ通信用物件

六 前各號ニ掲クルモノノ生産又ハ修理ニ要スル材料、原料、器具機械、設備及建築材料

七 前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル軍用ニ供シ得ヘキ物件

第二條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲必要アルトキハ左ノ各號ニ掲クル工場及事業場並其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得

一 軍需品ノ生産又ハ修理ヲ爲ス工場及事業場

二 前號ニ掲クル工場及事業場ニ要スル原料

若ハ燃料ヲ生産シ又ハ電力若ハ動力ヲ發

生スル工場及事業場
三 前各號ニ掲クル工場ニ轉用スルコトヲ得ル工場

第三條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産、修理又ハ貯藏ノ爲必要アルトキハ土地並家屋倉庫其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ必要アルトキハ第一條第二號ニ掲クル物件ノ全部又ハ一部ヲ管理スルコトヲ得

第四條 前二條ノ場合ニ於テ政府ハ從業者ヲ供用セシムルコトヲ得

第五條 前三條ノ規定ニ依ル處分ニ因リ生シタル損害ハ政府之ヲ補償ス

第六條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品又ハ第二條第二號ノ原料若ハ燃料ノ讓渡、使用、消費、所持、移動若ハ輸出入ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 戰時ニ際シ第一條ニ掲クル物件ニシテ徵發令中ニ規定ナキモノヲ使用又ハ收用セムトスルトキハ徵發令ノ規定ヲ準用ス

第八條 政府ハ戰時ニ際シ兵役ニ在ル者ヲ徵兵令ニ拘ラス勅令ノ定ムル所ニ依リ召集シテ軍事輸送機關又ハ第二條ノ規定ニ依リ政府ノ管理スル工場若ハ事業場ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ第二條各號ニ掲クル工場又ハ事業場ニシテ國ノ經營ニ係ルモノニ關シ之ヲ準用ス

第九條 政府ハ戰時ニ際シ勅令ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ在ラサル者ヲ徵用シテ前條ニ掲クル業務ニ從事セシムルコトヲ得

第十條 第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ收用シタル工場、事業場、土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ五年内ニ拂下クルトキハ萬所有者又ハ其ノ承繼人ニ於テ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十一條 政府ハ軍需品上必要アルトキハ第二條各號ニ掲クル工場若ハ事業場ヲ有スル者又ハ其ノ管理者ニ對シ其ノ事業ニ使用スル設備、器具機械、從業者若ハ材料原料器具機械、供給者又ハ生産發生若ハ修理ノ能力若ハ數量其ノ他事業ノ狀況ニ付必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命スルコトヲ得

第十二條 政府ハ軍需品上必要アルトキハ鐵道、軌道、船舶、海陸聯絡輸送設備其ノ他ノ輸送用物件ノ所有者又ハ管理者ニ對シ車輛、軌條、船舶又ハ海陸聯絡輸送設備ノ數量、構造、輸送能力、從業者其ノ他必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命スルコトヲ得

第十三條 政府ハ軍需品上必要アルトキハ軍需品又ハ第二條第二號ノ原料若ハ燃料ノ取引又ハ保管ヲ業トスル者ニ對シ其ノ取引ノ相手方、取引又ハ保管ノ數量、保管ノ設備其ノ他事業ノ狀況ニ付必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命スルコトヲ得

第十四條 政府ハ軍需品上必要アルトキハ勅令ヲ

定ムル所ニ依リ第二條各號ニ掲タル工場若ハ事業場ヲ有スル者又ハ前條ニ掲タル者ニシテ一定ノ資格アルモノニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ軍需品ノ生産、修理若ハ貯蔵ヲ爲サシメ又ハ軍需品ノ生産、修理若ハ貯蔵ヲ爲サシムルコトヲ得政府ハ前項ノ規定ニ依リ利益保證又ハ獎勵金ヲ下付ヲ受クル事業ヲ監督シ又ハ之カ爲必要ナル命令若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 第五條ノ規定ニ依ル補償金及前條ノ利益保證又ハ獎勵金ノ算定並第十條ノ規定ニ依ル拂下價額ハ軍需評議會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

第十六條 當該官吏又ハ吏員ハ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ報告ヲ命シ得ル事項調査ノ爲メ又ハ第十四條ノ規定ニ依リ監督若ハ處分ヲ爲ス爲必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ從業者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 工業的發明ニ係ル物又ハ方法ニ關シ豫メ政府ノ承認ヲ得タル事項又ハ設備ニ付テハ報告ヲ命シ、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ從業者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得

第十八條 利益保證又ハ獎勵金ヲ受クル事業ヲ承繼スル者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令、之ニ依リテ爲ス處分又ハ利益保證若ハ獎勵金下付ニ附シタル條件ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條又ハ第三條ノ規定ニ依ル管理、使用又ハ收用ヲ拒ミタル者

第四條ノ規定ニ依ル供用ヲ拒ミタル者

第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

戰時ニ際シ前項ノ罪ヲ犯シタルキ罰前條ニ同シ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ規定ニ依ル召集ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ従事スルコトヲ拒ミタル者

第九條ノ規定ニ依ル徵用ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ従事スルコトヲ拒ミタル者

第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲サス又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

第十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十六條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調

査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虛偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十二條 當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務ニ依リ知得シタル事業上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第十七條ノ規定ニ違反シタルキ亦同シ

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルキ罰前項ニ同シ

●軍港要港ニ關スル件

(明治二十三年一月十六日)

陸軍要港ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

軍港要港規則左ノ通定

第一條 軍港要港ノ水域ハ各之ヲ三區ニ分チ別圖點一線以內ヲ第一區ト稱シ二線以內ヲ第二區ト稱シ第一區第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス

第二條 軍港要港ニ入ラントスル船舶ハ軍港要港水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ禁止スル地點マテ萬國船舶信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ但シ鎮守府司令長官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニテアラズ

第三條 軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ碇泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定アルモノノ外其ノ國籍ヲ表明スル旗章ヲ掲揚スヘシ

第四條 軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ碇泊シ若ハ運航スル艦船ハ日没ヨリ日出マテ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第五條 内外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニテアラザレハ第一區第二區ニ入ルコトヲ許サス又第一區第二區ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ掲ケテ鎮守府司令長官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第六條 第三區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限リ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃燒シ易キ物ヲ積載スル艦船ハ港務部長特ニ其ノ箇地ヲ指示スルコトアルヘシ

第七條 第一區第二區ニハ海軍所屬艦船ノ外ハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得テ入ルコトヲ許サス

舞鶴要港ニ於テ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ニハ前項ノ規定ヲ適用セシ但シ舞鶴要港地ニ出入スル船舶ハ要港部司令官ノ指定スル航路ニ依ルテ要ス

海軍兵學校前部即チ別圖點三線以內ニ於テハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニテアラザレハ海軍所屬艦船ノ外艦船ヲ碇泊スルコトヲ禁ス又海軍兵學校用地内ニ於テ赤旗ヲ掲ケタルキハ總テ艦船ノ該點三線以內ヲ通航スルコトヲ禁ス

●軍港要港規則

(明治三十三年四月三十日)

第一條 軍港要港ノ水域ハ各之ヲ三區ニ分チ別圖點一線以內ヲ第一區ト稱シ二線以內ヲ第二區ト稱シ第一區第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス

第二條 軍港要港ニ入ラントスル船舶ハ軍港要港水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ禁止スル地點マテ萬國船舶信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ但シ鎮守府司令長官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニテアラズ

第三條 軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ碇泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定アルモノノ外其ノ國籍ヲ表明スル旗章ヲ掲揚スヘシ

第四條 軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ碇泊シ若ハ運航スル艦船ハ日没ヨリ日出マテ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第五條 内外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニテアラザレハ第一區第二區ニ入ルコトヲ許サス又第一區第二區ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ掲ケテ鎮守府司令長官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第六條 第三區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限リ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃燒シ易キ物ヲ積載スル艦船ハ港務部長特ニ其ノ箇地ヲ指示スルコトアルヘシ

第七條 第一區第二區ニハ海軍所屬艦船ノ外ハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得テ入ルコトヲ許サス

舞鶴要港ニ於テ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ニハ前項ノ規定ヲ適用セシ但シ舞鶴要港地ニ出入スル船舶ハ要港部司令官ノ指定スル航路ニ依ルテ要ス

海軍兵學校前部即チ別圖點三線以內ニ於テハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニテアラザレハ海軍所屬艦船ノ外艦船ヲ碇泊スルコトヲ禁ス又海軍兵學校用地内ニ於テ赤旗ヲ掲ケタルキハ總テ艦船ノ該點三線以內ヲ通航スルコトヲ禁ス

ヲ禁ス

第八條 第一區第二區ニ於テハ艦船ノ進退ハ排水噸數十五噸以下ノ船舶ヲ除クノ外總テ港務部長ノ指示ニ從フヘシ但シ天災其ノ他不時ノ事故ニ依リ其ノ指示ヲ待ツ能ハサル場合ニハ此ノ限ニアラス(明治三十三年海軍省令第二號)

舞鶴要港ニ於テハ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ第二區ニ在ルトキト雖港務部長ノ指示ヲ待ツ要セス(明治三十三年海軍省令第二號)

第九條 外國ノ艦船ハ特別ノ事由アルニアラサレハ夜中ニ軍港要港ノ水域ニ入ルコトヲ許サス

第十條 鎮守府司令長官ハ必要ナル場合ニハ在港艦船ニ鋪地ノ變換若ハ退去ヲ命スルコトヲ得

第十一條 鎮守府司令長官ハ第一區ニ入り又ハ入ラントスル艦船ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトヲ得

第十二條 凡テ艦船ハ鎮守府司令長官ノ特許アルモノノ外火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ入ルコトヲ禁ス汽罐點火中ノ小蒸汽船其ノ他火氣ヲ有スル一切ノ船舶亦同シ

第十三條 軍港要港境域内ニ於テハ砲臺砲及鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノノ外火器若ハ爆發物ノ發射發火ヲ禁ス但シ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト七十五間以内ニ於テハ砲臺砲ト雖特ニ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切發射發火ヲ爲スコトヲ許サス

ス

第一區第二區其ノ他第一區第二區及第三區第一區ニ於テハ鎮守府司令長官ノ特許ヲ得スシテ漁獲採藻ヲ爲シ又ハ漂流物若ハ沈沒物ヲ拾得スルコトヲ禁ス(明治三十三年海軍省令第二號)

航路ノ妨害トナリ又ハ水中敷設物アル第三區内ノ水域モ亦前項ニ準ス(明治三十三年海軍省令第二號)

第十五條 第一區第二區及其ノ海岸並之ニ注入スル水流ニハ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス

鎮守府司令長官ハ必要アリト認ムルトキハ第三區及其ノ海岸ニ物件ヲ委棄ヲ禁シ臨時委棄ノ場所ヲ指示スルコトヲ得

艦船若シ其ノ委棄スヘキモノヲ自カラ處分スルコト能ハサルトキハ港務部長ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ(明治三十三年海軍省令第二號)

第十六條 鎮守府司令長官ハ軍港要港水域内ニ於ケル有害ナル雜物、委棄物若ハ其ノ他ノ物件ハ原因ノ如何ニ關セズ其ノ義務者ヲシテ之ヲ指定ノ期限内ニ除去セシムルコトヲ得其ノ義務者ヲ除クニ見込ナキトキハ鎮守府司令長官ハ自ラ之ヲ除去ハ破壊シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ除去若ハ破壊セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

其ノ義務者不明ナルトキハ鎮守府司令長官ハ之ヲ除去若ハ破壊スルコトヲ得

第十七條 軍港要港境域内ノ山林原野ニ於テハ濫リニ焚火スヘカラス

第十八條 軍港要港境域内ニ於テ左ニ掲クル諸項ノ新營若ハ變更ヲサントスルモノアルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ニ協議シテ之ヲ處理スヘシ

- 一 棧橋ノ架設、埠頭ノ築造
- 二 河床ノ變更、河川海面ノ埋立浚渫、海岸ノ掘鑿、海岸ニ於ケル石垣ノ築造
- 三 道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設
- 四 地盤ノ開鑿及埋築(明治三十三年海軍省令第二號)
- 五 森林ノ伐採
- 六 軍港要港ノ水域内ニ發著スヘキ海運ノ營業
- 七 漁業權ノ設定(明治三十三年海軍省令第二號)
- 八 浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置
- 九 第一區第二區ノ沿岸ニシテ水而若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以内ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築(明治三十三年海軍省令第二號)

第十九條 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得シテ軍港要港境域内ヲ航空シ又ハ同境域内水陸ノ形狀ヲ測量、攝影、模寫、錄取シ若ハ地理案内等ノ圖書ヲ發行スルヲ禁ス但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル鐘測ハ此ノ限ニ在ラス(明治三十三年海軍省令第二號)

第二十條 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ軍港要港境域内ニ於テ無線電信無線

電話ヲ發信スルコトヲ得ズ但シ船舶航行中ノ通信及遭難通信又ハ軍用通信ハ此ノ限ニ在ラズ(明治三十三年海軍省令第二號)

第二十條 鎮守府司令長官ハ軍港要港境域内ニ入り兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ニ軍港要港境域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ軍港要港境域内衛生ノ事ニ關シテハ鎮守府司令長官ニ協議スヘシ

第二十二條 鎮守府司令長官ハ海軍用地ニ接近スル一般公路ニ於テ取締上必要ナリト認ムルトキハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得

鎮守府司令長官ハ海軍用地ノ内取締上差支ナシト認ムル區域ニ限り一般人民ニ通行ヲ許スコトヲ得

第二十三條 軍港要港ノ境域並其ノ區劃等ヲ表示スル標石標木標札ノ類若ハ其ノ水域内ニ設クル浮標等ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞スルコトヲ禁ス

第二十四條 軍港要港ノ取締ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定ム

第二十五條 要港ニ於テハ本則ニ規定セル鎮守府司令長官ノ職務ハ要港部司令官、港務部長ノ職務ハ要港部港務部長之ヲ行フ(明治三十三年海軍省令第二號)

附則

第二十六條 本則中地方長官ニ關スル規定ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣

總督ニ之ヲ適用ス(明治三十三年海軍省令第二號)

第二十七條 (明治三十三年海軍省令第二號)

第二十八條 本則ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

第二十九條 明治二十九年海軍省令第六號橫須賀軍港規則同年海軍省令第七號吳軍港規則同年海軍省令第八號佐世保軍港規則同年海軍省令第十三號竹敷軍港規則及同三十年海軍省令第十四號舞鶴軍港規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●軍港要港規則違反者處分

陸軍要港規則違反者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

軍港要港規則違反者處分ノ件

九五九

軍機保護法

(明治三十二年七月十五日)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル軍機保護法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

軍機保護法

第一條 軍機上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコ
トヲ知テ之ヲ探知收集シタル者ハ重懲役ニ處
シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス
第二條 職務ニ因リ軍機上秘密ノ事項又ハ圖書
物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タルコトヲ
知テ之ヲ他人ニ漏洩交付シ若ハ之ヲ公示シタ
ルトキハ有期懲役ニ處ス
第三條 偶然ノ原由ニ因リ軍機上秘密ノ事項又
ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ秘密タル
コトヲ知テ之ヲ他人ニ傳説交付シ若ハ之ヲ公
示シタルトキハ輕懲役ニ處ス
第四條 許可ヲ得シテ軍港要港防禦港又ハ保
壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸
般ノ防禦營造物ヲ測量模寫攝影シ又ハ其ノ狀
況ヲ錄取シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁
錮ニ處シ又ハ二回以上三百圓以下ノ罰金ニ處
ス
因テ第一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重キニ從テ處
斷ス
第五條 許可ヲ得ス又ハ詐僞ノ所爲ニ因リ許可
ヲ得テ保壘砲臺水雷衛所其ノ他國防ノ爲建設
シタル諸般ノ防禦營造物内ニ入りタル者亦前
條ノ例ニ同シ

第六條 本法ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ
未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷
ス

第七條 本法ノ罪ヲ犯シ因テ財物ヲ得タル者ハ
其ノ財物ヲ沒收シ既ニ費消シタルトキハ其ノ
價額ヲ追徵ス

第八條 本法ハ刑法第二編第二章第二節外患ニ
關スル罪陸軍刑法第二編第一章反亂ノ罪海軍
刑法第二編第一章反亂ノ罪ニ關スル規定ノ效
力ヲ妨ケス

軍衛間囚人及刑事被告人押送規則

(明治三十二年十月十六日)

朕軍衛間囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

軍衛間囚人及刑事被告人押送規則

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ陸軍ニ於テ
ハ陸軍兵員海軍ニ於テハ海軍兵員憲兵若ハ海
軍警査ヲシテ之ヲ爲サシム但シ被押送者在監
人ナルトキハ陸軍監獄若ハ海軍監獄看守長看
守ヲシテ押送セシムルコトヲ得
第二條 囚人及刑事被告人ヲ押送セントスルト
キハ發送官衛ニ於テ押送狀ヲ作り被押送者ニ
關スル必要ナル書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押
送者ニ交付スヘシ
押送狀ニハ被押送者ノ本籍住所所屬身分氏名
年齡、刑名刑期又ハ被告事件人相並著用被服
所持品送致貨物品書類ノ目錄等ヲ記載スヘ
シ
押送者ハ押送路、宿泊、被押送者ノ傷痲疾
病履行其ノ他押送中ニ生シタル重要ナル事項
ヲ押送狀ニ記入スヘシ
第三條 傷痲ヲ受ケケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ醫
師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非サレハ之ヲ押
送スルコトヲ得ス
第四條 被押送者ノ所持スル貨物品ヲ被押送
者ト同時ニ送致スルトキハ左ノ手續ニ依ルヘ
シ

一 物品ハ押送者ニ託シテ送致ス但シ危險ノ
虞ナル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物
品ハ此ノ限ニ在ラス
二 貨物ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手
續ニ依リ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ
押送期間一日以上ニ互ラサル場合及刑事
被告人ニ屬スル貨物ニシテ本人ノ請求ア
ル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得
前項ニ依リ送致スル貨物品ハ押送者ニ託ス
ル場合ニ於テハ押送官衛ノ保管ニ屬シ押送者
ニ託セサル場合ニ於テハ發送官衛ノ保管ニ屬
ス
第五條 押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若ハ特別ノ
事由アルトキノ外日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲
スコトヲ得ス
第六條 押送中宿泊ヲ要スルトキハ被押送者ヲ
陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シテ宿泊セシメ
陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署
若ハ警察分署ニ付託シテ宿泊セシムヘシ
前項ノ官署ナキ地ニ於テハ適宜被押送者ノ宿
泊ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ憲兵警
察官及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
第七條 押送中被押送者傷痲ヲ受ケ又ハ疾病ニ
罹リタルトキハ押送者ハ速ニ相當ノ手當ヲ爲
スヘシ此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官及市町
村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
第八條 押送中押送者逃走ヲ謀リ又ハ暴行ヲ
爲サムトシ其ノ他押送ヲ全クスルコトヲ得サ
ル處アルトキハ押送者ハ憲兵及警察官吏ノ助

力ヲ求ムルコトヲ得
第九條 押送中押送者ノ傷痲疾病其ノ他已ム
コトヲ得サル事由ニ因リ押送ヲ停止ヲ要スル
トキハ押送者ハ一時被押送者ヲ陸軍監獄若ハ
海軍監獄ニ付託シ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ
地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託スルコ
トヲ得
押送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ押送官衛ニ
通知シ指揮ヲ待ツヘシ
第十條 押送中押送者死亡シタルトキハ押送
者ハ速ニ其ノ旨ヲ本人所屬ノ官衛發送押送受
送ノ各官衛本籍市町村長及近在所在ノ親族ニ
通知シ醫師ヨリ死亡證書ヲ徵シ死亡後二十四
時ヲ經死體引取人ナキトキハ其ノ地ニ於テ假
埋葬ヲ爲スヘシ但シ死體引渡及埋葬ニ付本人
所屬ノ官衛若ハ押送官衛ヨリ別段ノ指示アリ
タルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ
前項ノ處分ヲ爲スニ付テハ憲兵警察官及市
町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
第十一條 押送中押送者逃走シタルトキハ押
送者ハ直ニ其ノ旨ヲ最寄ノ憲兵屯所憲兵分屯
所警察署警察分署巡査派出所若ハ巡査駐在所
ニ急報シ且速ニ發送押送受送ノ各官衛ニ通知
シ第二條及第四條ニ記載シタル書類貨物及物

品ヲ押送官衛ニ返付スヘシ
第十三條 被押送者傳染病流行地ヲ經過シタル
トキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ
第十四條 本令ニ於テ押送官衛ト稱スルハ押送
者ノ屬スル官衛ヲ謂フ

貨幣法

明治三十年三月二十九日
法律第十六號
明治三十年三月二十九日
法律第十六號
明治三十年三月二十九日
法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貨幣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス
第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス
第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス
金貨幣
一圓
五圓
十圓
二十圓
五十圓
一百圓
白銅貨幣(圓)
十圓
五圓
青銅貨幣
一圓
五圓
第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用シ一分ノ一ヲ厘ト稱ス
第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一 金貨幣

純金九百分參和銅一百分
純銀七百二十分參和銅二百八十分

二 銀貨幣

純銀七百二十分參和銅二百八十分

三 白銅貨幣

純銀七百二十分參和銅二百八十分

四 青銅貨幣

純銀七百二十分參和銅二百八十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ
一圓
五圓
十圓
二十圓
五十圓
一百圓
第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス
第八條 白銅貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス
第九條 青銅貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス
第十條 金銀貨幣ノ公差ハ左ノ如シ
一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ越スルコトヲ得ス
一圓以上ハ一圓ノ百分ノ一ヲ越スルコトヲ得ス

分二厘五圓ハ每片四毛三二一枚毎ニ四分

一厘トス

二 銀貨幣

一厘トス

三 白銅貨幣

一厘トス

四 青銅貨幣

一厘トス

第十一條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十四金貨幣
第十二條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目
第十三條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目
第十四條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目
第十五條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目
第十六條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ通用最輕量目

黃燐燐寸製造禁止法

前年內ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取換フヘシ
第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ
第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス
第十九條 此ノ法律ニ根據スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス
第二十條 此ノ法律ハ第十八條ノ除外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル黃燐燐寸製造禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 黃燐燐寸製造業者ハ其ノ製造ニ黃燐ヲ使用スルコトヲ得ス
第二條 黃燐燐寸製造業者ハ其ノ製造ニ黃燐ヲ使用スルコトヲ得ス
第三條 黃燐燐寸製造業者ハ其ノ製造ニ黃燐ヲ使用スルコトヲ得ス
第四條 黃燐燐寸製造業者ハ其ノ製造ニ黃燐ヲ使用スルコトヲ得ス
第五條 黃燐燐寸製造業者ハ其ノ製造ニ黃燐ヲ使用スルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二條ノ規定ハ本法施行前ニ製造シ又ハ輸入若ハ移入シタル燐寸ニ付テハ本法施行後一年間之ヲ適用セス

華族令

明治四十年五月八日

朕華族令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 凡ソ有爵者ヲ華族トス
第二條 爵ハ公侯伯子男ノ五等トス
第三條 爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮内大臣之ヲ奉行ス
第四條 有爵者ハ其ノ爵ニ相當スル禮遇ヲ享ク
第五條 有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク
第六條 有爵者ノ家ニ在ルトキハ特ニ從前ノ禮遇及名稱ヲ享クシメ其ノ家ノ戶主トナリタルトキ又ハ雙爵者ナクシテ其ノ家ニ在ルトキハ其ノ者ニ限リ特ニ華族ノ族稱ヲ保有セシム

ノ時ヨリ三箇年內ニ家督相續ノ届出ヲ爲ササルトキ

一 禁治産者及準禁治産者
二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
三 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者
四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者
第八條 有爵者ハ法律命令及華族ニ關スル規程ノ範圍內ニ於テ家督ヲ定ムルコトヲ得
第九條 有爵者ハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ
第十條 有爵者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ家督ヲ定ムルハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス
第十一條 有爵者ハ男子ノ家督相續人ヲシテ之ヲ襲カシム

第十三條 有爵者及其ノ家族ノ身分ニ關シ監督上必要ナル事項ハ宮内大臣之ヲ管掌ス
第十四條 有爵者婚姻、養子縁組、隠居、協議上ノ離婚若ハ離縁又ハ家督相續人ノ指定若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ戶籍吏ニ其ノ届出ヲ爲ス前、隱居ヲ爲スニ付キ裁判所ノ許可ヲ要スル場合ハ其ノ許可ヲ請求スル前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ
第十五條 有爵者遺言ヲ以テ養子縁組ヲ爲シ又ハ家督相續人ノ指定ヲ爲スノ意思ヲ表示シタルトキハ養子トナル者又ハ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ニ在リテハ其ノ承諾ヲ爲ス前、被指定者又ハ其ノ法定代理人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

華族令施行規則

ル者又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ
前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セズ
第十七條 有爵者ノ家族婚姻、養子縁組、分家、廢絶家再興又ハ他家相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ
前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セズ
第十八條 有爵者又ハ其ノ法定代理人其ノ家ニ入ル者ノ入籍ニ同意ヲ爲サムトスルトキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第十八條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ入籍者ハ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス
第二十一條 有爵者死刑又ハ懲役ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ
有爵者ノ婦前項ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ禁止ス
第二十二條 第五條第二項ノ禮遇ヲ享クヘキ者又ハ有爵者ノ家族前條ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ失フ
新ニ爵ヲ授ケラレタル者ノ家族ニシテ前條ノ場合ニ該當スル者アルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス
第二十三條 有爵者又ハ第五條、第六條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ禁止ス
一 華族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者
二 宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シテ情狀重キ者

第二十七條 第二十四條第六項、第二十三條、第二十四條ノ處分ハ勅旨ヲ經テ宮内大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ
前項ノ處分及解除ニ付テハ宗秩寮審議會ノ審議ヲ經タル後勅旨ヲ經ヘシ
附則
本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治十七年來勅達華族令及明治三年九月十日太政官布告宮立ニ華族家人職員ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス